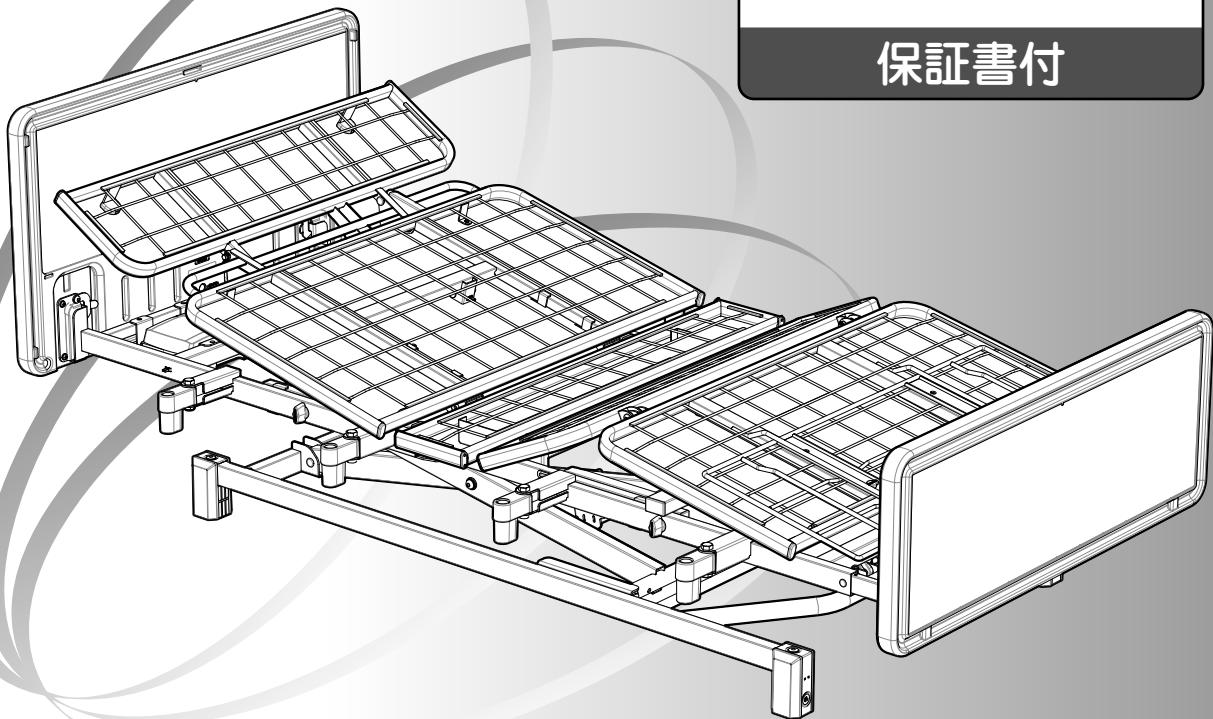


在宅介護向け電動ベッド Emi エミ

Emi(エミ) [WRシリーズ]

取扱説明書

保証書付



ベッドを正しくお使いいただくために シーホネンスからのお願い

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書にはご使用上の注意事項や操作方法が記載されています。
- ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになって、正しくお使いください。
- ベッドを使用される方ばかりでなく、付き添いの方にも安全な操作方法を説明してください。
- お読みになった後も、いつでも見られる場所に大切に保管してください。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または弊社までお問い合わせください。
- このベッドは日本国内専用です。電源電圧が異なるため海外では使用できません。



シーホネンス株式会社

ベッドの使用目的・特長

「在宅介護向け電動ベッドEmi」は、主に介護施設やご家庭でベッドを使用する方の動作を助けること、介護する方の介護負担を軽減することを目的として作られたベッドです。

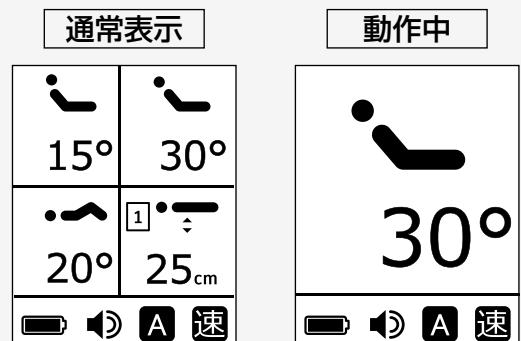
● ベッドには主に次のような特長があります。

1. 電源ボタンと動作ロック機能の採用で誤操作を防止

- ◆一定時間(5分)手元スイッチを操作しないときは、電源が自動で切れます。電源が切れた状態で、誤って操作ボタンが押されてもベッドが動くことはありません。
- ◆動作ロック機能により、個別または全ての操作をロックできます。

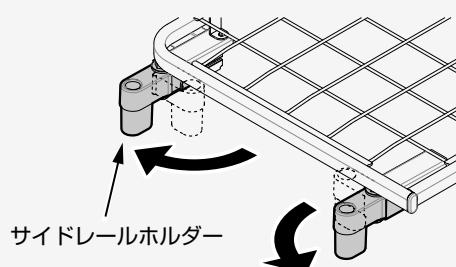
2. 一目でわかる液晶表示

- ◆頭、背、足の角度および高さが数値でわかります。
- ◆動作中の角度または高さが拡大されて表示されます。



3. 収納式サイドレールホルダー

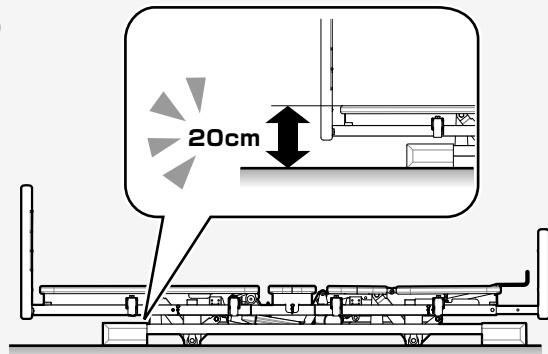
- ◆サイドレールホルダーを収納すると、足元の突起物が無くなり、端座位や離床を安心しておこなうことができます。また、ベッドをご使用の方や介助者が接触してケガをするリスクを軽減します。



4. 低床20cm（通常25cm）

（ゆかからボトム上面までの高さを示しています）

- ◆乗り降りしやすく安定した端座位をとることができます。
- ◆最高床高62.5cm（通常設定時は67.5cm）まで上がり、介護などの負担を軽減します。
- ◆脚座の取り付け方を変更することにより、ベッド高さを通常（25～67.5cm）を低床（20～62.5cm）に切り替えることができます。



5. 高性能リニアアクチュエータ

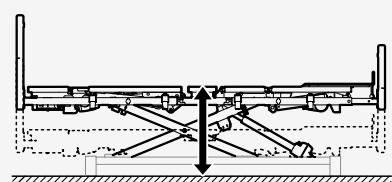
- ◆安定して動作する静音・高推力アクチュエータを採用しています。
- ◆「低電圧DC24Vシステム」で、万一の漏電にも安全です。

6. メッシュボトム構造

- ◆通気性に優れているため、湿気を発散し、雑菌の繁殖やカビの発生を防ぎます。
- ◆高強度溶接により、剛性と弾力性を兼ね備えています。

7. 垂直ハイロー

- ◆ベッド高さをまっすぐ垂直昇降できるため、お部屋を有効に活用できます。



取扱説明書

—もくじ—

もくじ内の〔利用者さま〕のタグが付いた項目は、主にベッドを使われるかた、
〔販売店さま〕のタグが付いた項目は、主に販売店さまが対象になります。



はじめに

利用者さま

使いかた

利用者さま

設置

販売店さま

ページ

主要部の名前とはたらき	1
安全にお使いいただくために	2~8
表示と絵表示について	2
警告ラベルについて	2
操作のしかた	10
手元スイッチの各部の名前とはたらき	11~19
ベッド／手元スイッチの電源の入れかた	13
ヘッドレストの調節について	13
背ボトムの調節について	14
膝ボトムの調節について	14
角度制限機能について	14
背上げ脚運動モーションについて	15
背上げ脚運動の切り換えかた	16
高さの調節について	17
動作ロック機能について	18
お好みボタンについて	19
水平ボタンについて	20
手元スイッチのエラーからの復旧について	20~21
設定モードについて	22~23
設定モードへの移行方法	22
設定モード中の操作ボタンについて	23
操作画面への復帰方法	23
設定モードでの操作方法について	23
各種設定の詳細	24~30
音量設定	24
全動作ロック設定	24
速さ設定	25
ベッド高さ設定	25
連動設定	26
頭曲げ位置設定	27
ソフトウェア	28
操作ログ	29
初期化	30
設置場所について	31~32
手元スイッチの取り付けかたについて	32
開梱と部品の確認	33~34
組み立てかた	35~53
STEP1 ハイローベースユニットの組み立て	35
STEP2 脚座の取り付け	36
STEP3 センターユニットの取り付け	37
STEP4 リアユニットの取り付け	38~39
STEP5 フロントユニットの取り付け	40~41
STEP6 背上げ脚運動モーションユニットの取り付け (WR2のみ)	42
STEP7 背ボトムの取り付け	43~44
ヘッドレストの曲げ位置調節について	45
STEP8 コードの配線と動作確認	46~47
STEP9 座ボトムの取り付け	48
STEP10 膝・脚ボトムの取り付け	49

設置

販売店さま

オプション

販売店さま

分解

販売店さま

こんなときは

利用者さま・販売店さま

ページ

脚先角度調節について	50
STEP11 マットレス止め金具の取り付け	51
STEP12 マットレス止めの取り付け	52
STEP15 ヘッドボード・フットボードの取り付け	53
組み立て後の点検	54
サイドレールホルダーの使用方法	55
サイドレール	55
レギュラーサイズの組み合わせ表	56
ショートサイズの組み合わせ表	57
ロングサイズの組み合わせ表	58
サポートグリップ K-95	59
回転式介助バー K-55R/K-47R/K-45R/K-40RX	60
キャスターSET K-128WR/K-129WR	61～62
部品の確認	61
取り付けかた	61～62
ハイ特斯ペーサー K140WR	63
部品の確認	63
取り付けかた	63
延長マットレス LBU-MB830/LBU-MB900	64
部品の確認	64
取り付けかた	64
後付けフットモーターユニット	65～67
部品の確認	65
取り付けかた	65～67
取り外した部品	67
Emi用バッテリー	68
介護リフト使用時のご注意	69
脚座保護パッド K-145	69
マットレス	70
分解の前に	71
分解のしかた	71～
STEP1 ヘッドボード・フットボードの取り外し	71
STEP2 マットレス止め金具の取り外し	72
STEP3 膝・脚ボトムの取り外し	73
STEP4 背ボトムの取り外し	74
STEP5 座ボトムの取り外し	75
STEP6 背上げ脚運動モーションユニットの取り外し	76
STEP7 リアユニットの取り外し	77
STEP8 フロントユニットの取り外し	78
STEP9 センターユニットの取り外し	79
STEP10 脚座の取り外し（脚座を取り外して保管する場合）	80
STEP11 ハイローベースユニットの分解	81
付属部品と分解したユニットの保管	82
日常のお手入れ	83
故障かな？と思ったら	83
緊急時の背下げ操作（停電・故障時などの対応）	84
手動での背下げ方法	84
もどしかた	84
保管と移動	85
組み立てた状態で保管する場合	85
組み立てた状態で移動する場合	85
分解して保管または移動する場合	85
仕様	86～87
保証とアフターサービス	裏表紙

はじめに

使いかた

設置

オプション

分解

こんなときは

はじめに

主要部の名前とはたらき

●手元スイッチ

[11~30、32ページ参照]

ベッドの高さ、ボトムの角度を無段階で調節できます。
上部に付いているフックで、
ボードまたはサイドレールなどの外側に掛けてください。
※操作(動作)については、「使い
かた」を参照してください。



●電源プラグ

●電源ボックス

●マグネットキー

[22ページ参照]

設定モードに移行する
ときに使用します。

●脚座

[17、25、36、80ページ参照]

- ・通常(25cm)を低床(20cm)
に切り替えることができます。
(手元スイッチの「ベッド高さ設
定」が必要です)
- ・左右に4ヶ所あります。

●ヘッドボード

[53、71ページ参照]

イラストは樹脂ボードです。
他に木製ボードがあります。

●ヘッドレスト

[13、27、45ページ参照]

機構の支点を変えることにより、曲げ位置を
変更することができます。

●フットボード

[53、71ページ参照]

イラストは樹脂ボードです。
他に木製ボードがあります。

●背ボトム

せ

●座ボトム

ざ

●膝ボトム

ひざ

●脚ボトム

あし

●サイドレールホルダー

[55ページ参照]

オプションを取り付けられます。
片側にそれぞれ4ヶ所あります。

●マットレス止め金具

[51ページ参照]

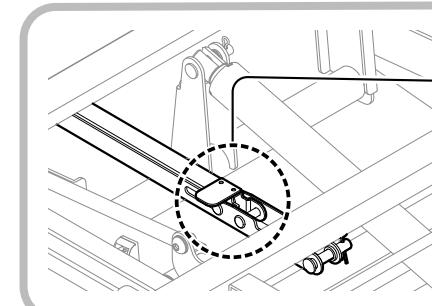
マットレスがあし側に
ずれることを防ぎます。

[WR2のみ]

●背上げ脚運動切り替えレバー

[16ページ参照]

「背上げ脚運動」と「背上げ」の
切り替えができます。



安全にお使いいただくために

必ずお読みください

必ずご使用前に『安全にお使いいただくために』をよくお読みになり正しくお使いください。
ベッド本体とオプションを安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためです。

表示と絵表示について

説明書の内容を無視し、誤った使いかたをしたときに生じる危険や損害の程度を下の表示（絵表示と用語）で区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷（骨折・圧迫・麻痺など）を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がケガを負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

<絵表示の例>



感電注意

△記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図中の中には具体的な注意内容（左の図の場合には『感電注意』）が描かれています。



分解禁止

○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図中の中には具体的な禁止内容（左の図の場合には『分解禁止』）が描かれています。



必ず守る

●記号は、必ず実行していただく強制の内容があることを告げるものです。左図は、「必ず守る」を示しています。

ベッドのご使用時には、下記の項目の『警告』および『注意』を必ずお読みください。

警告ラベルについて [下記参照](#)

警告内容について [3~7 ページ 参照](#)

注意内容について [8~9 ページ 参照](#)

警告ラベルについて

ベッドをお使いになる方に対して、特に注意していただきたいことをラベルにして、各ユニットなどに貼っています。

警告ラベルは、はがしたり傷をつけたりしないでください。

- ・警告ラベルが傷ついたり、はがれたりした場合は、販売店もしくは弊社カスタマーサポートから新しい警告ラベルを取り寄せ、貼り直してください。

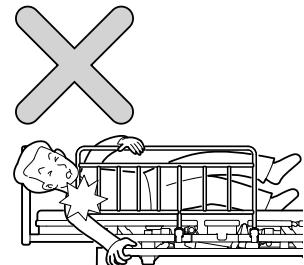


警 告 以下の項目は、守らなければ死亡または重傷（骨折・圧迫・麻痺など）を負う可能性が想定されます。

●サイドレールやヘッド・フットボードのすき間に注意する

- ・身体の一部（特に頭や首）がサイドレールとサイドレール・回転式アーム介助バーなどのすき間、サイドレール・回転式アーム介助バーなどとヘッド・フットボードや各ボトム・マットレスなどのすき間に入らないように注意してください。すき間にに入った状態でベッドを操作すると、はさまれてケガをするおそれがあります。
- ・また、すき間にはさまれたり、入ると抜けなくなったりするなどして、ケガをするおそれがあります。
- ・以下の項目に注意してください。
 - ①サイドレールなどの内側のすき間
 - ②2本のサイドレールなどの間のすき間
 - ③サイドレールなどとボードのすき間
 - ④サイドレールなどとボトム・マットレスのすき間（高さ方向）
 - ⑤サイドレールなどとボトム・マットレスのすき間（幅方向）
 - ⑥ボード内部のすき間
 - ⑦ボードとマットレスのすき間
 - ⑧あがっているボトムとボード・サイドレールなどのすき間など
- ・特に予測のできない行動をとると思われる方や、体位を自分で保持できない方、自分で危険な状態から回避できないと思われる方につきましては、十分注意してください。

▶ 55～60 ページ 参照



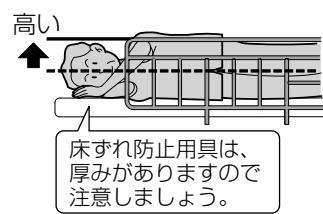
必ず守る

●マットレスの厚みとサイドレールの高さに注意する

厚みのあるマットレスを使用する場合は、サイドレールの有効寸法高さが低くなり、サイドレールを乗り越えやすくなりますのでご注意ください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。

最大マットレス厚（17cm）を超えない厚みのマットレスを使用してください。▶ 70 ページ 参照

高さの高いサイドレールが必要な場合は弊社カスタマーサポートにお問い合わせください。



●サイドレールを使用するときはベッドからの転落に注意する

サイドレールとサイドレール・回転式アーム介助バーなどのすき間やヘッド・フットボードとサイドレール・回転式アーム介助バーなどのすき間から転落してケガをするおそれがあります。また、ヘッド・フットボード・サイドレール・回転式アーム介助バーなどの上から身を乗り出して転落し、ケガをするおそれがあります。

ベッドの背ボトムを上げた状態で使用する場合、転落防止としての効果を十分に発揮できないおそれがあります。

特に予想できない行動をとると思われる方や、体位を自分で保持できない方、自分で危険な状態から回避することができないと思われる方につきましては、十分注意してください。



必ず守る

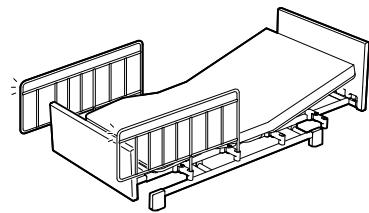
●オプション部品は正しい向きで取り付ける



必ず守る

サイドレールや回転式アーム介助バーなどのオプション部品を取り付ける際は、正しい向きで取り付けてください。

ベッドから転落したり、意図せぬすき間が発生して身体の一部がはざまれたりして、ケガをするおそれがあります。
正しい向きでの取り付けかたについては、必ず各オプションの「取扱説明書」を参照してください。



●ベッドの下にもぐり込んだり、身体の一部を入れない

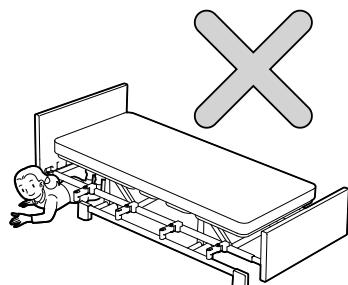


禁 止

ベッドの可動部分（ボトムなど）とフレームやサイドレール、回転式アーム介助バーなどとの間に身体の一部（頭や手、足）をはさんでケガをするおそれがあります。

ベッドの操作時は、ベッドの下や周りに障害物がないことを確認して操作してください。

やむをえずベッドの下にもぐり込んだり、身体の一部を入れる必要がある場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



●オプション部品やヘッドボードなどに腰掛けたり、踏み台代わりにしたり、足をかけて立ち上がらない



禁 止

サイドレールや回転式アーム介助バーなどのオプション部品やヘッド・フットボードに腰掛けたり、踏み台代わりにしたり、足をかけて立ち上がったりしないでください。

乗り降りの際は、足元のスペースを確保し、足がしっかりとゆかにつくようにベッド高さを調節してください。

ベッドから転倒・転落してケガをしたり、ベッドやサイドレール・回転式アーム介助バー、ロングボトムユニットなどが破損・変形するおそれがあります。



●操作が理解できないと思われる方に操作させない



禁 止

操作が理解できないと思われる方（お子さまや見当識に障害のある方など）が1人で手元スイッチを操作した場合、誤ってベッドに身体がはざまれるなど、思わぬケガをするおそれがあります。1人で手元スイッチに触れる可能性がある場合は、次のいずれかの方法により操作を制限し、誤操作による事故を未然に防いでください。

・手元スイッチの動作ロック機能で「高さの操作」または「全ての操作」をロックしてください。手元スイッチに付属している専用キーを切り離して紛失しないよう保管してください。[18、24 ページ 参照](#)

動作ロックの設定後、手元スイッチのロックランプが点灯し、液晶画面にロックアイコンが表示されていることと、動作ロックを設定した手元スイッチのボタンを押して正しく設定されているか必ず確認してください。

・電源プラグを抜いてください。



●ベッドをご利用の方に注意して操作する



必ず守る

ベッドを操作するときにオプションや突起物に衣類などが絡まないように注意してください。衣類などが引っ張られるなどしてケガをするおそれがあります。

ベッドをご利用の方がボトムの角度やベッドの高さ調節中に動くと、ベッドから転落したり、サイドレール・回転式アーム介助バーなどや各ボードなどとのすき間にはさまれたりして、ケガをするおそれがあります。

無意識にボタンが押されることのないように手元スイッチは安全な位置においてください。 **32 ページ 参照**

特に予測のできない行動をとると思われる方や、体位を自分で保持できない方、自分で危険な状態から回避できないと思われる方につきましては、十分注意してください。



●ベッドからの転倒・転落に十分注意する



必ず守る

ベッドの乗り降りや車いすへの移乗のときにオプションや突起物に衣類などが絡まないように注意してください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。

特に介護者などがベッドから離れたり、ベッドをご使用の方から一時的に目を離したりする際は、万一のベッドからの転落に備え、ご使用の方の状況に応じてボトムの角度を水平にしてベッドの高さを一番低い位置にしてください。

思わぬケガをするおそれがあります。

●乳幼児やお子さまには使用しない



禁 止

本製品は、乳幼児やお子さま向けに設計されていません。サイドレールなどのすき間に身体の一部がはさまれて、ケガをするおそれがあります。

サイドレールを使用していてもすき間から転落して、ケガをするおそれがあります。

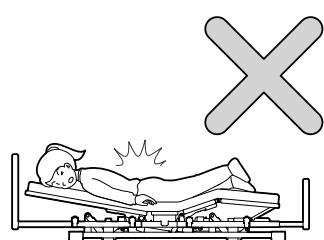
●うつ伏せや無理な姿勢での角度調節はおこなわない



禁 止

うつ伏せや無理な姿勢（仰向け以外）での角度調節は、ケガをするおそれがあります。

また、ベッドの頭側と足側を間違えた状態での角度調節も無理な姿勢となり、ケガをするおそれがあります。



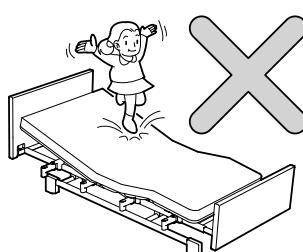
●ベッドを踏み台の代わりにしたりベッドの上で飛び跳ねたりしない



禁 止

ベッドから転倒・転落してケガをしたり、ベッドが故障したりするおそれがあります。

特にお子さまにご注意ください。



●上がっている背ボトムや背ボトムに取付けられたオプション部品を手すりの代わりにしない



禁 止

無理に体重をかけたりすると、破損・抜け・変形などがおこり、転倒・転落してケガをするおそれがあります。

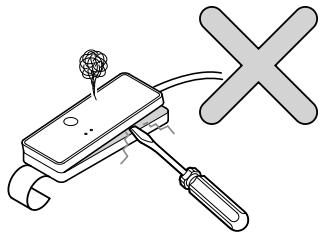
●電装品の分解、改造はしない



禁 止

意図せぬすき間の発生や異常動作などにより、ケガをするおそれがあります。

弊社指定の技術者以外の方は絶対に修理しないでください。改造などを起こった場合は、JIS認証品として取扱いができなくなります。



●コード類を傷つけない



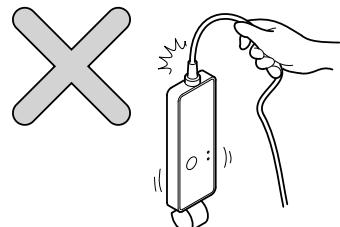
禁 止

手元スイッチなどの電装部品やコード類（電源コードなど）が破損し、ベッドが誤動作してケガをしたり、故障したりする原因となります。また、感電・火災のおそれがあります。ベッドの可動部に手元スイッチやコード類をはさまないようにしてください。

コード類に重い物を置いたり無理な力を加えたりしないでください。

ベッドでコード類を踏みつけないでください。

傷んだ手元スイッチなどの電装部品やコード類は修理（交換）を依頼してください。



●コード類に足を引っ掛けない

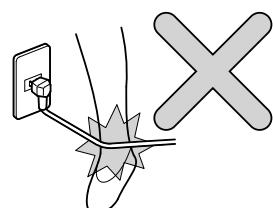


禁 止

手元スイッチなどの電装部品やコード類（電源コードなど）に足を引っ掛けないようにしてください。

プラグやコードが破損し、感電・火災のおそれがあります。

また、転倒してケガをするおそれがあります。



●静電気に注意する



禁 止

コード類を電源ボックスに接続する前に、ベッド以外の金属部分に触れるなどして、人体や衣服から静電気を除去してください。また、コード類を接続する際には差し込み口の内部に触れないよう注意してください。静電気の影響によって故障などの原因となるおそれがあります。

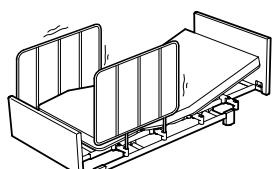
41、44、66 ページ 参照

●適合品以外と組み合わせしない



禁 止

弊社が指定する適合品以外の製品とは組み合わせしないでください。オプション製品などは、必ず弊社が指定する適合品を使用してください。適合品以外の製品と組み合わせると意図せぬすき間の発生や製品同士の接触、安定性の低下などにより、ケガをしたり、ベッドが故障するおそれがあります。



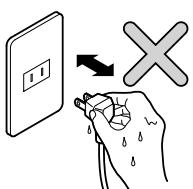
55～70 ページ 参照

●電源プラグを濡れた手で抜き差ししない



感電注意

ショートして感電・故障するおそれがあります。

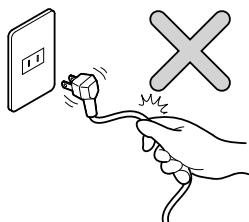


●電源コードを持って電源プラグを抜かない



感電注意

電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを持って抜いてしまうとコードが傷んで感電・発火のおそれがあります。また、電源プラグには、無理な力を加えないでください。



●お手入れは電源プラグを抜いてからおこなう

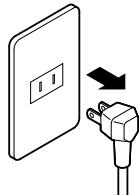


プラグを抜く

お手入れや掃除などベッドの下に入る際は、コンセントから電源プラグを抜いておこなってください。

誤操作によるケガやショートによる感電のおそれがあります。

長期間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。足のひっかかりによる転倒、踏み付けによる破損を防ぐため、電源コード、プラグはベッドの下に置いてください。



●このベッドは1人用の設計になっています



このベッドの最大利用者体重は 138kg です。一時的に介護者がベッドに乗る必要がある場合は、次の点を確かめてください。

○ベッドにかかる荷重が最大利用者体重 138kg を超えていないこと



禁 止

安全動作荷重について

・このベッドの安全動作荷重は 174kg です。安全動作荷重は、ベッドの動作がおこなえる最大荷重であり、利用者体重とマットレスやオプションなどの付帯物の合計荷重です。

※ベッドに安全動作荷重以上の荷重を加えないでください。

・ベッドが破損してケガをするおそれがあります。

外部要因（静電気、雷などの異常電圧、または他の電気製品使用による電圧変動など）で過電圧が発生した場合、電装品（電源ボックス、手元スイッチ）が破損するおそれがあります。

必ず守る

ベッドの動作等に異常が発生した場合は、すぐにベッドの使用をやめて電源プラグをコンセントから抜いてください。





注意

以下の項目は、守らなければ人がケガを負う可能性や物的損害の発生が想定されます。

●本製品の取り扱いに注意する



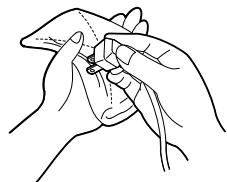
禁 止

輸送、設置、移動の際は絶対に落下など衝撃を与えないでください。

振動・衝撃の多い場所や不安定な場所で保管しないでください。

使用時はたたいたり、飛び乗ったりしないでください。

故障の原因となります。



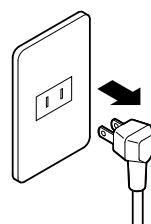
●電源プラグにほこりを付着させない



禁 止

電源プラグの表面にほこりが付着していると水分を含んで電流が流れ、絶縁状態が悪くなり、発火のおそれがあります。

電源プラグの表面にほこりが付着している場合、乾いた布などでよく拭き取ってください。

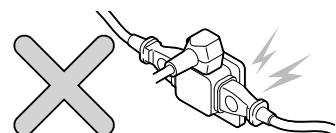


●電子治療器を使用するときは、必ず電源プラグを抜く



プラグを抜く

電子治療器（マイクロ波治療器、超短波治療器、除細動器など）を同時に使用した場合、ベッドの故障や誤動作の原因となります。なお、他の ME 機器と併用する際は、安全を確認の上、使用してください。



●タコ足配線はおこなわない



禁 止

コンセントや延長コードの容量を超える電気製品を同時に接続使用すると、電源コードや電源プラグが発熱して発火するおそれがあります。

●ベッドは定期的に点検する



必ず守る

使用の頻度や環境により、製品は摩耗・劣化します。

定期的に各部のゆるみ、可動部の動作、破損の有無などを点検してください。

思わぬケガをするおそれがあります。

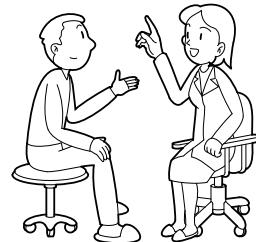
●被災したベッドは点検・修理する



必ず守る

地震・火災・水害などで被災したベッドは、お買い上げの販売店または弊社カスタマーサポートまで点検・修理を依頼してください。

電装品のショートや漏電による感電・火災やベッドの変形による動作の異常によってケガをするおそれがあります。



●容態にあわせて使用する



必ず守る

ベッドをご使用の方の容態にあわせて使用し、治療中の方は医師に相談してください。

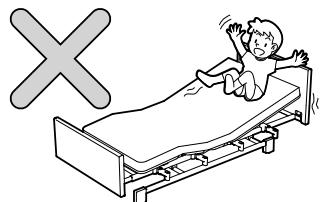
ご使用の方の容態によっては、ベッドの操作で容態を悪化させる可能性があります。ベッドのご使用に際して不安や疑問があるときは、かかりつけの医師にご相談ください。

●上がっているヘッドレストや背ボトム、脚ボトムに乗らない



禁 止

ボトムの支持部に大きな力がかかり、破損・変形の原因になります。



●火気に近付けない



必ず守る

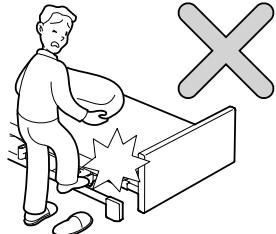
ベッドの近くで、ストーブなどの熱器具を使用しないでください。
変質・変形・発火などの原因になります。

●足先をベースフレームの上や下に置かない



禁 止

ベースフレームの上に足をかけたり、足先を下にいれたりしないでください。
はさまれてケガをするおそれがあります。

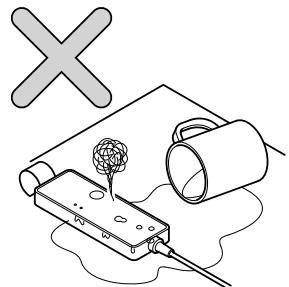


●水などをこぼさない



必ず守る

手元スイッチなどの電装品は防水仕様ですが、水などをこぼさないでください。故障の原因となります。
水などがかかってしまった場合には、すぐに拭き取り、乾いてから動作確認をおこなってください。動作に異常がある場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または弊社カスタマーサポートにご連絡ください。



●スプレータイプの殺虫剤をベッドなどに直接噴射しない



禁 止

殺虫剤に含まれる溶剤によって樹脂部品が破損・変形・溶解するおそれがありますので十分ご注意ください。

●ベッドやベッド以外の電気機器のコード類(電源コードなど)をベッド内部やベッドの下に通さない



必ず守る

キャスターや可動部にはさまれてコード類が破損し、感電・火災のおそれがあります。

●木製ボードに濡れたタオルなどをかけたり、加湿器などの蒸気を直接あてない



禁 止

木製ボードが破損・変質するおそれがあります。水分などが付着した場合は、乾いたタオルなどですみやかに拭き取ってください。

●コンセントから電源プラグを抜いてからモーターコード及び手元スイッチコードの抜き差しをおこなう



必ず守る

ベッドの組み立てや分解の際に、モーターコード及び手元スイッチコードの抜き差しをおこなう場合は、事前にコンセントから電源プラグを抜いてからおこなってください。

電源プラグをコンセントに差し込んだ状態で抜き差しすると、破損するおそれがあります。



使いかた

操作のしかた

手元スイッチのボタンでベッドのヘッドレスト、背ボトム、膝ボトムの角度、ベッドの高さを無段階に調節できます。

ボタンを押すと動き、離すとその位置で止まります。必要な位置まで動かしてお使いください。

※背上げ脚運動のWR2は、膝ボトムだけでの角度調節はできません。



警告

◆操作が理解できないと思われる方（お子さまや認知症の方など）が1人で手元スイッチを操作した場合、誤ってベッドに身体がはさまれるなど、思わぬケガをするおそれがあります。1人で手元スイッチに触れる可能性がある場合は、次のいずれかの方法により操作を制限し、誤操作による事故を未然に防いでください。

- ・手元スイッチの動作ロック機能で「高さロック」または「全ロック」の設定をする。手元スイッチに付属しているマグネットキーを切り離して紛失しないよう保管してください。 **18、24 ページ 参照**
- 動作ロックの設定後、手元スイッチのロックランプが点灯し、液晶画面にロックアイコンが表示されていることと、動作ロックを設定した手元スイッチのボタンを押して正しく設定されていることを必ず確認してください。

・電源プラグを抜いてください。



注意

ケガ・破損の原因になります

- ◆ヘッドレストを上げた状態でヘッドレストに大きな負荷をかけないでください。
- ◆ヘッドレストを上げた状態で背ボトムを必要以上に高く上げないでください。
ベッドをご利用の方が体位を崩し、ベッドから転落するおそれがあります。ベッドのあたま側にサイドレールや回転式アーム介助バーなどを取り付け、転落事故を未然に防いでください。
ご使用にならない際は水平な位置に戻してください。
- ◆ヘッドレストは介護者が操作してください。体位をご自分で保持できない方がご使用になる場合、介護者がベッドから離れる際には、安全確保のためヘッドレストを水平な位置に戻してください。

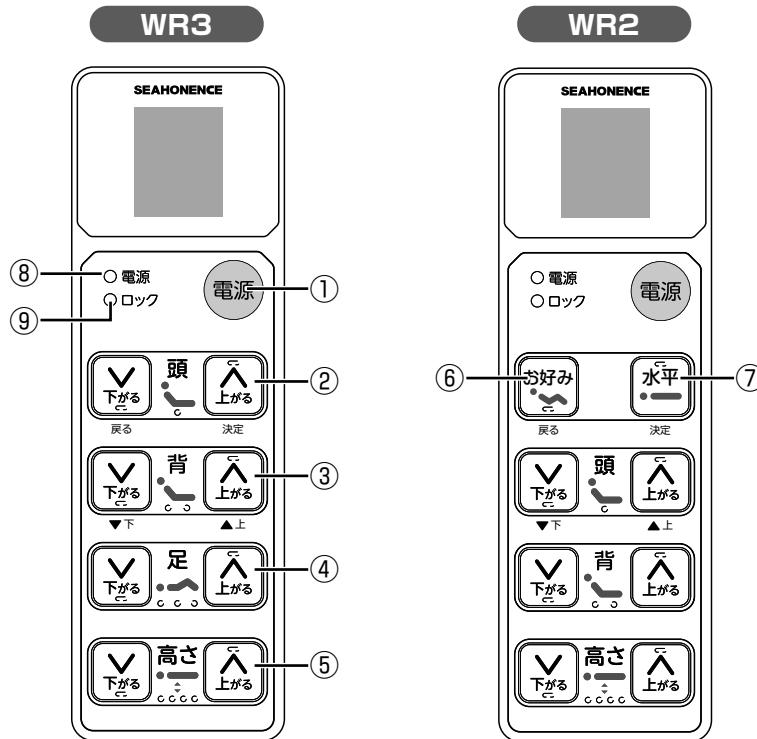
故障の原因になります

- ◆モーターの連続使用時間は2分までです。2分以上の連続使用はおこなわないでください。
続けて使用する場合はしばらく時間をおいて使用してください。
- ◆手元スイッチは防水仕様ですが、水などをこぼさないでください。
水などがかかってしまった場合には、すぐに拭き取ってください。乾いてから動作確認をおこなってください。動作に異常がある場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または弊社カスタマーサポートにご連絡ください。
- ◆手元スイッチはWRシリーズ以外のベッドに取り付けないでください。また、他の機種の手元スイッチをWRシリーズのベッドに取り付けないでください。
誤った手元スイッチの組み合わせは、誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ◆取扱説明書に記載されていない操作は絶対におこなわないでください。

手元スイッチの各部の名前とはたらき

手元スイッチ操作によって、ベッドのヘッドレスト、背ボトム、膝ボトムの角度と、ベッド全体の高さを無段階に調節できる他、各可動部の角度や高さの状態を液晶画面上に表示します。また、ベッドの動作に関する設定を変更することができます。

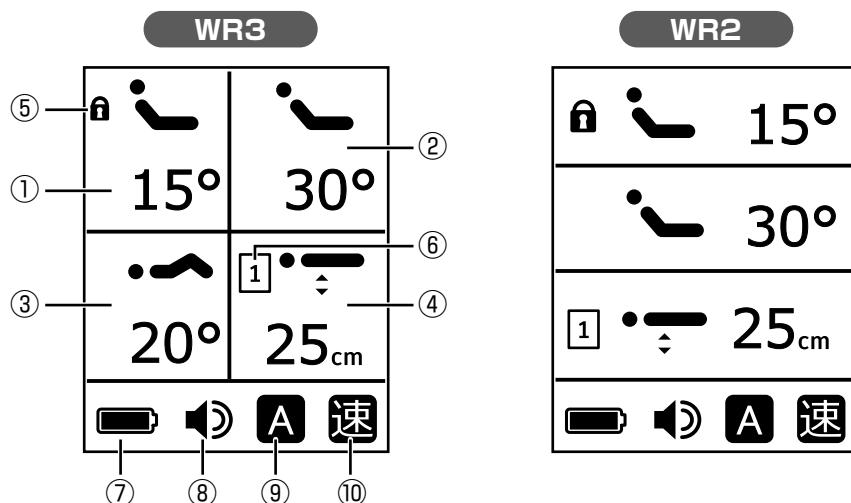
【操作ボタンと表示ランプ】



番号	名称	はたらき
①	電源ボタン	<p>手元スイッチの電源ボタンを押すことで各操作ができるようになります。</p> <p>※ON時は電源ランプが緑色に点灯します。</p> <p>誤操作による事故を未然に防ぐため、操作終了後、電源ボタンを押して電源を切ってください。</p> <p>電源ボタンがOFFの状態で、電源ボタン以外のボタンに触れた際は、電源ボタンが約10秒間ゆっくりと点滅し、電源ボタンの位置を知らせます。暗闇のときに便利です。</p>
②	頭ボタン	<p>ヘッドレストの角度を調節できます。</p> <p>ヘッドレストは、機構の支点を変えることにより、ヘッドレストの曲げ位置を変更することができます。【27、45ページ 参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲げ位置A：水平から最大50度まで調節できます。 ・曲げ位置B：水平から最大30度まで調節できます。
③	背ボタン	<p>背ボトムの角度を調節できます。</p> <p>背ボトムは、水平から最大70度まで調節できます。</p>
④	足ボタン	<p>膝ボトムの角度を調節できます。</p> <p>膝ボトムは、水平から最大45度まで調節できます。</p> <p>※背上げを起こす場合、先に膝ボトムを上げておくと体のずれが少くなります。</p> <p>※からだに負担がかからないように調節します。</p>

番号	名称	はたらき
⑤	高さボタン	ベッドの高さを調節できます。 ゆかからボトムまでの高さは25~67.5cm(低床設定の場合は20~62.5cm)の間で調節できます。
⑥	お好みボタン (WR2のみ)	あらかじめ設定したポジションに、ヘッドレスト、背ボトム、膝ボトム(背上げ脚運動使用時)、ベッドの高さを調節します。
⑦	水平ボタン(WR2のみ)	ベッドの背ボトム、膝ボトムの角度を0度に調節します。
⑧	電源ランプ	電源ON時に緑色に点灯します。
⑨	ロックランプ	・動作ロックされているときにオレンジ色に点灯します。 ・エラーが発生したときに点滅します。

● 液晶画面



番号	表示内容	番号	表示内容
①	ヘッドレスト角度表示(1°間隔で表示)	⑥	高さ設定表示
②	背ボトム角度表示(1°間隔で表示)	⑦	バッテリー動作表示
③	膝ボトム角度表示(1°間隔で表示)	⑧	音声ガイダンス表示
④	ベッド高さ表示(1cm間隔で表示)	⑨	ヘッドレスト曲げ位置設定表示
⑤	動作ロック表示	⑩	「速い」設定の場合のみ表示

※手元スイッチに表示される数値は、実際の数値に比べ角度±2°、高さ±2cmの誤差があります。

※小数点以下は表示されません。

⚠ 注意

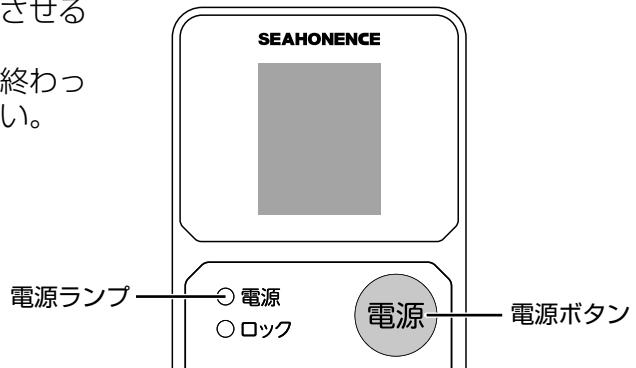
- ◆手元スイッチの取り扱いに注意してください。
落としたり、コードを無理に引っ張ったりしないでください。
- ◆液晶画面を強く押したり、衝撃を与えたたりしないでください。
液晶画面に力が加わると、破損や故障、ケガの原因となることがあります。
- ◆液晶画面を先のとがった物で押さないでください。
破損や故障、ケガの原因となることがあります。

ベッド／手元スイッチの電源の入れかた

- 1 ベッドの電源プラグをコンセントに差し込む。 47 ページ 参照
- 2 手元スイッチの電源ボタンを押す。

電源ランプ（緑色）が点灯し、ベッドを動作させる準備ができます。

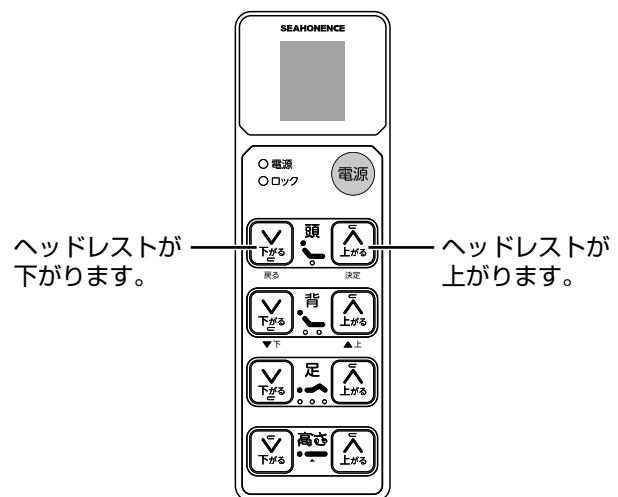
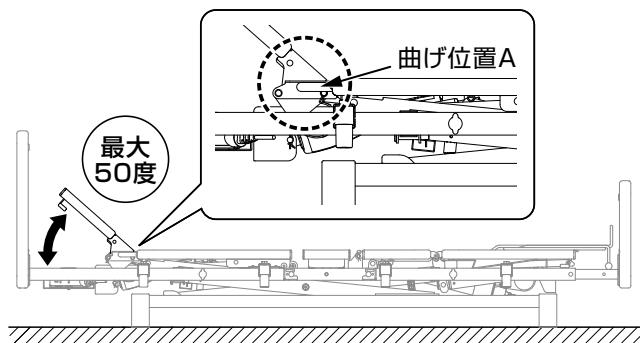
誤操作による事故を未然に防ぐため、操作が終わったら電源ボタンを押して電源を切ってください。



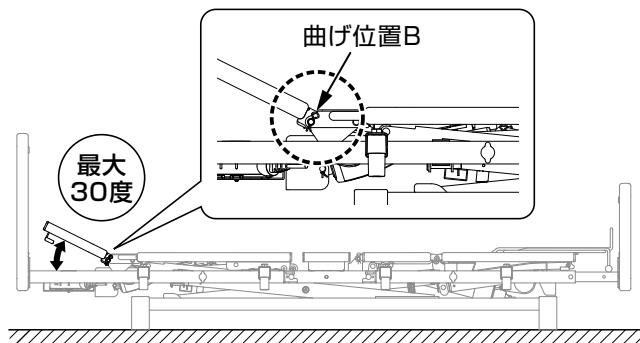
ヘッドレストの調節について

ヘッドレストは、機構の支点を変えることにより、ヘッドレストの最大角度を変更することができます。ヘッドレストの曲げ位置調節は 27, 45 ページ を参照してください。

曲げ位置A：水平から最大50度まで調節できます。



曲げ位置B：水平から最大30度まで調節できます。



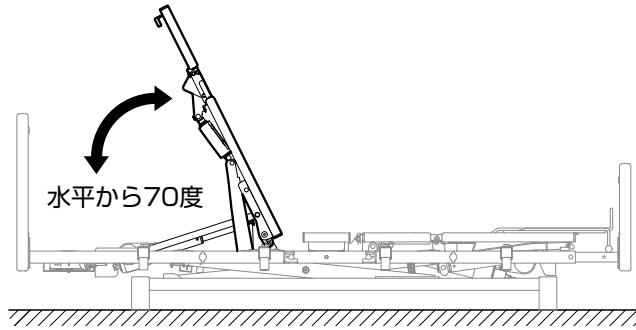
※動作を止めたい場合は、操作ボタンから手を離してください。

Point

- ベッド上で飲食される際には、誤嚥のリスク低減のために背ボトムとヘッドレストの角度調節をおこなってください。また、就寝中に唾液を誤嚥する危険のあるご利用者は、就寝時にもヘッドレストをご利用頂けます。

背ボトムの調節について

背ボトムは、水平から最大70度まで調節できます。



使いかた

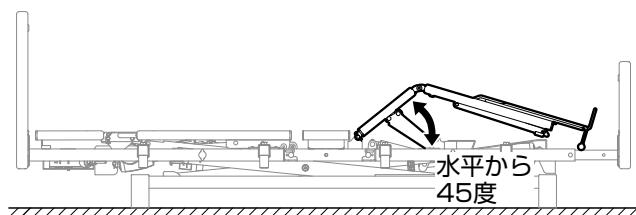
※動作を止めたい場合は、操作ボタンから手を離してください。

WR3のみ 膝ボトムの調節について

膝ボトムは、水平から最大45度まで調節できます。

※背上げをおこなう場合、先に膝ボトムを上げておくと体のずれが少くなります。

※からだに負担がかからないように調節します。



※動作を止めたい場合は、操作ボタンから手を離してください。

角度制限機能について

胸部や腹部にかかる圧迫感を軽減するため、ヘッドレスト、背ボトム、膝ボトムの間の角度が90度より小さくならないように自動的に動作を停止します。

内角制限により
動作を停止
しました。



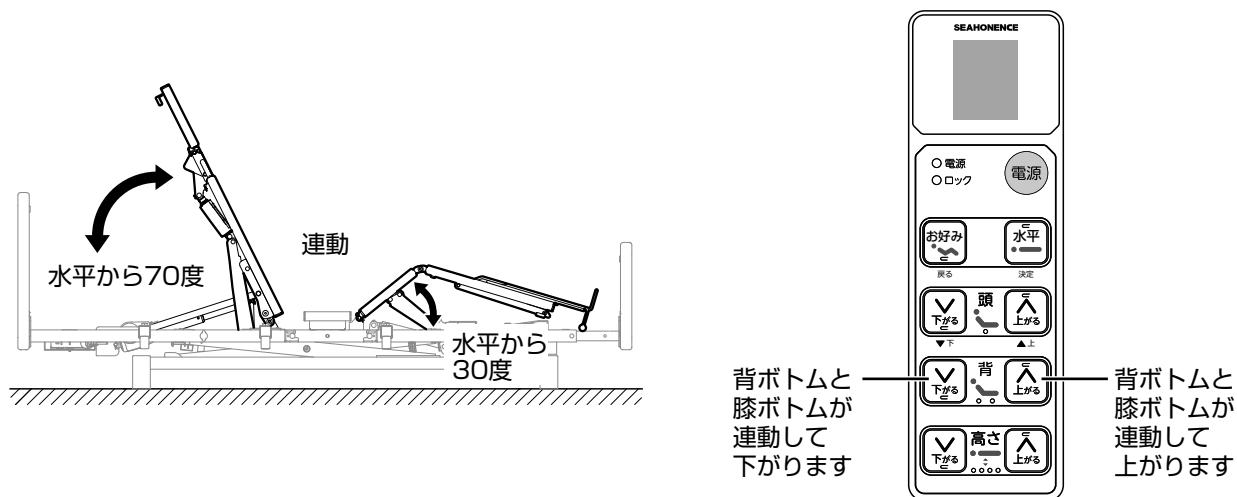
注意

◆安全のため、角度制限機能は解除できません。

背上げ脚運動モーションについて

背ボトムと膝ボトムが連動し、背ボトム最大70度、膝ボトム最大30度まで上がります。

※WR2は膝ボトムだけでの角度調節はできません。

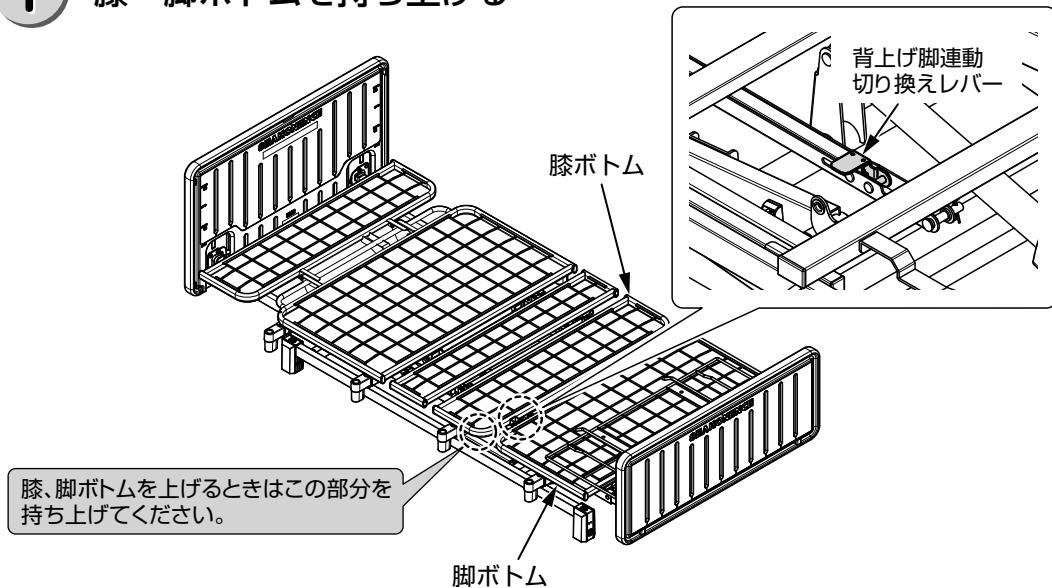


※動作を止めたい場合は、操作ボタンから手を離してください。

背上げ脚運動の切り換えかた

切り換えレバーにより背ボトムと膝ボトムが連動して上がる「背上げ脚運動」と背上げ単独の「背上げ」の2種類の操作が選択できます。ベッドをご使用の方の状態に合わせて使い分けてください。

1 膝・脚ボトムを持ち上げる

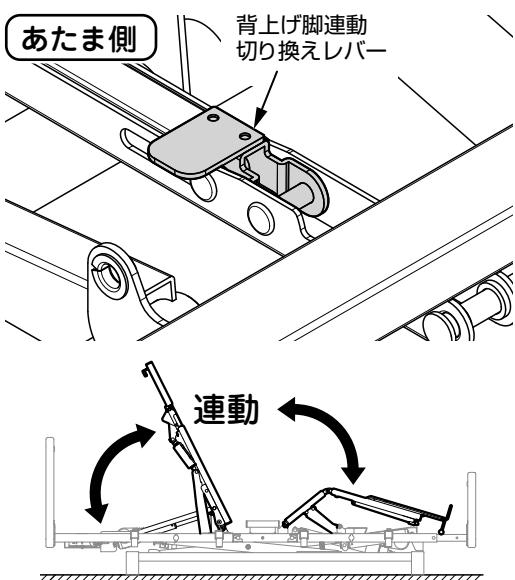


使いかた

2 背上げ脚運動切り換えレバーを操作する

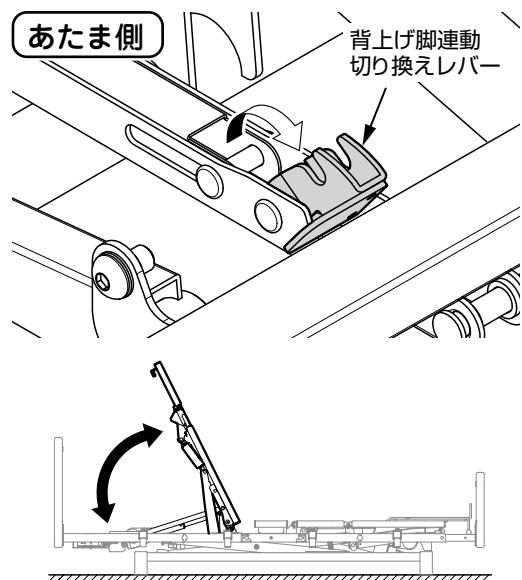
<背上げ脚運動 状態>

レバーが図のような位置にあると脚運動状態になります。



<背上げ脚運動 解除 状態>

レバーを上げると運動が解除され、背上げ単独の操作になります。



ベッドをご使用中の方に必ずベッドから降りていただき、切り換えレバーの操作をおこなってください。背上げ脚運動切り換えレバーの操作は、背ボトムを水平にして必ず手でおこなってください。



注意

ケガをするおそれがあります

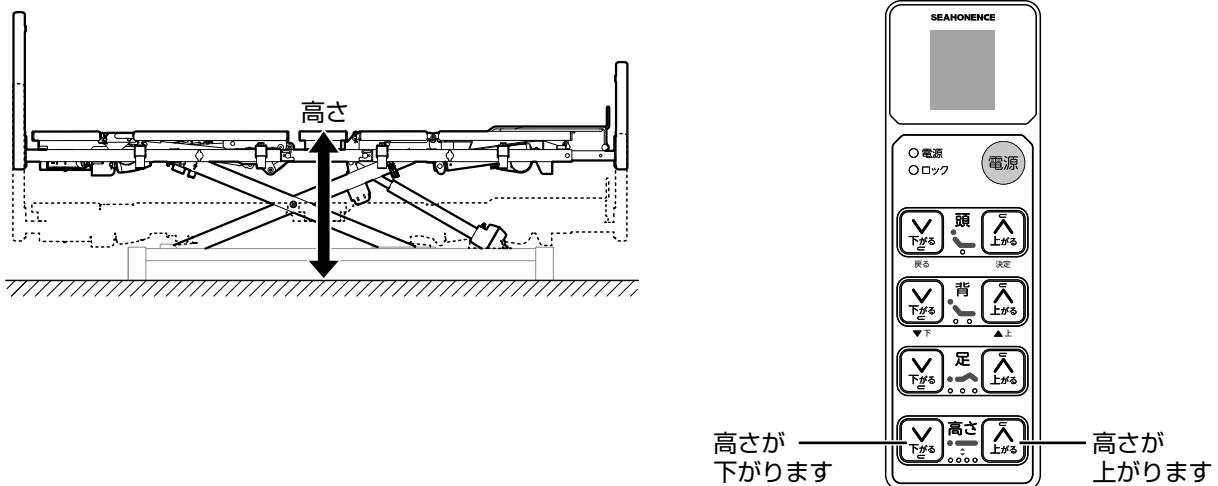
◆ボトムとフレームの間で手をはさまないよう注意してください。

高さの調節について

ベッドの高さを調節できます。

- ハイローベースユニットに取り付けられている脚座またはキャスターによって、ゆかからの高さが変わります。

- ・脚座（通常） : ゆかから25~67.5cm
- ・脚座（低床） : ゆかから20~62.5cm
- ・キャスターK-128WR : ゆかから31~73cm
- ・キャスターK-129WR : ゆかから28~70cm
- ・ハイツスペーサーK-140WR : ゆかから33~75cm



※動作を止めたい場合は、操作ボタンから手を離してください。

- ベッドの高さを低く下げる場合には、警告音を鳴らしながら下がります。(音量設定は **24 ページ** 参照)

- ・脚座（通常） : 高さを32cm以下に下げるとき
- ・脚座（低床） : 高さを27cm以下に下げるとき
- ・キャスターK-128WR : 高さを38cm以下に下げるとき
- ・キャスターK-129WR : 高さを35cm以下に下げるとき
- ・ハイツスペーサーK-140WR : 高さを40cm以下に下げるとき

● 挟み込み被害軽減機構

ベッド下降中に障害物を挟み込んだ場合の被害を少しでも軽減できる安全機構を搭載しています。

ベッド下降中に障害物が挟まつて、ある一定以上の力がかかった場合に、警告音を発しながら少し上昇動作を行い、動作を停止させます。



注意

◆ 挟み込み被害軽減機構は損壊防止や安全を保証するものではありません。ベッド下に潜りこんだり物を置いたりしないで下さい。

◆ ベッドを一番下まで下げた場合に、まれに「カチッ」や「カチ、カチッ」という音がする場合があります。

これは挟み込み被害軽減機構特有のもので、性能や安全性に問題はありません。

◆ ベッドを組み立てた状態でベッドフレームを持って持ち上げて移動させた場合に、まれに「カチッ」や「カチ、カチッ」という音がする場合があります。

これは挟み込み被害軽減機構特有のもので、性能や安全性に問題はありません。

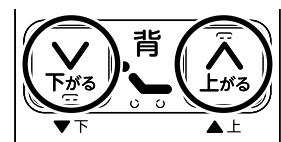
ベッドの実際の高さと手元スイッチの表示が違う場合は、21 ページの「高さの表示がおかしい場合」に従って操作してください。

動作ロック機能について

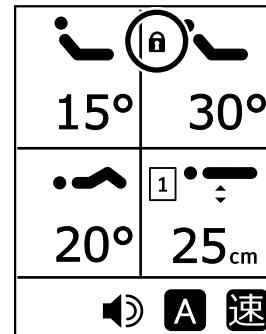
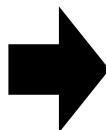
動作ロック方法

ロックしたい動作の「上がる」、「下がる」ボタンを3秒間同時に押す。

動作がロックされると、液晶画面にロックアイコンが表示され、ロックランプが点灯します。



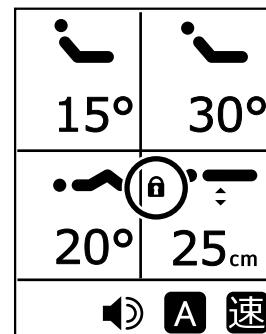
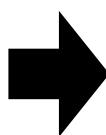
背の「下がる」、「上がる」ボタンを3秒間同時に押す



背の動作がロックされ、所定の位置にロックアイコンが表示されます。



高さの「下がる」、「上がる」ボタンを3秒間同時に押す



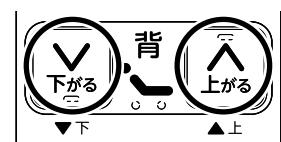
高さの動作がロックされ、所定の位置にロックアイコンが表示されます。

動作ロック解除方法

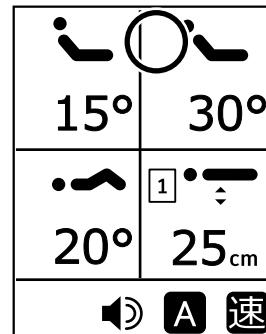
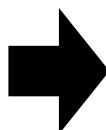
ロックされている動作を解除したい場合、「上がる」、「下がる」ボタンを3秒間同時に押すと、その動作のロックを解除できます。

動作ロックが解除されると、液晶画面のロックアイコンが消えます。

全ての動作ロックが解除されるとロックランプが消灯します。



背の「下がる」、「上がる」ボタンを3秒間同時に押す



背の動作ロックが解除され、ロックアイコンが消えます。

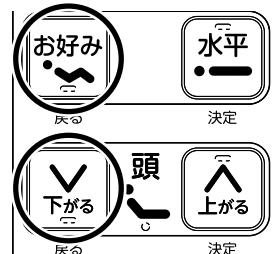
設定モードの『全動作ロック設定』で全動作を一括でロック・解除することもできます。 24 ページ 参照

お好みボタンについて

あらかじめ設定したお好みポジションに向けて、各ボトムの角度、ベッド高さの調節をします。
※設定したお好みポジションは、停電時や電源プラグ、手元スイッチコードを抜いた場合も記憶されています。

お好みポジションの設定方法

- 1 ベッドを設定したいお好みのポジションまで動作させる
- 2 「お好み」ボタンと「頭下がる」ボタンを同時に約3秒間押す



- 3 設定が完了すると「お好み位置を記憶しました」とメッセージが表示される

※お好みポジションには、あらかじめ初期設定が登録されています。必要に応じてお好みポジションの設定をしてください。

初期設定

- ・ヘッドレスト：0 度
- ・背ボトム：30 度
- ・高さ：25cm

お好み位置を
記憶しました。

お好みのポジションの操作方法

- 1 「お好み」ボタンを押す
- 2 お好みのポジションの位置になるとメッセージが出力され、ベッドが停止する

※お好みボタンを押している間は、お好みポジションに向かって動作を続けます。

※お好みボタンを押すと、ヘッドレスト、背ボトム、膝ボトムがお好み位置まで動作してから高さが動作します。



お好み位置に
調節しました。

水平ボタンについて

ベッドを水平に戻します。

- 1 水平ボタンを押す
- 2 ベッドが水平になると、ベッドが停止する

水平ボタンを押している間は各ボトム（ヘッドレスト、背、膝）の角度が 0 度に向かって動作します。

手元スイッチのエラーからの復旧について

エラー画面が表示された場合や、画面がフリーズして操作ができなくなった場合は、下記の処置をしてください。

エラー画面が表示された場合

モーターコードが抜けている時などに操作ボタンを押すとエラー画面が表示されます。

モーターコードの接続を確認し、次の処置をおこなってください。

エラーが発生しました。

1 電源ボタンを5秒以上押し続ける

電子音がなります。



2 「エラーが発生しました」の表示が消え、電子音が消える

エラーが解除されます。

エラー解除後、操作中にふたたびエラーが表示された場合は、ベッドの使用を中止して、電源プラグとバッテリーケーブルを抜き、お買い上げの販売店もしくは弊社カスタマーサポートに修理をご依頼ください。

画面がフリーズした場合

画面がフリーズし、操作ができなくなった場合は、次のいずれかの処置をおこなってください。

処置1

1 電源プラグをコンセントから抜いて5秒以上待ち、液晶画面の表示が消えたことを確認した後、再度電源プラグをコンセントに差し込む

2 電源ボタンを押して、手元スイッチを起動させる

処置2

1 手元スイッチのコードを電源ボックスから一度抜き、再度差し込む

2 電源ボタンを押して、手元スイッチを起動させる

それでも復帰しない場合は、ベッドの使用を中止して、電源プラグとバッテリーケーブルを抜き、お買い上げの販売店もしくは弊社カスタマーサポートに修理をご依頼ください。

角度・高さ表示がおかしくなった場合

画面の頭、背、足、高さの表示が正常に表示されなくなった場合は、次の処置をおこなってください。

頭、背、足の角度表示がおかしい場合

- 1 表示がおかしい角度の「下がる」ボタンをモーターが動作しなくなるまで押し続ける
モーターがリセットされます。
- 2 「上がる」ボタンを押し、角度表示が正常に戻っていることを確認する

高さの表示がおかしい場合

- 1 高さの「上がる」ボタンをモーターが動作しなくなるまで押し続ける
モーターがリセットされます。
- 2 高さの「下がる」ボタンを押し、高さ表示が正常に戻っていることを確認する

それでも正常に動作しない場合は、ただちにベッドの使用を中止して、電源プラグとバッテリーケーブルを抜き、お買い上げの販売店もしくは弊社カスタマーサポートに修理をご依頼ください。

設定モードについて

付属のマグネットキーを手元スイッチ表面の所定の位置にかざすことで設定モードに移行できます。

設定メニュー

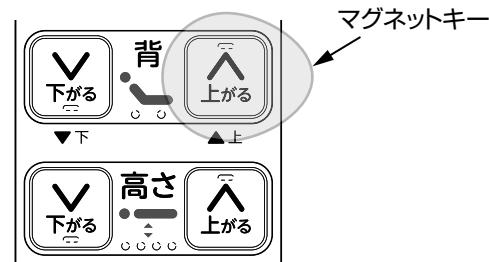
設定モードでは、ベッドの動作や手元スイッチに関する各種設定を行うことができます。
ベッドのご利用者様や周囲の環境に合わせてご利用ください。以下の個別設定が可能です。

設定メニュー1	
音量	音声ガイダンスの音量(4段階)の設定ができます。
全動作ロック	全動作(頭、背、足、高さ)を禁止、解除することができます。
速さ	ベッド動作速度を「普通」／「速い」に切り替えることができます。
ベッド高さ	ベッド高さの設定をおこないます。

設定メニュー2	
運動設定	「頭-背運動」または「背-足運動」の設定ができます。
頭曲げ位置	ヘッドレストの曲げ位置の設定をおこないます。
ソフトウェア	ソフトウェアのバージョンを確認できます。
操作ログ	各ボタンが押された回数と動作時間のログを確認できます。

設定モードへの移行方法

- マグネットキーを手元スイッチ(WR3)の「足」上がるボタン(WR2は「背」上がるボタン)の上にかざす

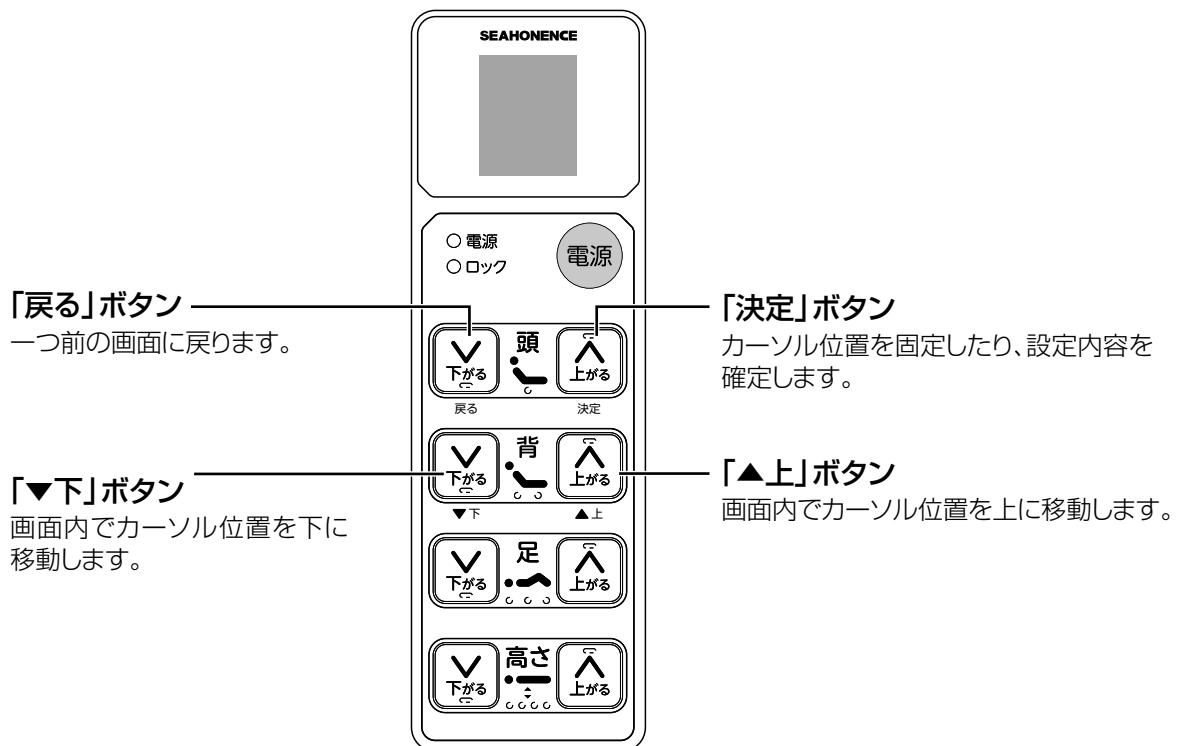


- マグネットキーをかざしたまま、「高さ」上がるボタンに向かってゆっくり動かす



設定モード中の操作ボタンについて

設定モードに移行した場合は、頭ボタン及び背ボタンはそれぞれ以下に説明している機能のボタンの働きとなります。



操作画面への復帰方法

設定モードから操作画面に戻る方法は以下の3通りがあります。

1. 手元スイッチの「電源」ボタンを押す。
2. 手元スイッチにマグネットキーをかざす。
3. 無操作のまま30秒経過することで操作画面に戻る。

設定モードでの操作方法について

設定モードでは、操作モードとは違った操作方法となります。操作ボタン下の表記を参考に、以下の手順で設定の変更をおこなってください。

- 1 「▼下」、「▲上」の各ボタンを押して、設定したい項目にカーソルを合わせる
- 2 「決定」ボタンを押すと選択中の項目が表示される

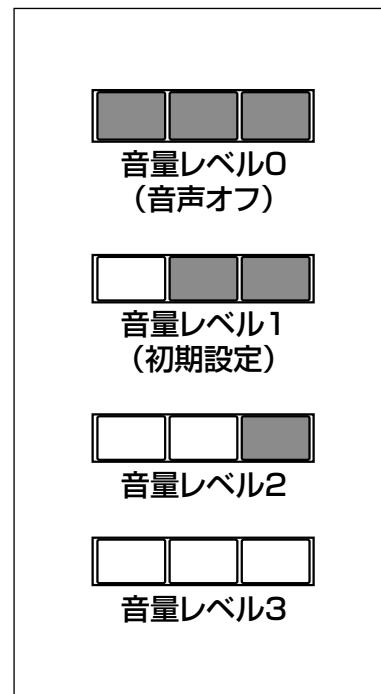
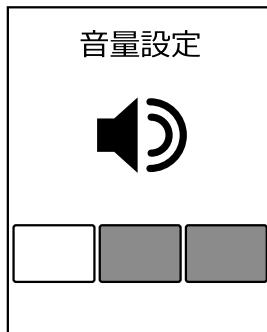
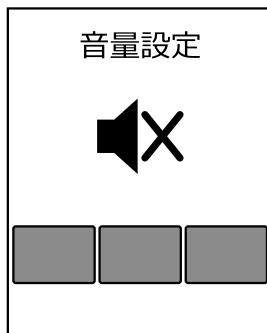
各種設定の詳細

音量設定

ベッドをより安全に使用していただくために、手元スイッチのボタン操作時や動作停止時に音声で動作内容をお知らせすることができます。

初期設定は「音量レベル1」となっています。

- 音量設定画面で、「▲上」、「▼下」で音量を変更できます。
- お好みの音量に設定後、「決定」ボタンで設定を確定させます。



全動作ロック設定

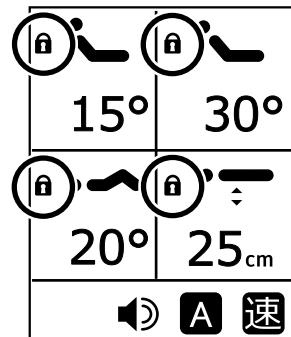
ベッドの全動作（頭、背、足、高さ）を禁止することができます。

ご自身での操作が不向きなご利用者様がベッドを誤って操作する心配がある場合にご利用ください。

初期設定は「解除」となっています。



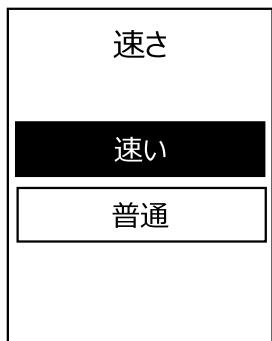
ロック後の
画面表示



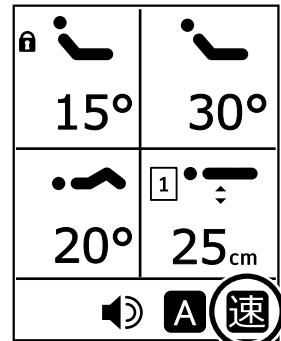
- 「▲上」、「▼下」で「ロック」または「解除」を選択できます。
- 「ロック」を選択して「決定」ボタンを押すと、全動作を禁止することができます。
- 「解除」を選択して「決定」ボタンを押すと、全動作のロックを解除することができます。
- 操作画面で、「上がる」「下がる」を同時に3秒間押して、個別にロック・解除することもできます。 18 ページ 参照

速さ設定

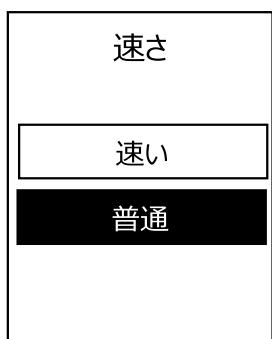
ベッド動作速度を「普通」／「速い」に切り替えることができます。
初期設定は「速い」となっています。



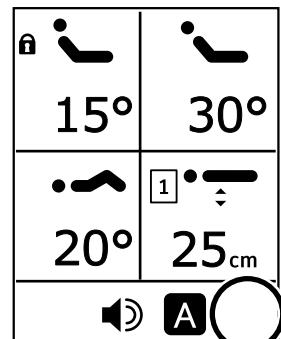
「速い」設定後の
画面表示



所定の位置に「速」アイコンが表示されます。



「普通」設定後の
画面表示



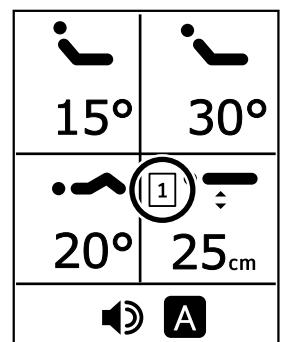
アイコンは表示されません。

ベッド高さ設定

ハイローベースユニットに取り付ける脚座(通常/低床)、キャスター(Φ10cm/Φ7.5cm)、ハイツスペーサーを選択します。
初期設定は「①」となっています。



「① 脚座通常」
選択後の
画面表示



所定の位置に選択した番号が表示されます。

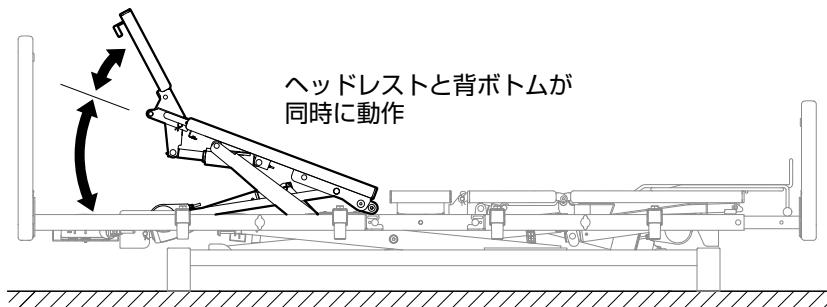
連動設定

「頭－背連動」または「背－足連動」動作の設定ができます。
初期設定は「解除」となっています。

●「頭－背連動」

背の「上がる」または「下がる」ボタンを押すと、ヘッドレストと背ボトムが同時に動作します。

※頭の「上がる」または「下がる」ボタンを押した場合は、ヘッドレストのみ動作します。



連動設定

頭 - 背連動

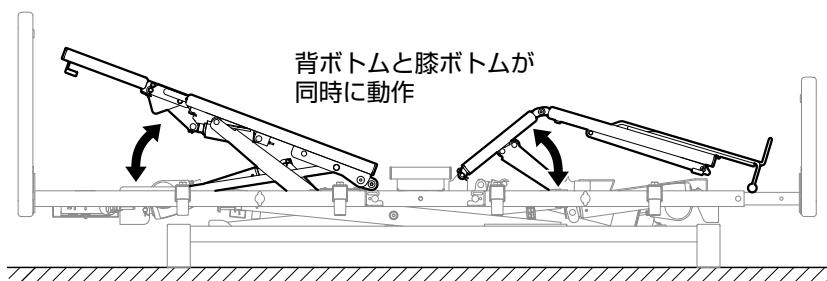
背 - 足連動

解除

●「背－足連動」(WR3のみ)

背の「上がる」または「下がる」ボタンを押すと、背ボトムと膝ボトムが同時に動作します。

※足の「上がる」または「下がる」ボタンを押した場合は、膝ボトムのみ動作します。



連動設定

頭 - 背連動

背 - 足連動

解除

●解除

解除を選択すると、連動動作が解除されます。

連動設定

頭 - 背連動

背 - 足連動

解除

頭曲げ位置設定

ヘッドレストの曲げ位置の設定をおこないます。

初期設定は「曲げ位置A」となっています。

ヘッドレストの曲げ位置調節については45ページを参照しておこなってください。

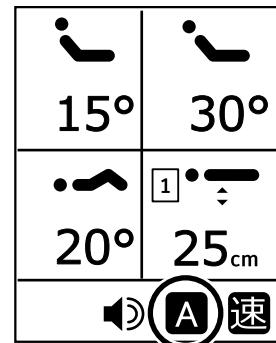
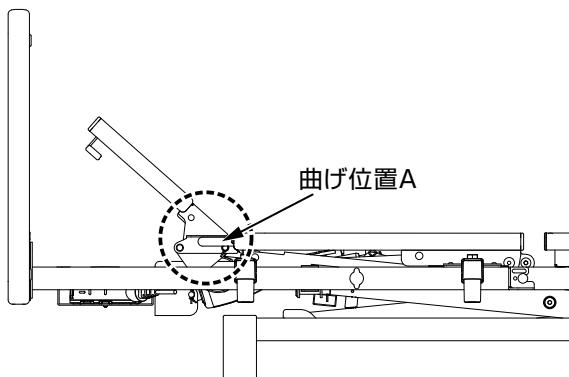
頭曲げ位置

曲げ位置 A

曲げ位置 B

「曲げ位置A」

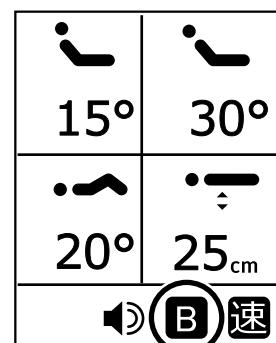
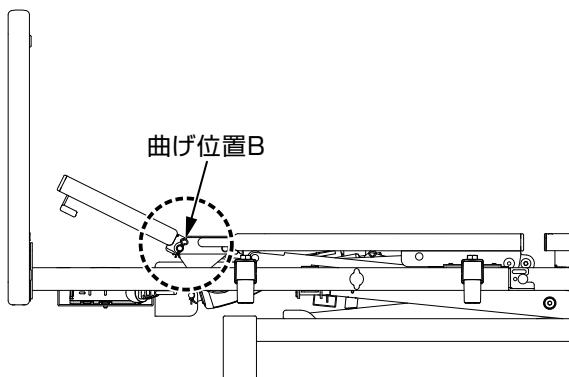
ヘッドレストの曲げ位置をAに設定されている場合、「曲げ位置A」を選択してください。
水平から最大50度まで調節できます。



所定の位置に「A」アイコンが表示されます。

「曲げ位置B」

ヘッドレストの曲げ位置をBに設定されている場合、「曲げ位置B」を選択してください。
水平から最大30度まで調節できます。



所定の位置に「B」アイコンが表示されます。



注意

◆ヘッドレストの曲げ位置を変更したときは、必ず頭曲げ位置設定をおこなってください。

ソフトウェア

電源ボックスと手元スイッチのソフトウェアバージョンを確認できます。

- ・ソフトウェア (HB) では、手元スイッチのソフトウェアバージョンを確認できます。



使いかた

- ・ソフトウェア (CB) では、電源ボックスのソフトウェアバージョンを確認できます。

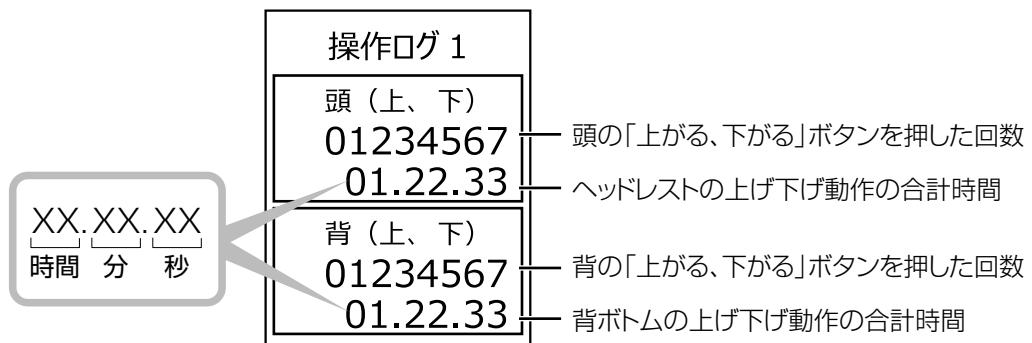


- ・ソフトウェア (HB) とソフトウェア (CB) は、「▲上」ボタン、「▼下」ボタンで切り替えることができます。

操作ログ

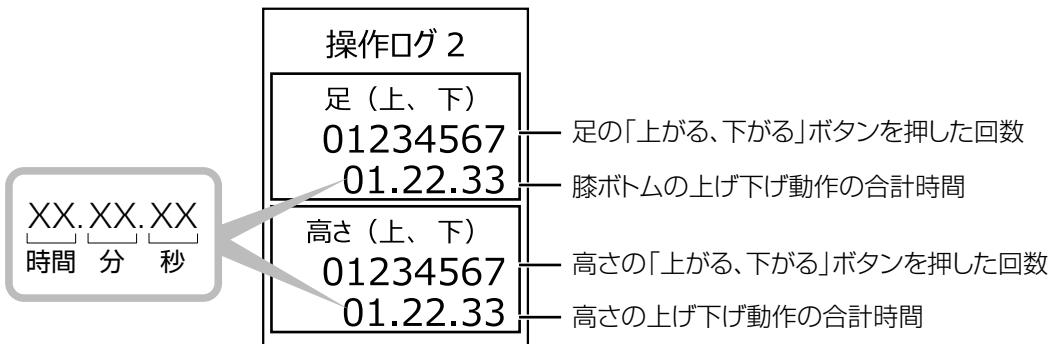
各ボタンが押された回数と動作時間のログを確認できます。

- 操作ログ1では、頭、背のログを確認できます。



- 操作ログ2では、足、高さのログを確認できます。

※足のログはWR3のみ。



- 操作ログ1、2は、「▲上」ボタン、「▼下」ボタンで切り替えることができます。

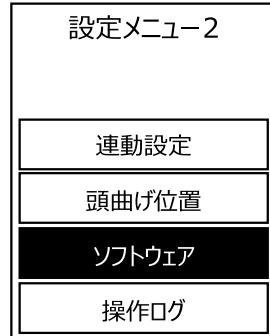
Point

- 操作ログは、停電時や電源プラグ、手元スイッチコードを抜いた場合も記憶されています。
- 操作ログをリセットしたい場合は、『初期化』をおこなってください。 [30 ページ 参照](#)

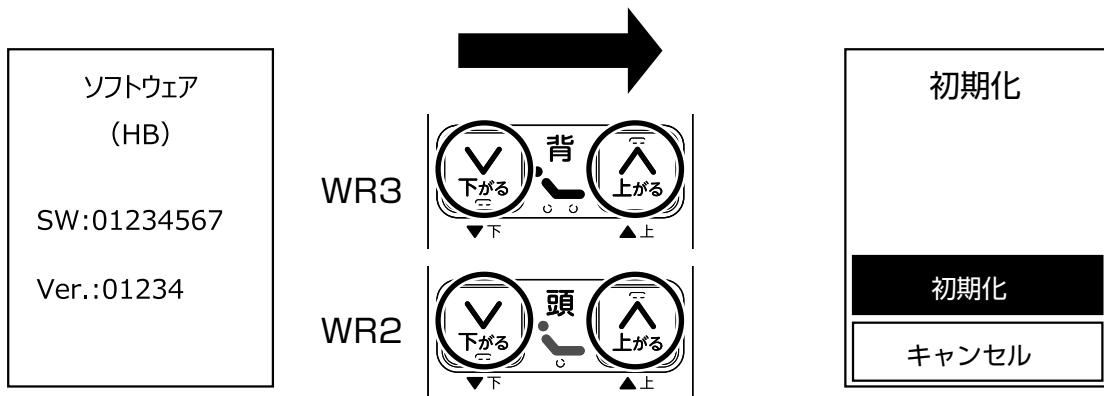
初期化

各設定の初期化ができます。

1 設定メニューで「ソフトウェア」を選択する



2 「ソフトウェア」画面で、「▼下」、「▲上」ボタンを3秒間同時に押すと初期化画面が表示される



3 「初期化」にカーソルを合わせて決定ボタンを押す

4 約2秒後に初期化完了のメッセージが出力される

初期化が完了しました。

初期設定

設定項目	初期設定
音量	音量レベル1
全動作ロック	解除
速さ	速い
ベッド高さ	① 脚座 通常
連動設定	解除

設定項目	初期設定
頭曲げ位置	曲げ位置A
操作ログ	回数0、動作合計時間0
お好みボタン	ヘッドレスト:0度 背ボトム:30度 高さ:25 cm

※お好みボタンはWR2のみ

Point

●ベッドを利用する方が変わる場合は、初期化することをおすすめします。

設置場所について

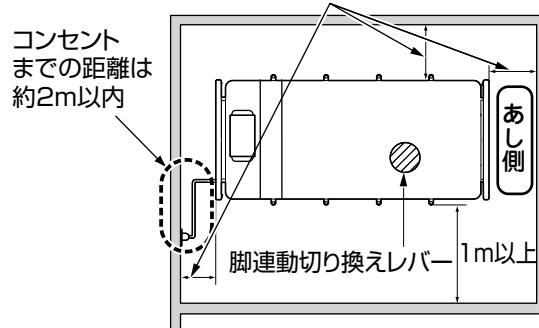
ベッドを設置する際は、以下の条件を考慮してください。

● 設置スペースを確保する

右図を参考に設置します。

- 1.ベッドの一方の側面を壁際に寄せて設置する場合は、ご利用者の乗り降りや介助をするためのスペースと方向を予め検討してください。
- 2.ご利用者や介護する方が、誤って電源コードに足を引っ掛けないように引回しをしてください。
- 3.ベッドを利用する方がベッドから起きあがる場合に、ベッドの左右どちら側からの乗り降りが可能か、車いすをご使用の場合は、ベッドのどちら側で使用するかによって、必要なスペースを確保してください。壁やものなどを傷つけるおそれがあります。
- 4.介助する方がベッド周りで介護をするためのスペースをどれだけとるか（シーツ交換だけか、おむつ交換・着替え・洗髪・歯磨き・食事の介助などが必要かどうかによってベッドの周囲をどれだけあけるか）を考慮してください。
- 5.ベッドを操作する際、周りの家具備品、部屋の構造物などに当たらないことを確認してください。家具備品や構造物などが破損するおそれがあります。

周辺の家具や部屋の構造物などにあたらないように離す。



! 注意

次のような場所への設置は避けてください。

- ・直射日光のあたる場所
- ・冷暖房機による冷気や暖気が直接あたる場所
- ・過度の水蒸気や油蒸気のかかりやすい場所
- ・高温、多湿、低温、乾燥した場所
- ・ほこり、煙、塩分、イオウ分、腐食性物質などの多い場所
- ・換気の悪い場所
- ・振動や衝撃のある場所

● 水平で丈夫なゆかを選ぶ

ベッドの質量は最大約90.8kgです。ベッドの質量と使用される方、オプション製品、寝具なども含めた質量が使用時の静荷重となります。この荷重に十分耐えられるゆかの強度を確保してください。



警告

ケガの原因になります

- ◆滑りやすいゆか材（フローリングなど）の上で使用する場合は、脚座やキャスターの下に別売の脚座保護パッド（品番K-145）を敷いてください。使用中にベッドが動き、転倒やケガをするおそれがあります。



注意

家財破損の原因になります

- ◆畳やじゅうたんなどの上で長期間使用する場合は、脚座やキャスターの下に別売の脚座保護パッド（品番K-145）を敷いてください。畳やじゅうたんなどがへこむおそれがあります。

● 電源プラグが抜き差ししやすいところにベッドを設置してください。



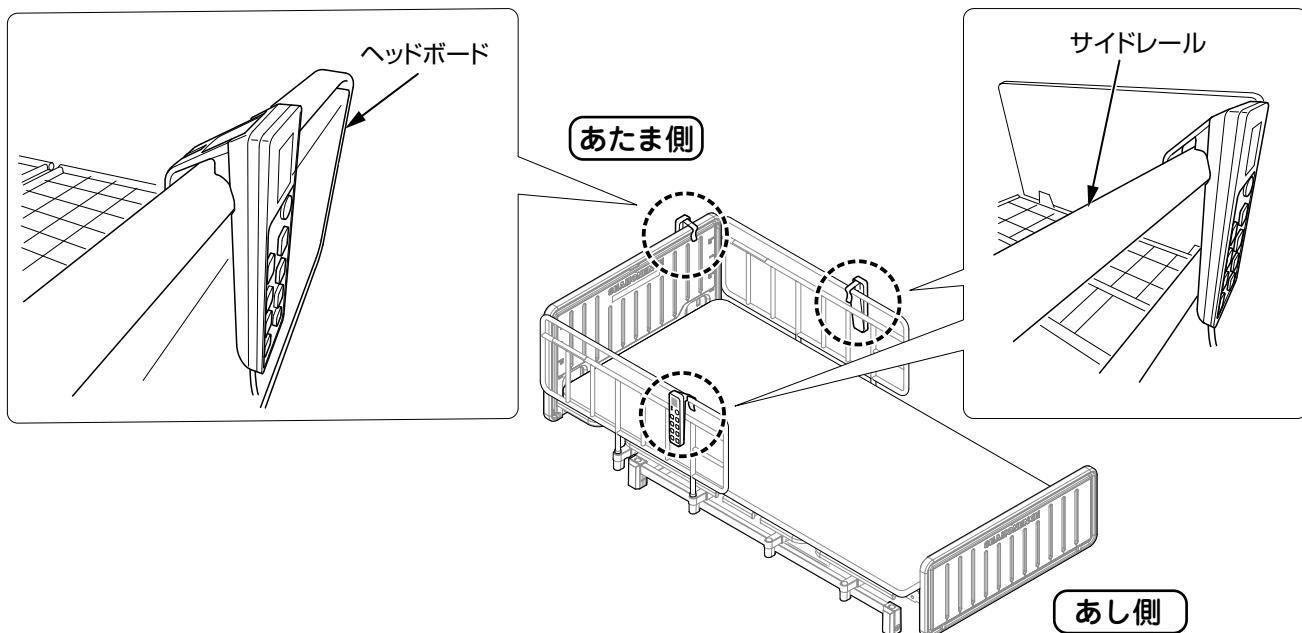
注意

事故・破損・ケガの原因になります

- ◆ベッドと壁、周りのものとのすき間にはさまれないように注意してください。特に予測できない行動をとると思われる方や、体位を自分で保持できない方、自力で危険な状態から回避することができないと思われる方につきましては十分ご注意ください。
- ◆ベッドを操作する(高さ調節や背上げ)際に周辺のポータブルトイレやくずかご、家具、部屋の構造物に当たらないように気を付けてください。
- ◆火気に近付けないでください。
- ◆タコ足配線はおこなわないでください。

手元スイッチの取り付けかたについて

手元スイッチは手元スイッチ上部のフックを利用してヘッドボードやフットボードの上端やサイドレールに引っ掛けることができます。引っ掛けるときはベッドの外側に掛けてください。



警告

ケガをするおそれがあります

- ◆手元スイッチを操作するときは、必ず手に持って操作してください。誤操作や意図しない動作をして、ベッドの可動部分（ボトムなど）とフレームやサイドレール、回転式アーム介助バーなどとはさんでケガをするおそれがあります。
- ◆手元スイッチはヘッドボードやフットボード、サイドレールに外側を向けて掛けてください。ベッドの外側以外の場所に掛けるとボトムとサイドレールのすき間に手元スイッチがはさまれ、手元スイッチが破損・変形するおそれがあります。

開梱と部品の確認

- 組み立てる前に下記の部品がすべて揃っているか確認してください。
- 不足している部品や破損している部品がある場合は、販売店または弊社カスタマーサポートにご連絡ください。

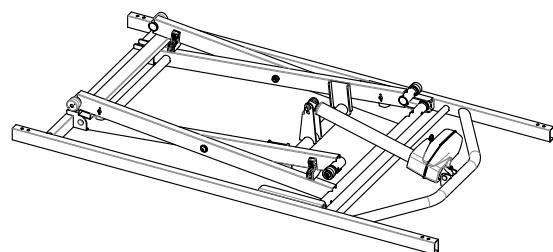


ハイローベースユニット

■ WR2・WR3

145×81×18.5 (cm)
約 25kg (29.5kg)*

ハイローベースユニット



脚座(4個)



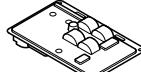
マットレス止め(4個)



取扱説明書(1冊)



組み立てピンセット(1セット)



ピンA(4本)
(長さ55mm)

ピンB(2本)
(長さ37mm)



スピードピン
(6本+予備1本)



ノブボルト
(4個)



ブッシュリベット
(4個)



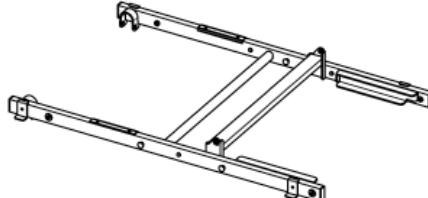
センターユニット／リアユニット／座ボトム

■ WR3

(900幅)
110×94.5×21 (cm)
約 21kg (28kg)*

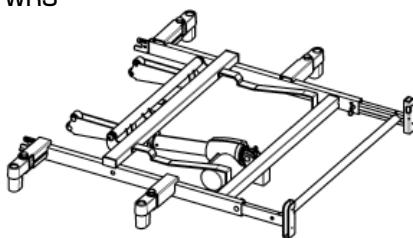
(830幅)
110×87.5×21 (cm)
約 19kg (26kg)*

センターユニット

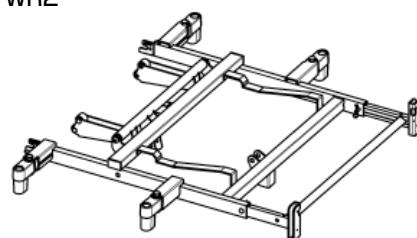


リアユニット

WR3



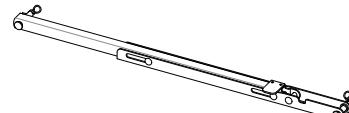
WR2



座ボトム



WR2背上げ脚運動
モーションユニット(ピン+スピードピン付)



* : (kg) は梱包材を含めた質量です。

フロントユニット

■ WR2・WR3

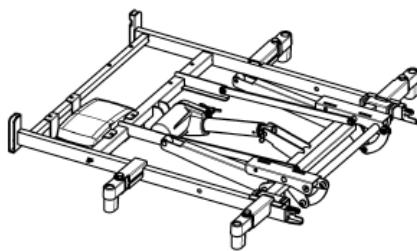
(900幅)

96×95×15.5 (cm)
約 17.3kg (19.5kg)*

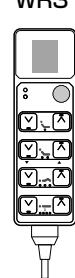
(830幅)

96×88×15.5 (cm)
約 15.8kg (18kg)*

フロントユニット



手元スイッチ



WR2



ボトムユニット

■ WR2・WR3

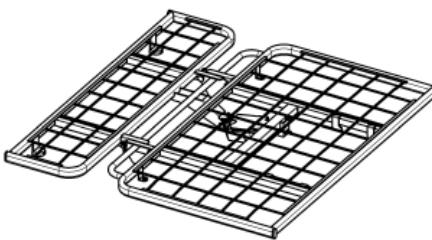
(900幅)

91×94×19 (cm)
約 19kg (22kg)*

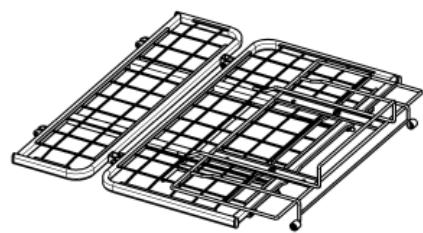
(830幅)

91×87×19 (cm)
約 17.5kg (20.5kg)*

背ボトム



膝・脚ボトム (マットレス止め金具)



ヘッド／フットボード

■ WR2・WR3

(900幅)

102×53.5×11 (cm)

(830幅)

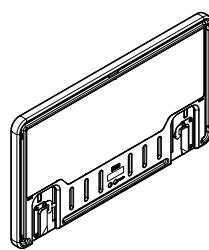
95×53.5×11 (cm)

ヘッドボード
(スタンダードタイプ)

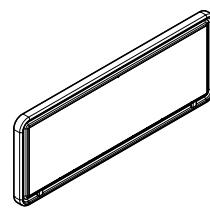
(900幅)
約 8.5kg (10kg)*

(830幅)
約 8kg (9.5kg)*

フットボード



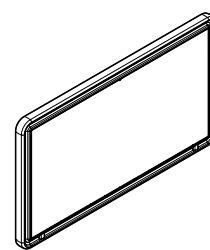
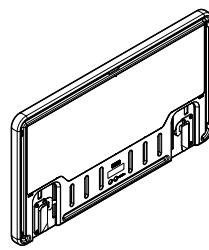
フットボード



ヘッドボード
(トールタイプ)

(900幅)
約 10.5kg (12kg)*

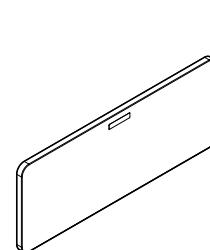
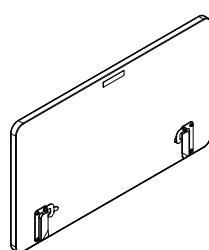
(830幅)
約 10kg (12.5kg)*



ヘッドボード
(スタンダードタイプ)

(900幅)
約 12kg (13.5kg)*

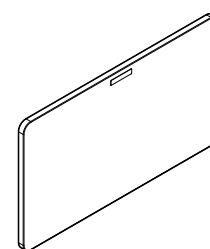
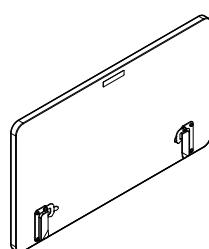
(830幅)
約 11.5kg (13kg)*



ヘッドボード
(トールタイプ)

(900幅)
約 13.5kg (15kg)*

(830幅)
約 13kg (14.5kg)*



*: (kg) は梱包材を含めた重量です。

組み立てかた

ベッドを組み立てる前に、31ページの「設置場所について」を参照してベッドの配置を決めてください。

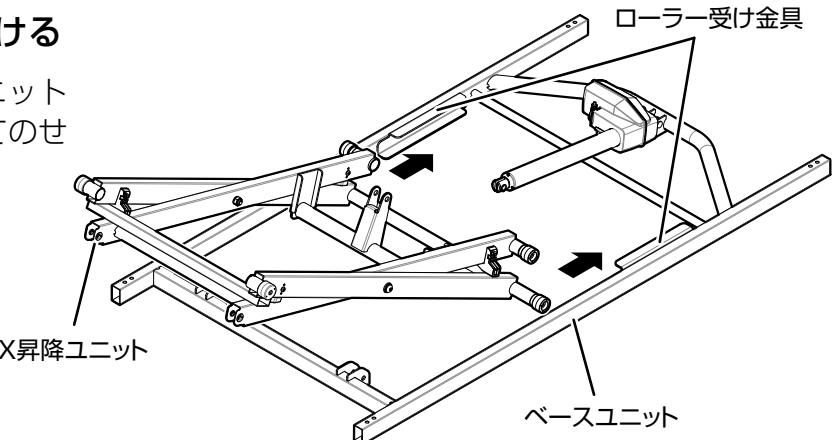
STEP1 ハイローベースユニットの組み立て

ハイローベースユニットをベースユニットとX昇降ユニットに分解している場合は、以下の順序で組み立てをおこなってください。

※梱包箱には、ハイローベースユニットの状態で梱包されています。

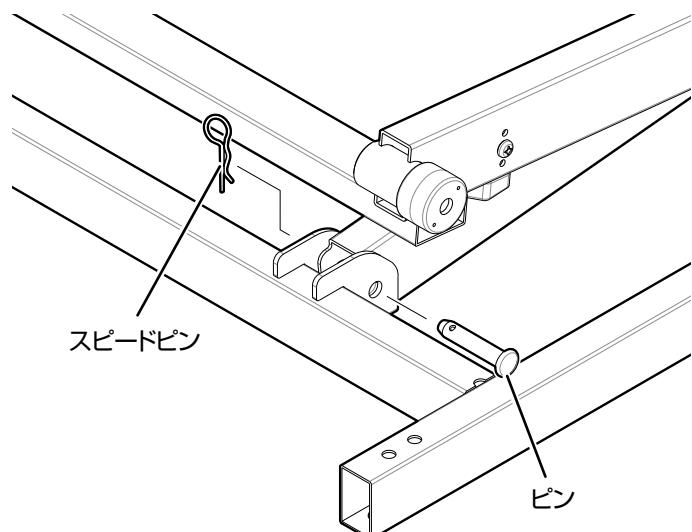
1 X昇降ユニットを取り付ける

X昇降ユニットをベースユニットのローラー受け金具に沿ってのせます。



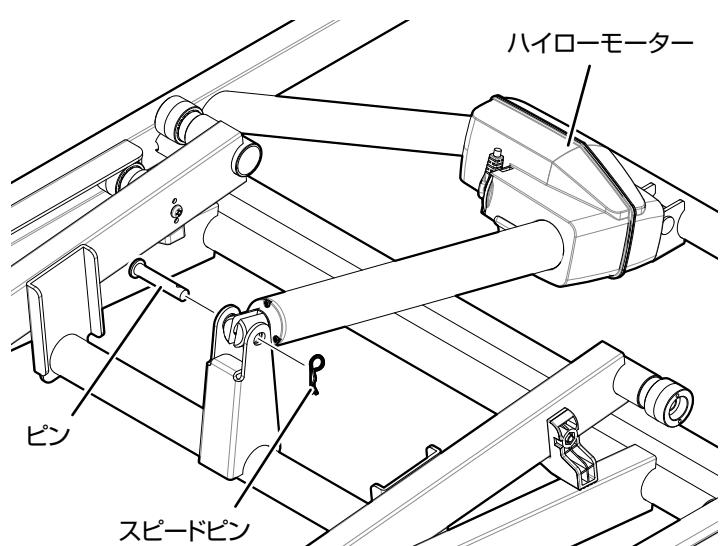
2 X昇降ユニット頭側を固定する

ピンを差し込みスピードピンで固定します。（左右2ヶ所）



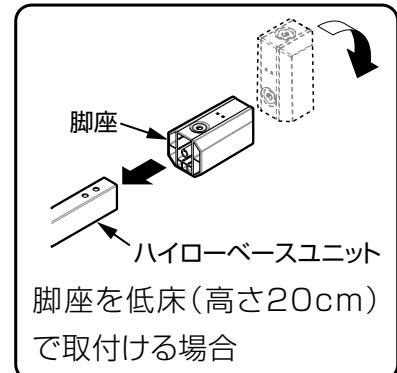
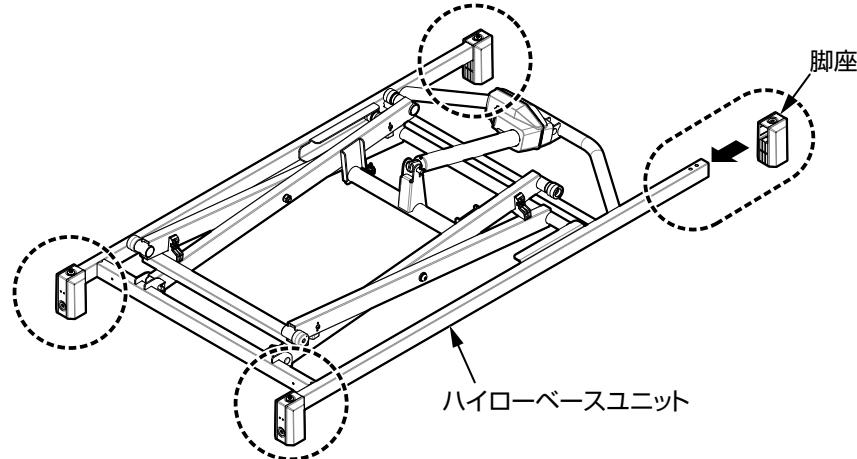
3 ハイローモーターを取り付ける

ハイローモーター先端をベースフレームの取り付け穴に合わせ、ピンを差し込みスピードピンで固定します。



STEP2 脚座の取り付け

1 ハイローベースユニットに脚座（高さ25cm）を差し込む（4ヶ所）



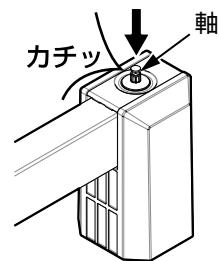
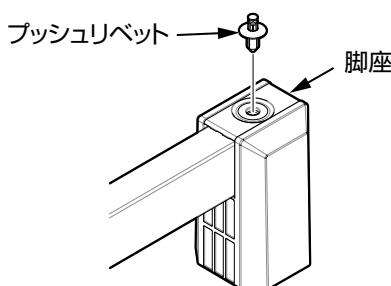
注意

- ◆ベッド高さ設定を必ずおこなってください。 **25ページ 参照**
設定をおこなわないと、高さが正しく表示されません。

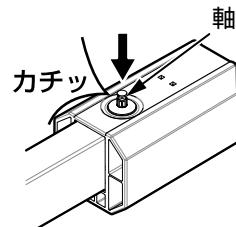
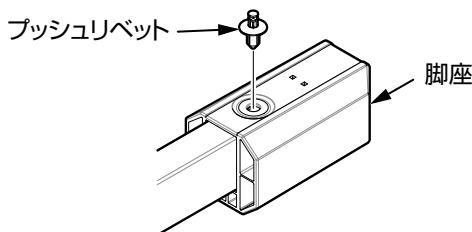
2 脚座をプッシュリベットで固定する（4ヶ所）

1. 脚座にプッシュリベットを差し込みます。
2. カチッと音がするまで軸を押し込みます。

●脚座(高さ25cm)の場合



●脚座(高さ20cm)の場合



注意

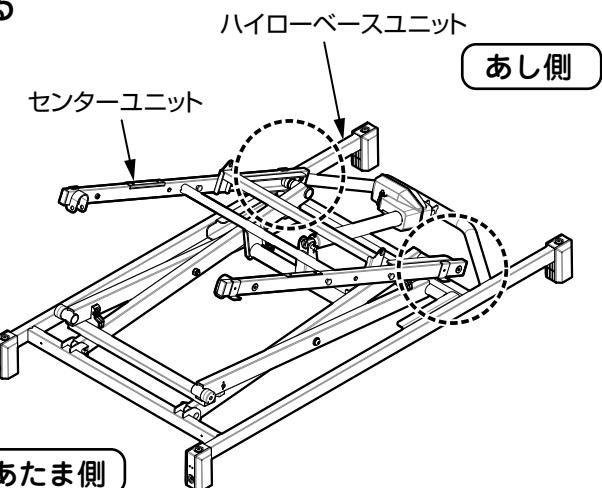
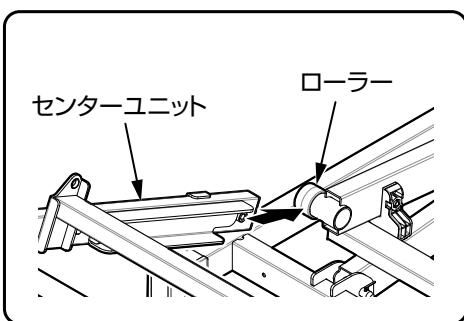
- ◆脚座はプッシュリベットで確実に固定してください。事故、破損の原因となります。
- ◆4ヶ所の脚座の高さが全て同じ高さになっていることを必ず確認してください。

STEP3 センターユニットの取り付け

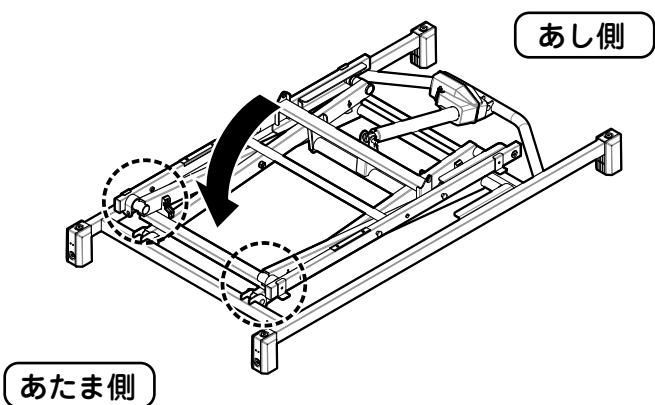
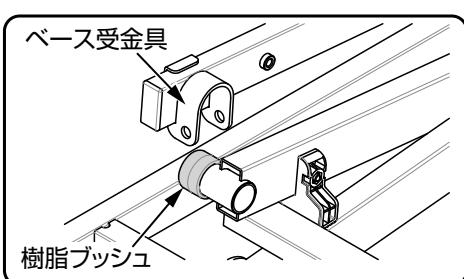
1

↑あたま側↑ ラベルの矢印方向をハイローベースユニットの「あたま側」に向けて、ハイローベースユニットにのせる

- センターユニットの受けにハイローベースユニットのローラーをはめ込みます。（左右2ヶ所）



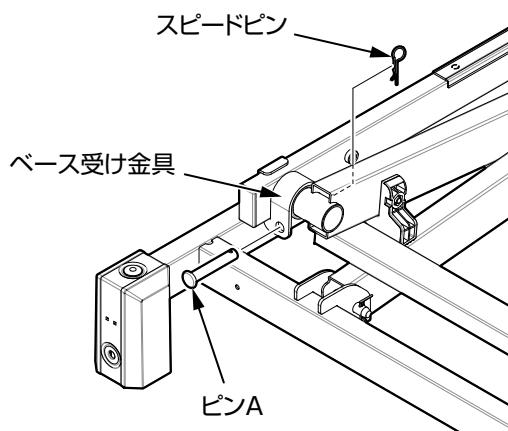
- センターユニットのあたま側のベース受金具にハイローベースユニット頭側の樹脂ブッシュにのせます。（左右2ヶ所）



2

センターユニットをハイローベースユニットに固定する

ベース受金具の穴にピンAを差し込み、スピードピンで固定します（左右2ヶ所）。



注意

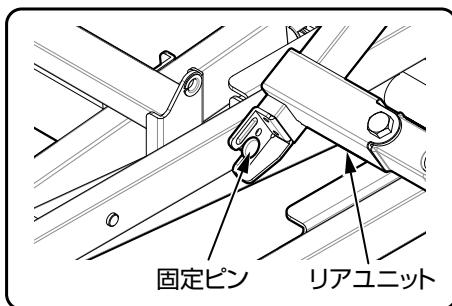
事故・破損・ケガの原因になります。

- センターユニットのあたま側ラベルとハイローベースユニットのあたま側ラベルの向きを合わせて取り付けてください。
- ピンAとスピードピンはしっかりと差し込んでください。
- 手、指を挟まないように注意してください。

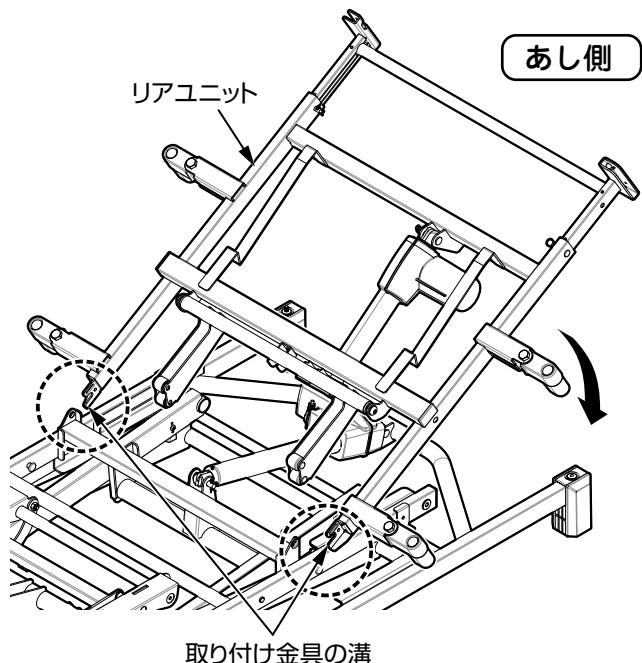
STEP4 リアユニットの取り付け

1 リアユニットをセンターユニットにのせる

1. リアユニットを右イラストのように傾けて、取り付け金具の溝をセンターユニットの固定ピンに引っ掛けます。（左右2ヶ所）

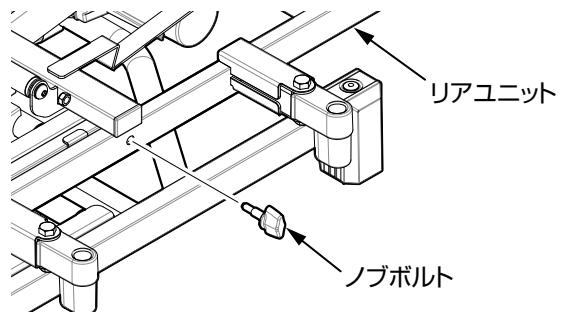


2. リアユニットをゆっくりと傾けて水平にします。



2 リアユニットをノブボルトで固定する

リアユニット側面の穴をセンターユニットのネジ穴に合わせ、ノブボルトで固定します（左右2ヶ所）。



事故・破損・ケガの原因になります。

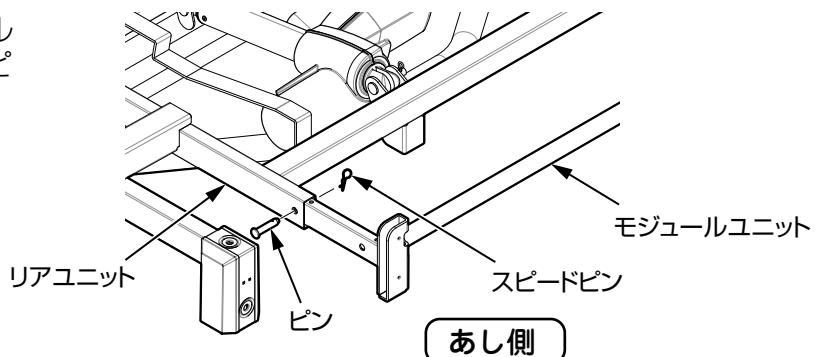
- ◆ノブボルトは確実に締め付けてください。ノブボルトがゆるんでベッドが落下し、ケガをするおそれがあります。
- ◆ノブボルトがゆるんでいないか定期的に確認してください。

3 ベッド長さを調節する

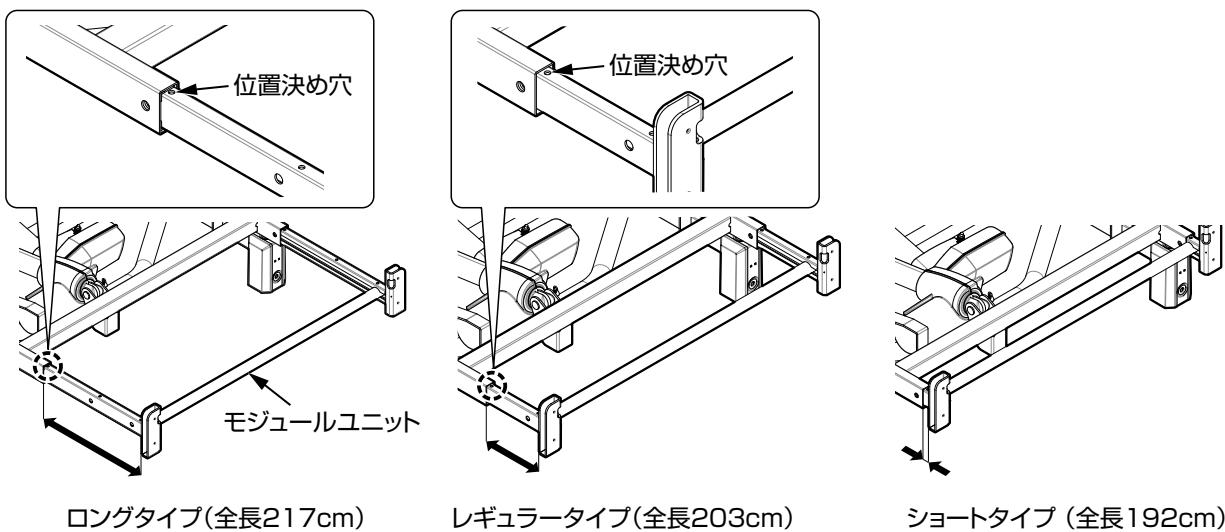
※初期設定は、レギュラータイプ（全長203cm）となります。

ロングタイプ（全長217cm）、ショートタイプ（全長192cm）で使用するときのみ、おこないます。

1. リアユニットのモジュールユニットを固定しているピンを取り外します。（左右）

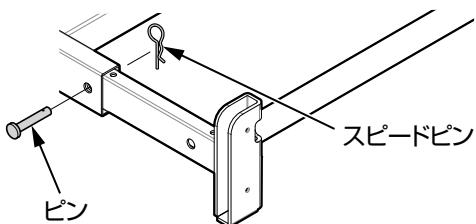


2. リアユニットのモジュールユニット長さを調節します。



モジュールユニットの位置決め穴をリアユニットパイプ端に合わせることで調節が容易に
おこなえます。

3. 先の手順で外したピンを通してスピードピンで固定します。（左右）



警告

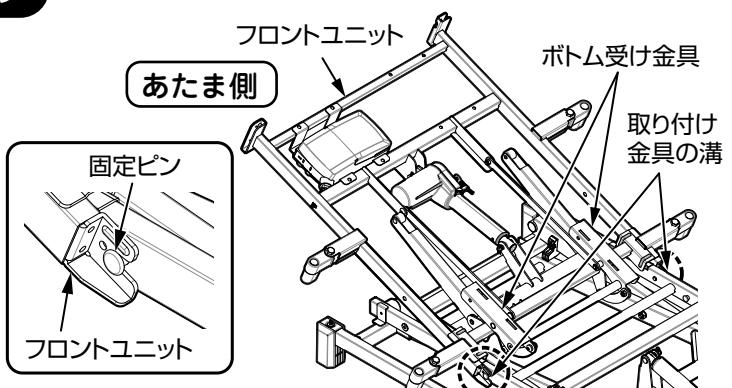
事故・破損・ケガの原因になります

◆ピンはリアユニット外側から差し込み、スピードピンで確実に固定してください。

STEP5 フロントユニットの取り付け

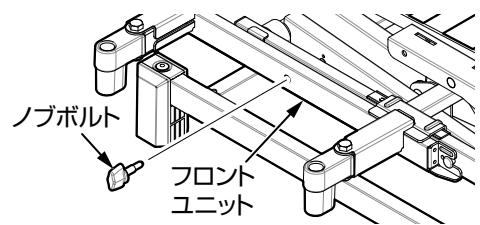
1 フロントユニットをセンターユニットにのせる

1. フロントユニットを右イラストのように傾けて、取り付け金具の先端の溝をセンターユニットの固定ピンに引っ掛けます。
2. フロントユニットをゆっくりと倒して水平にします。



2 フロントユニットをノブボルトで固定する

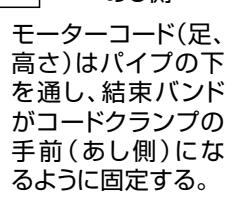
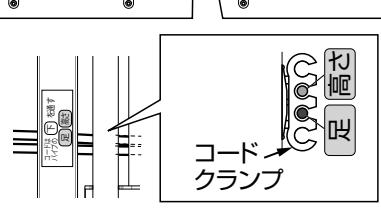
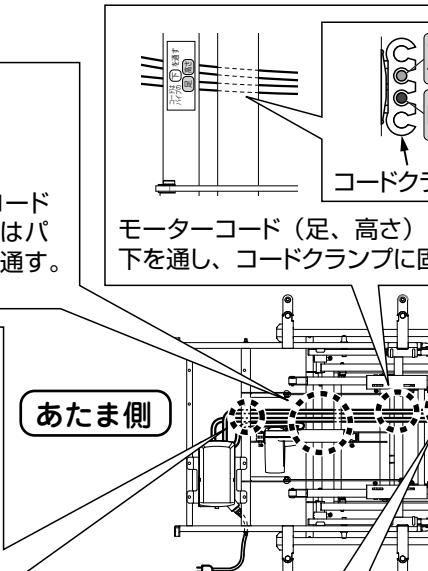
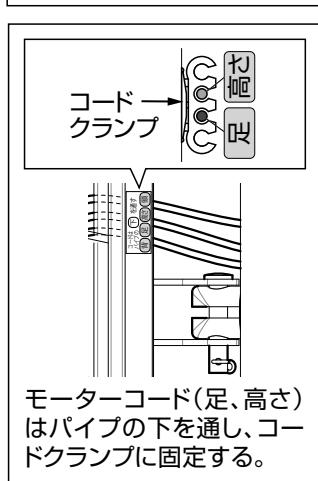
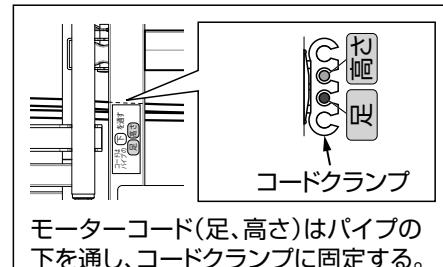
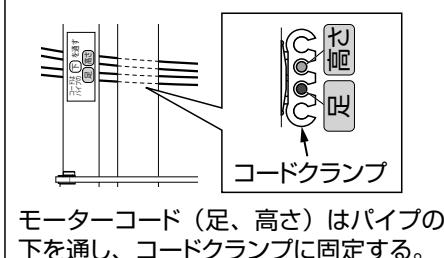
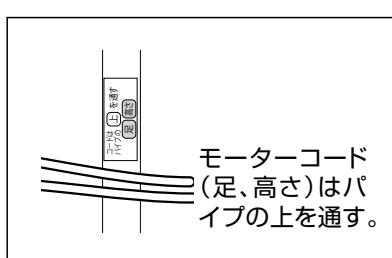
フロントユニット側面の穴をセンターユニットのネジ穴に合わせ、ノブボルトで固定します(左右2ヶ所)。



注意

- ◆ノブボルトは確実に締め付けてください。ノブボルトがゆるんでベッドが落下し、ケガをするおそれがあります。
- ◆ノブボルトがゆるんでいないか定期的に確認してください。
- ◆フロントユニットを傾けた際にボトム受け金具が開いてしまうことがあるので、注意して取り付けてください。

3 モーターコード(足)と(高さ)を配線する(足はWR3のみ)



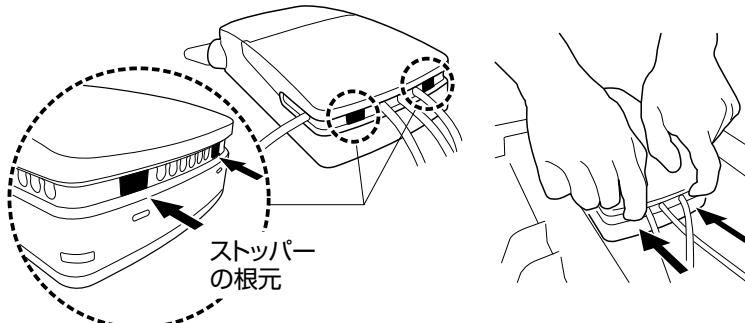
注意

事故・破損の原因になります。

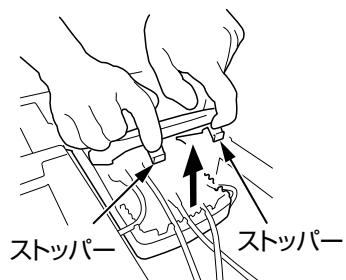
- ◆モーターコード(足)および(高さ)が可動部に絡んだり、挟み込まないように、正しく配線してください。

4 電源ボックスの上ふたを開ける

1. ストップバーの根元を矢印の方向に指で押し込みます。



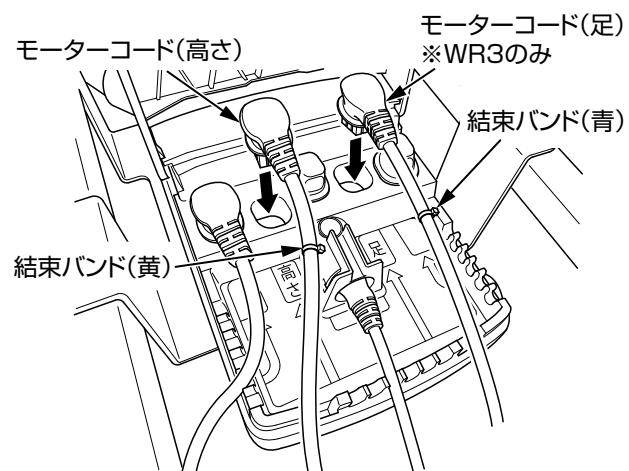
2. 押し込みながら上方向に持ち上げます。



※ストッパー機構のため、開けにくい場合があります。

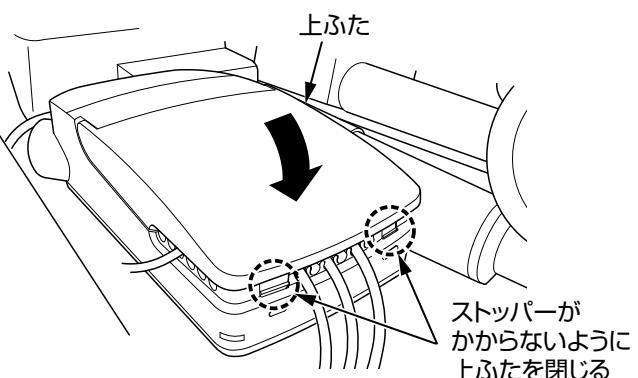
5 モーターコード（足）と（高さ）を接続する（足はWR3のみ）

1. 接続口（足）と（高さ）のモーターキャップを外します。
取り外したモーターキャップは、ベッド付属の組み立てピンセットに収納してください。
2. モーターコード（足）と（高さ）を接続します。



6 電源ボックスを閉じる

電源ボックスの上ふたをストップバーがかかるないように程度に閉じます。



注意

静電気によって故障するおそれがあります

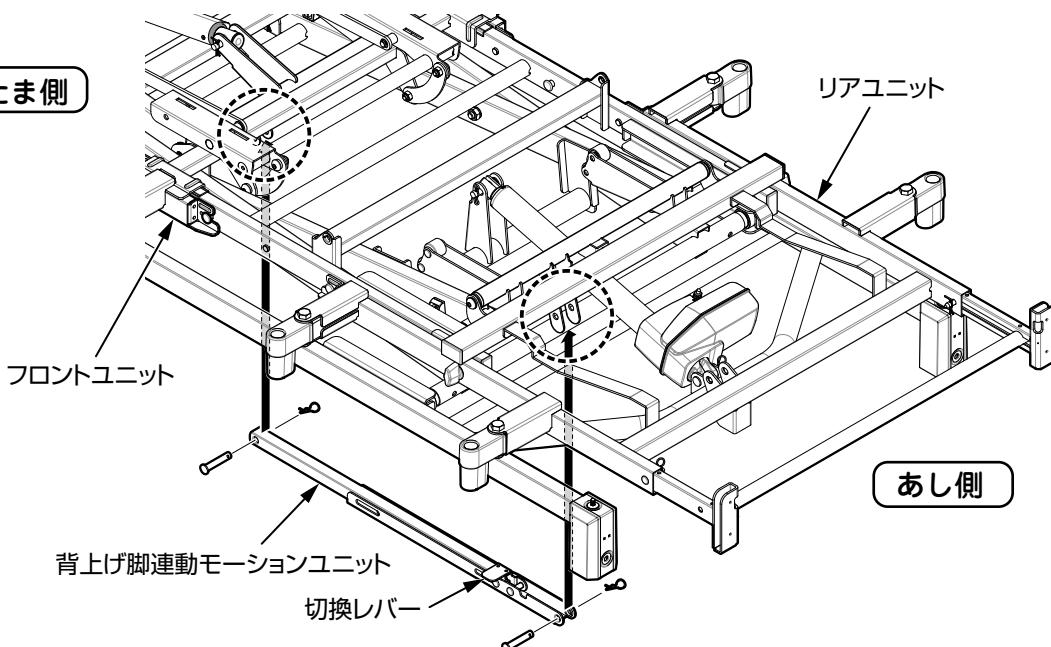
- ◆静電気は衣類や人体に帯電しています。コード類を電源ボックスに接続する前に、ベッド以外の金属製のものに触れるなどして、必ず静電気を逃してください。
故障や感電の原因となるおそれがあります。
コード類を接続する際には接続口に直接手を触れないでください。

電源プラグは、電源ボックスに全てのモーターコードを接続した後に、コンセントに差し込んでください

- ◆電源プラグをコンセントに差し込んだ状態でモーターコードを抜き差しすると、モーターが破損するおそれがあります。

1 背上げ脚運動モーションユニットの取り付け先を確認する

あたま側

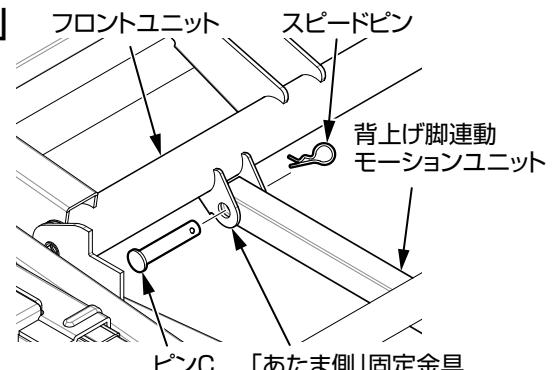


設置

2 背上げ脚運動モーションユニットからピンCとスピードピン(各2個)を外す

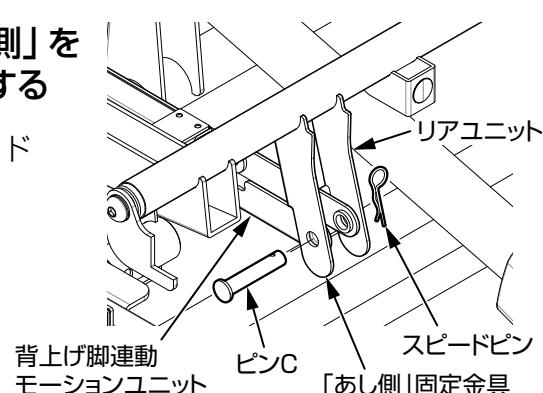
3 背上げ脚運動モーションユニットの「あたま側」をフロントユニットの「あたま側」固定金具に固定する

ピンCを「あたま側」固定金具の穴に通してスピードピンで固定します。



4 背上げ脚運動モーションユニットの「あし側」をリアユニットの「あし側」固定金具に固定する

ピンCを「あし側」固定金具の穴に通してスピードピンで固定します。



注意

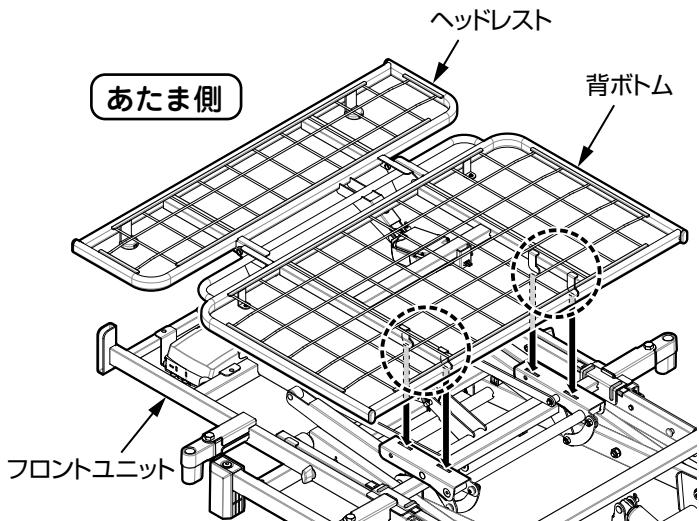
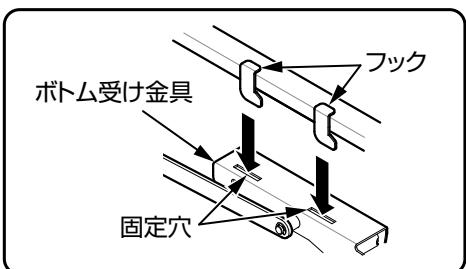
事故・破損の原因になります

- ◆膝・脚ボトムの落下に注意してください。
- ◆ピンCはスピードピンで確実に固定してください。

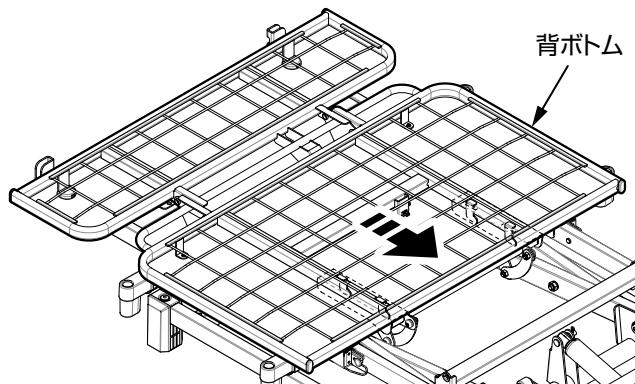
STEP7 背ボトムの取り付け

1 背ボトムを取り付ける

1. 背ボトムの止めフックをフロントユニットのボトム受け金具の固定穴に差し込みます。

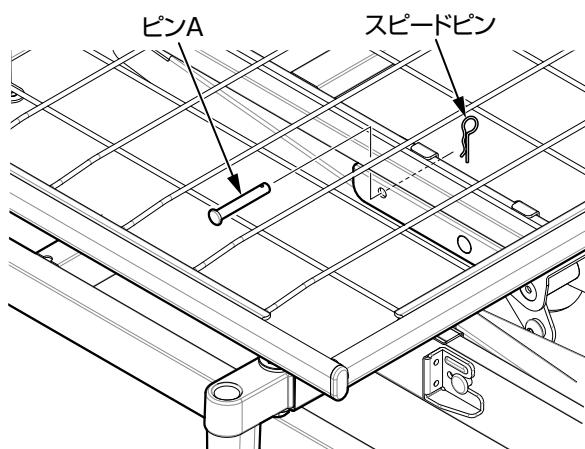


2. 背ボトムのフックがボトム受け金具の固定に引っかかるように背ボトムをあし側にスライドさせて固定します。



2 背ボトムをピンAとスピードピンで固定する

ボトム受け金具の穴にピンAを差し込み、スピードピンで固定します
(左右2ヶ所)。

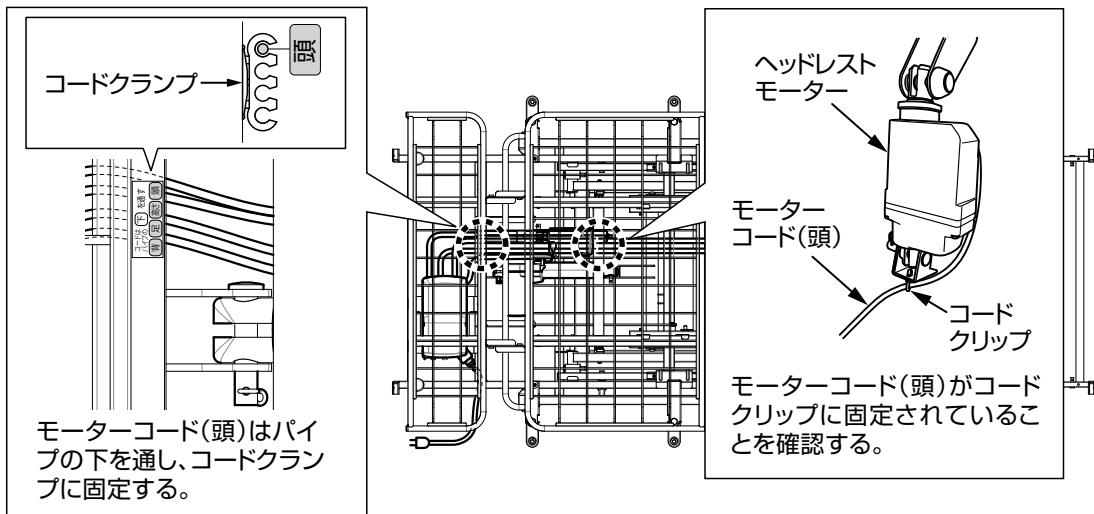


注意

事故・破損の原因になります

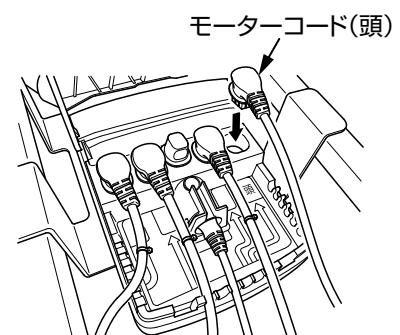
- ◆背ボトムの止めフックがボトム受け金具の固定穴に確実に入っているかを必ず確認してください。
- ◆ピンAとスピードピンはしっかりと差し込んでください。

3 モーターコード（頭）を配線する



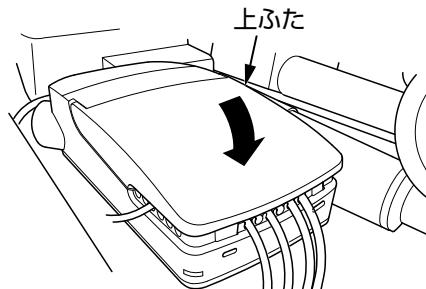
4 モーターコード（頭）を接続する

1. 背ボトムを持ち上げ、電源ボックスの上ふたを開きます。
2. 接続口（頭）のモーターキャップを外し、モーターコード（頭）を接続します。モーターキャップは付属の組み立てピンセットに収納してください。



5 電源ボックスを閉じる

電源ボックスの上ふたをしっかりと押さえ、閉めます。ふたのストッパーが引っかかるまでしっかりと押さえ、閉めます。ストッパーが引っかかって開かないことを必ず確認します。



注意

事故・破損の原因になります

- ◆電源ボックスの上ふたは、ストッパーが引っかかるまでしっかりと押さえ、閉めます。ストッパーが引っかかって開かないことを必ず確認します。
- ◆モーターコード（頭）が可動部に絡んだり、挟み込まれないように正しく配線してください。

静電気によって故障するおそれがあります

- ◆静電気は衣類や人体に帯電しています。コード類を電源ボックスに接続する前に、ベッド以外の金属製のものに触れるなどして、必ず静電気を逃してください。故障や感電の原因となるおそれがあります。
- コード類を接続する際には接続口に直接手を触れないでください。

電源プラグは、電源ボックスに全てのモーターコードを接続した後に、コンセントに差し込んでください

- ◆電源プラグをコンセントに差し込んだ状態でモーターコードを抜き差しすると、モーターが破損するおそれがあります。

ヘッドレストの曲げ位置調節について

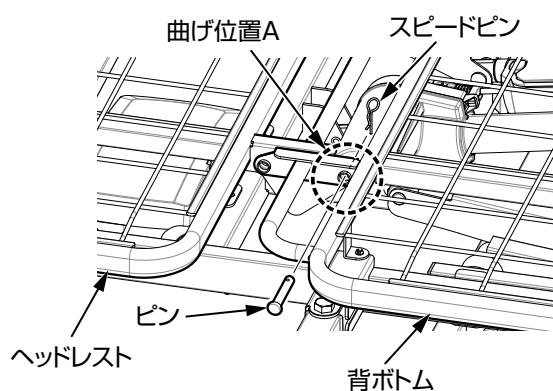
支点になるピンの位置を変えることで、ヘッドレストの曲げ位置を変更できます。

※曲げ位置調節をおこなう場合は、ヘッドレストおよび背ボトムを水平にしておこなってください。

工場出荷時は、曲げ位置Aになっています。曲げ位置Bに変更する場合は、以下の手順でおこなってください。

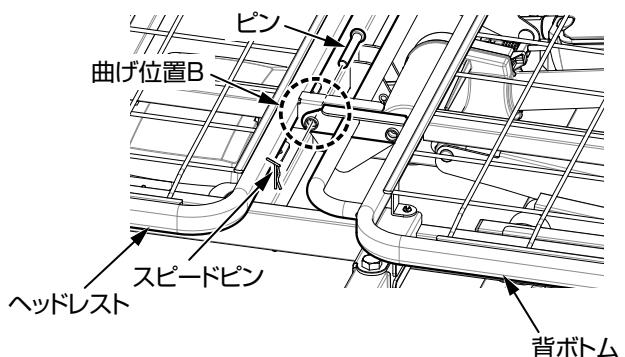
●ヘッドレストの曲げ位置をAからBに変更する場合

1. スピードピンを外し、ピンを抜きます。



2. もう一方の穴にピンを差し込み、スピードピンで固定します。

※必ず左右で同じ位置の穴で使用してください。



3. 手元スイッチの「頭曲げ位置設定」で、曲げ位置Bに設定してください。 27 ページ 参照

※ヘッドレストの曲げ位置をBからAに変更する場合は、逆の手順でおこなってください。
また、手元スイッチの「頭曲げ位置設定」で曲げ位置Aに設定してください。



注意

ケガ・破損の原因になります

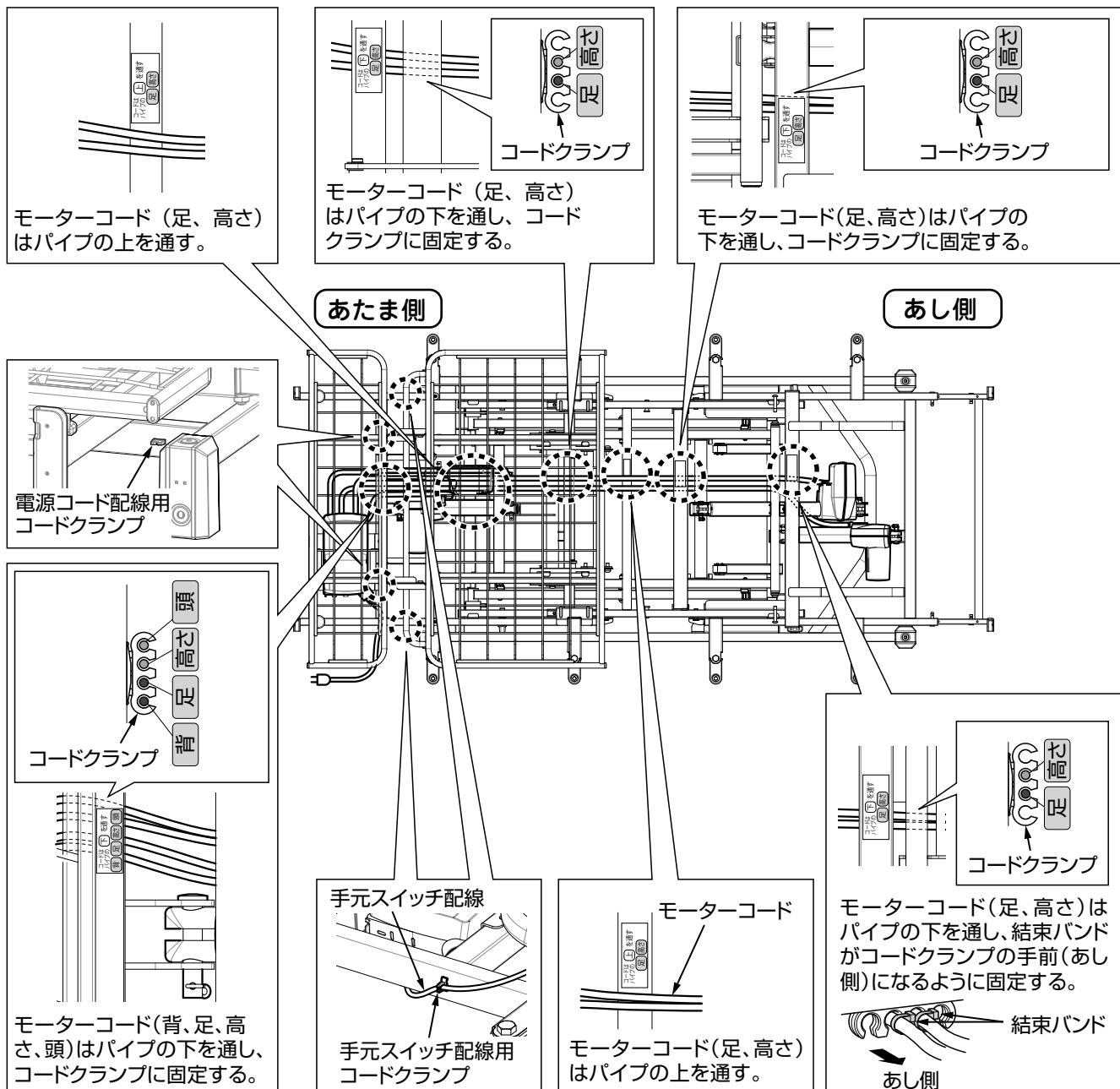
- ◆ピンは必ず両方同じ位置（A位置ならA位置、B位置ならB位置）に確実にスピードピンで取り付けてください。
- ◆ヘッドレストを上げた状態でヘッドレストに大きな負荷をかけないでください。
- ◆ヘッドレストを上げた状態で背ボトムを必要以上に高く上げないでください。
ご利用の方が体位を崩し、ベッドから転落するおそれがあります。ベッド頭側にサイドレールや介助バーを取り付け、転落事故を未然に防いでください。ご使用にならない際は水平な位置に戻してください。
- ◆ヘッドレストは介護者が操作してください。体位をご自分で保持できない方がご使用になる場合、介護者がベッドから離れる際には、安全確保のためヘッドレストを水平な位置に戻してください。

STEP8 コードの配線と動作確認

1

電源コード、手元スイッチ、モーターのコードの配線を確認する

- 各コードは、パイプに貼られているラベルにしたがい、正しく配線してください。



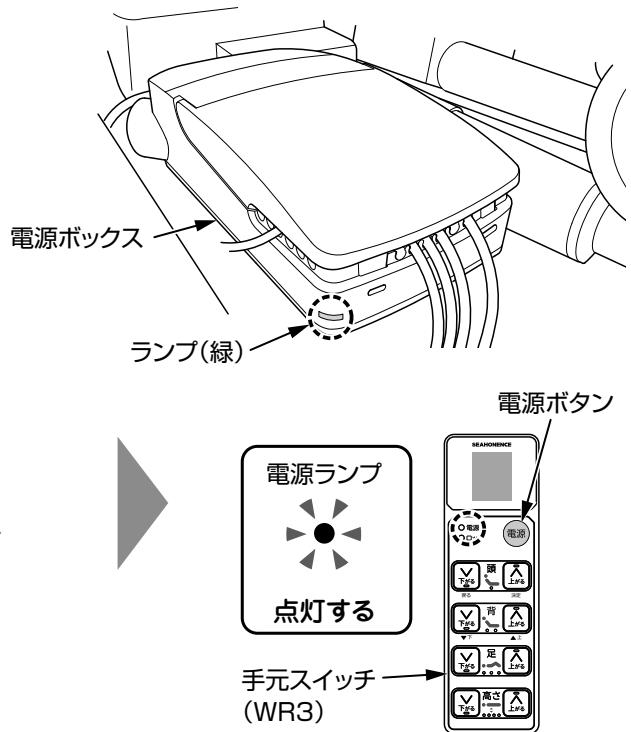
警告

破損・感電・火災の原因になります

- 各コードが正しく配線され、コードクランプに固定されていることを確認してください。
- 脚座やキャスターに踏まれたり、可動部に絡んだり、挟み込まれたりすると、コードの破損、感電、火災につながるおそれがあります。

2 電源プラグをコンセントに差し込む

電源プラグをコンセントに差し込みます。
電源ボックスのランプが緑色に点灯します。
手元スイッチの電源ボタンを押すと電源ランプが緑色に点灯します。



3 ベッドを動作させる

手元スイッチの「頭」、「背」、「足」(WR3のみ)、「高さ」ボタンを押すと、ベッドの各部分が動きます。

この時点で下記の項目を確認してください。

- ・電源プラグをコンセントに差し込むと電源ボックスのランプが緑色に点灯しますか？
- ・手元スイッチの電源ボタンを押すと電源ランプ（緑）が点灯しますか？
- ・センターユニット（2ヶ所）、背ボトム（2ヶ所）で固定したピンA、スピードピンは確実に固定されていますか？
- ・フロントユニット（2ヶ所）、リアユニット（2ヶ所）で固定したノブボルトは確実に固定されていますか？
- ・モーターから異常音がしませんか？
- ・「頭」、「背」、「足」(WR3のみ)、「高さ」がスムーズに動作しますか？
- ・(WR2)「背」の上がる、下がるボタンを押して、脚運動が正しく動作していますか？

以上の項目を確認して、異常がある場合は、もう一度35ページ「組み立てた」のSTEP1から見直してください。

それでも異常が解消されない場合は、組み立てをやめて電源プラグをコンセントから抜き、販売店または弊社カスタマーサポートにご連絡ください。



注意

事故・破損の原因になります

電源プラグは、電源ボックスに全てのモーターコードを接続した後に、コンセントに差し込んでください

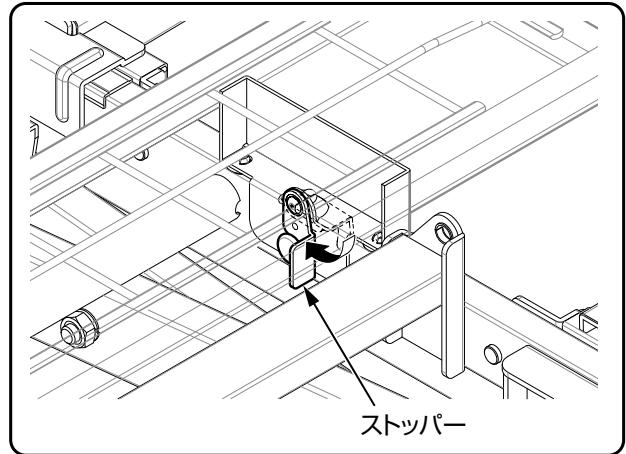
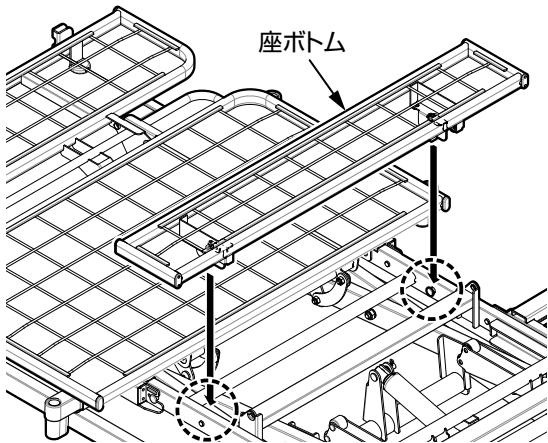
◆電源プラグをコンセントに差し込んだ状態でモーターコードを抜き差しすると、モーターが破損するおそれがあります。

STEP9 座ボトムの取り付け

1 座ボトムを取り付ける

1. 座ボトムの受け口が、センターユニット内側の固定ピンにかみ合うよう、しっかり取り付けます。
2. フック用ストッパーを回転させ、固定ピンに確実に固定してください。

あたま側



注意

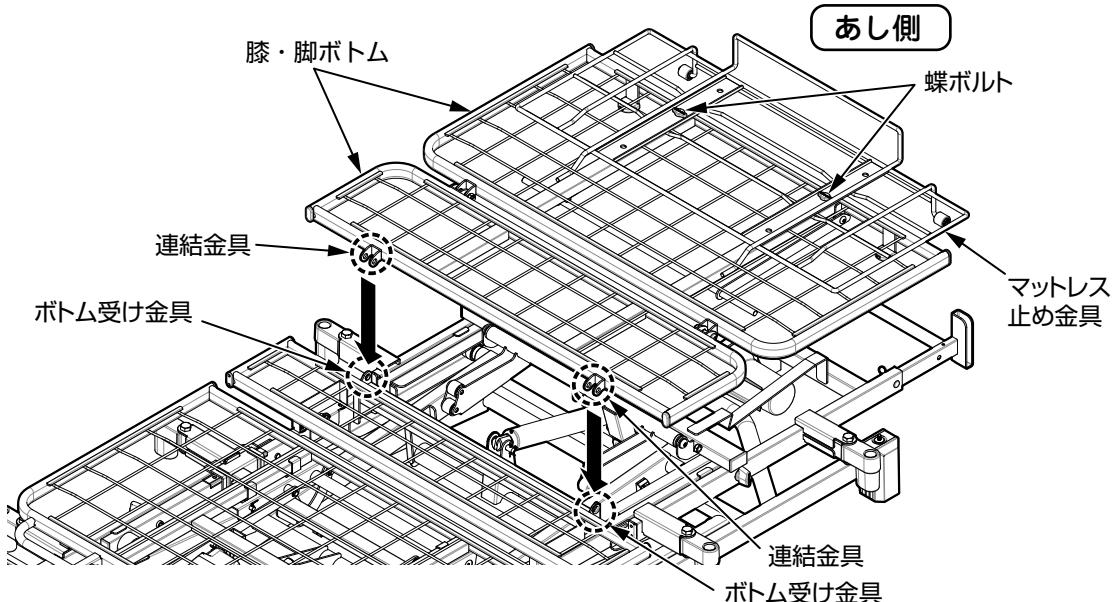
事故・破損の原因になります

◆座ボトムは、フック用ストッパーで確実に固定してください。

STEP10 膝・脚ボトムの取り付け

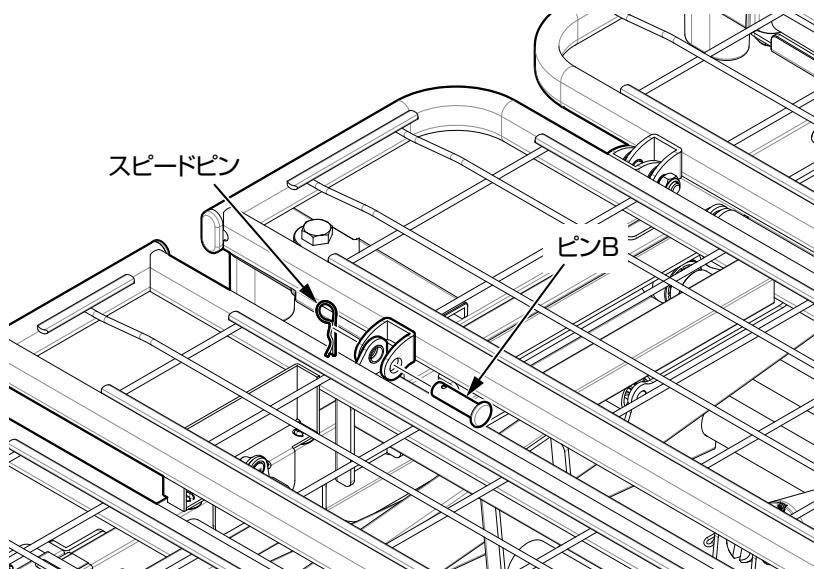
1 膝・脚ボトムを取り付ける

膝・脚ボトムとセンターユニットにのせ、膝・脚ボトムの連結金具とボトム受け金具の穴を合わせます。



2 膝・脚ボトムをピンB、スピードピンで固定する。

ベッド内側からピンBを差し込み、スピードピンで固定します（左右2ヶ所）。



注意

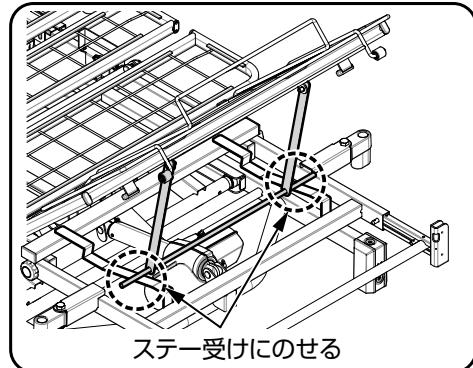
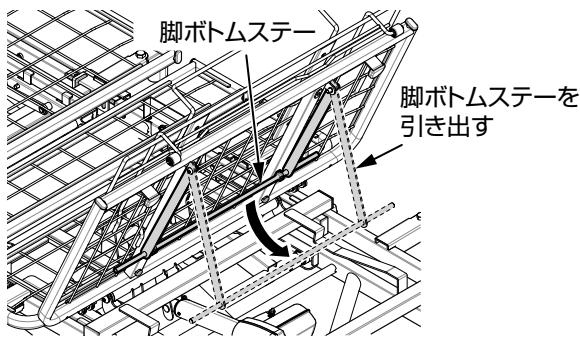
事故、破損の原因になります。

- ◆膝ボトムの止めフックがボトム受け金具の固定穴に確実に入っているか必ず確認してください。
- ◆ピンBは、ベッドの内側から外側に向けて差し込み、スピードピンで固定してください。
- ◆脚ボトムの落下に注意してください。
- ◆マットレス止め金具を固定している蝶ボルトがゆるんでいないか定期的に確認してください。

脚先角度調節について

足のむくみ対策のため、膝上げ時に足先を持ち上げることができます。

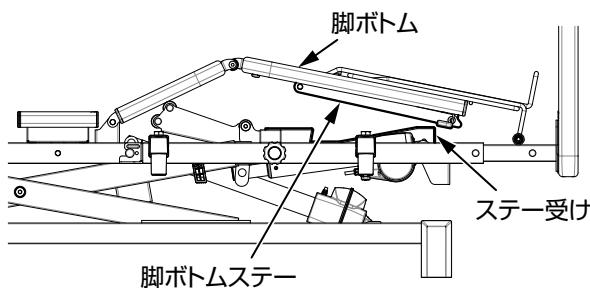
1 脚ボトムを持ち上げ、裏側にある脚ボトムステーをステー受けにのせる



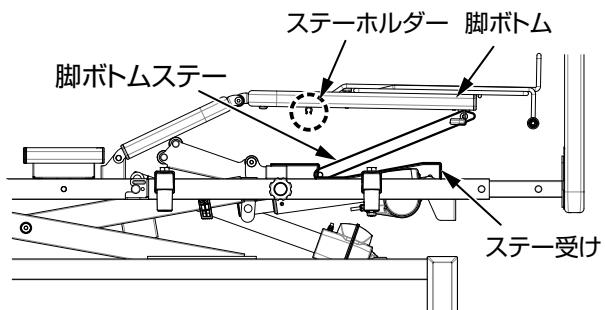
Point

- 脚ボトムステーを使用することにより脚ボトムを持ち上げることができます。

使用しないとき



使用したとき



- ・膝ボトムの持ち上げ角度に応じて脚ボトムが持ち上がります。
- ・脚ボトムステーを使用しない場合、脚ボトムを持ち上げて、脚ボトムステーをステーholder（左右2ヶ所）にはめ込んでください。



注意

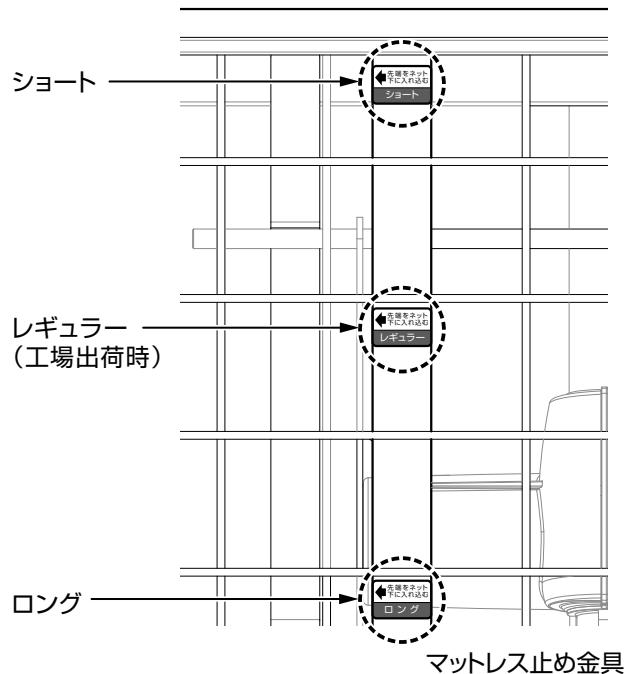
ケガ・破損の原因になります

- ◆脚先角度調節の際は、手や腕などをはさまないように注意してください。
- ◆脚先角度調節は、ベッドをご使用中の方に必ずベッドから降りていただいてからおこなってください。

STEP11 マットレス止め金具の取り付け

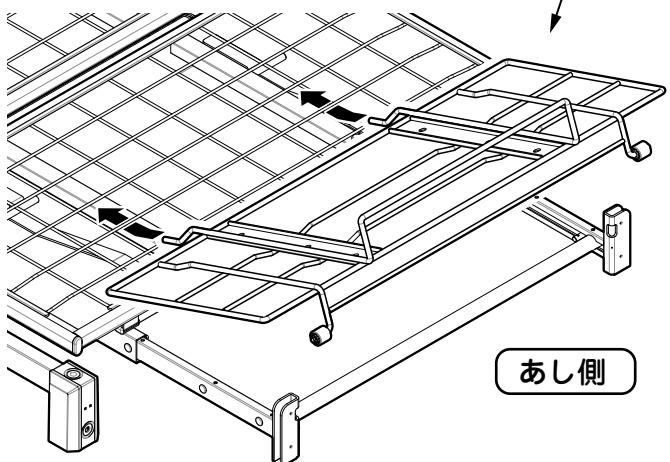
1 マットレス止め金具の位置を決める

- ・ 使用するベッドの長さ(ショート、レギュラー、ロング)により、マットレス止め金具の取り付け位置がかわります。
- ※工場出荷時はレギュラー位置に取り付けられています。
- ・ 39ページ「④ベッド長さを調節する」で調節したベッド長さに合わせてマットレス止め金具を固定してください。
- ここでは、「ロング」の位置に調節する場合を説明します。

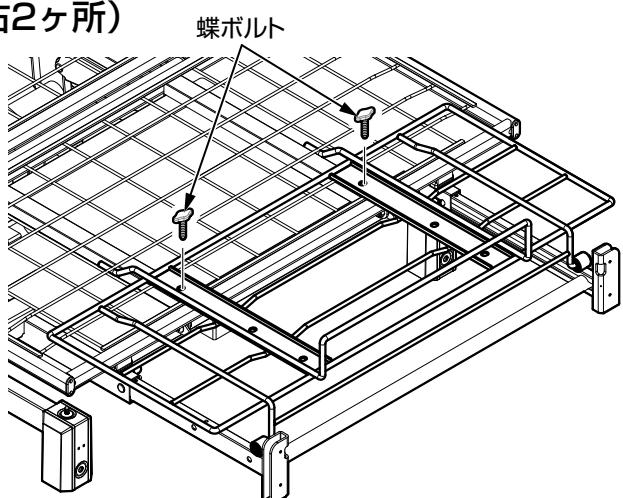


2 蝶ボルト(左右2ヶ所)を取り外す

3 ロングラベルの位置に マットレス止め金具の先端を ネット下に入れ込む



4 マットレス止め金具を蝶ボルト(左右2ヶ所) で固定する

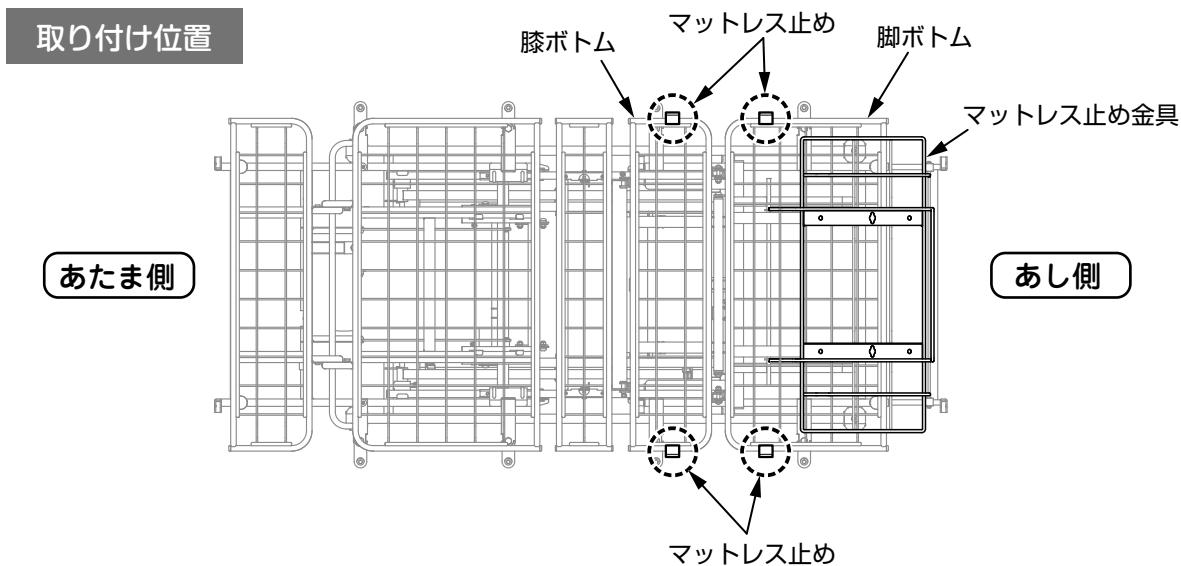


注意

- ◆蝶ボルトで固定した後に、マットレス止め金具のガタツキがないかを必ず確認してください。
- ◆ロングサイズで使用する場合は、必ず延長マットレス(LBU-MB830/LBU-MB900)を使用してください。【64ページ 参照】

STEP12 マットレス止めの取り付け

下図を参考して取り付けてください。



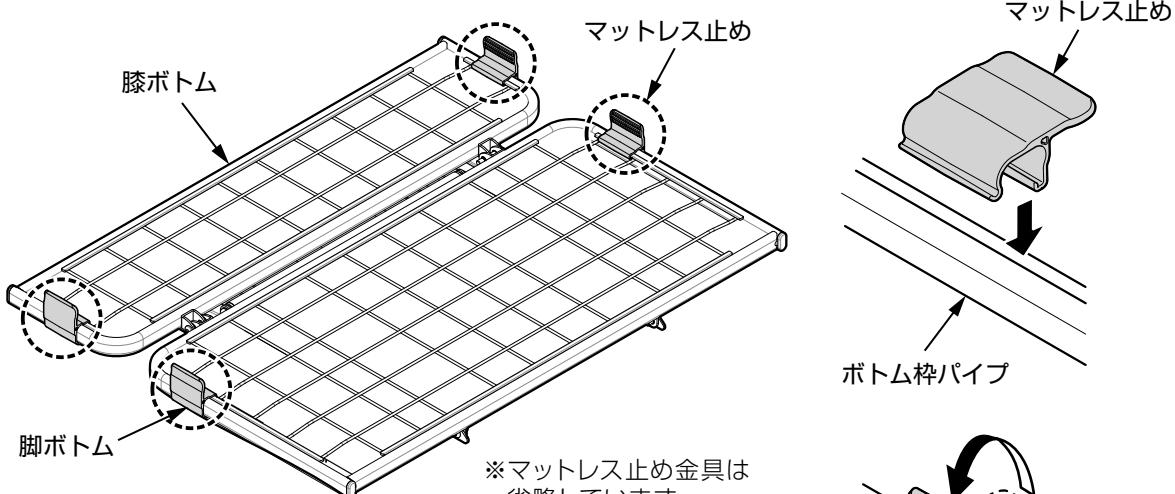
注意

◆背ボトムと座ボトムへのマットレス止めの取り付けは、ベッドの乗り降りの邪魔になるおそれがあるためおすすめできません。

1

はめ込む

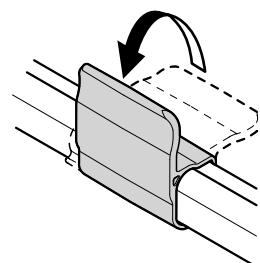
マットレス止めをボトム枠パイプにはめ込みます。



2

固定する

取り付けたマットレス止めを矢印方向に回転させてボトム枠パイプに固定します。



注意

◆ベッドの乗り降りのときなどに、マットレス止めに身体をぶつけないように注意してください。ケガをするおそれがあります。



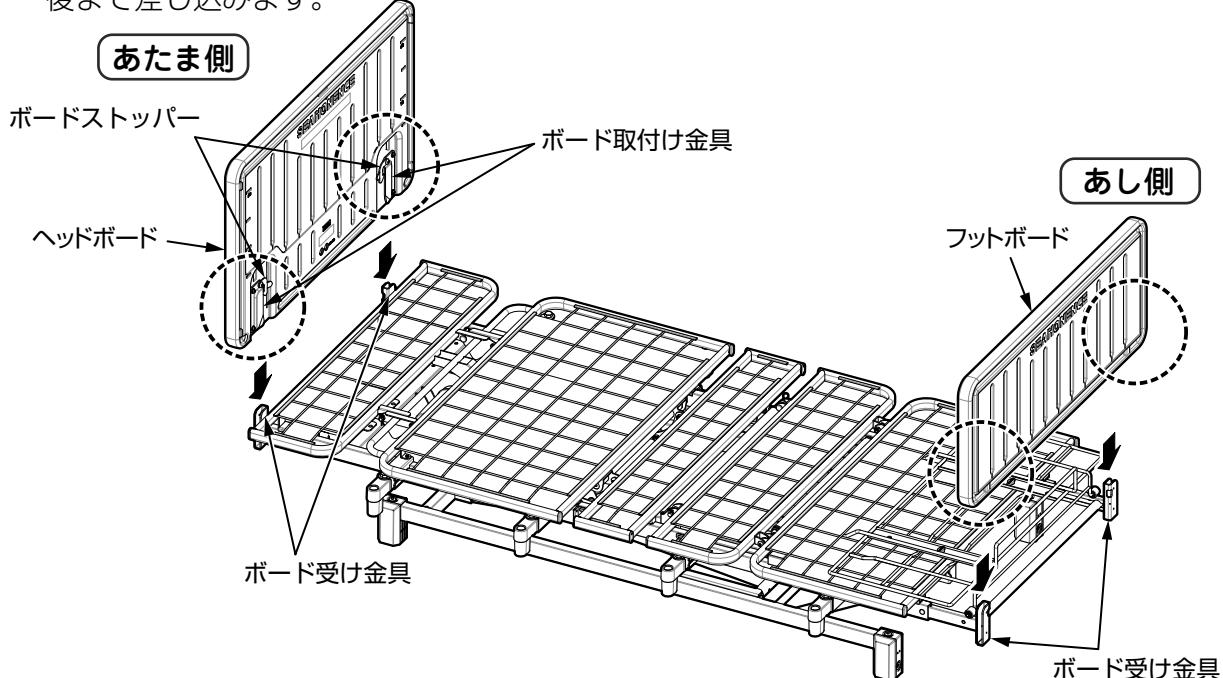
注意

事故、破損、ケガをします。

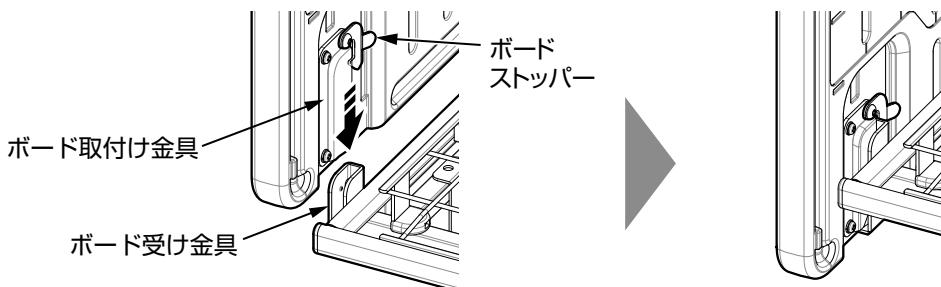
- ◆ヘッド・フットボードの取り付け、取り外しの際は、手や指などを挟まないように注意してください。
- ◆取り付け、取り外しの際にヘッドボード・フットボードを落下させないように注意してください。
- ◆ヘッド・フットボードはしっかりと最後まで差し込み、確実にボードストッパーで固定してください。ボードが外れるおそれがあります。
- ◆ヘッド・フットボードには腰を掛けたり寄りかかったり無理な荷重をかけないでください。

1 ヘッド・フットボードを取り付ける

ボード受け金具のボードストッパーを下におろした状態で、ボード受け金具にしっかりと最後まで差し込みます。



ボードストッパーは、ボード受け金具に自然にかかり、ボード受け金具に固定されます。



注意

- ◆ボードストッパーがボード受け金具の穴に掛かっていることを必ず確認してください。ボードが不意に外れて、ケガをするおそれがあります。

組み立て後の点検

ベッドの組み立てが終了したら、以下の項目にそって点検してください。



警 告

事故、破損の原因になります。

- ◆ベッド組み立て後は必ず点検をおこなってください。組み立てが不十分な状態で使用すると、ケガや故障のおそれがあります。
- ◆手元スイッチで操作しながら点検している際に、異常音や振動が生じた場合は、すぐにベッドの使用をやめて販売店または弊社カスタマーサポートへにご連絡ください。

点 検 項 目		参 照 ペー ジ	チ ケ ッ ク
センターユニットの取り付け			
1	①センターユニットの向きは合っていますか？ ②ピンAとスピードピンは確実に差し込まれていますか？	p.37	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
リアユニットの取り付け			
2	①ユニット先端の溝が確実に固定ピンに差し込まれていますか？ ②ノブボルトは確実に固定されていますか？	p.38	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
フロントユニットの取り付け			
3	①ユニット先端の溝が確実に固定ピンに差し込まれていますか？ ②ノブボルトは確実に固定されていますか？	p.40 p.41	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
背ボトムの取り付け			
4	①背ボトムの止めフックが固定穴に確実に差し込まれていますか？ ②ピンAとスピードピンは確実に差し込まれていますか？ ③ヘッドレストの固定ピンは左右同じ位置に差し込まれていますか？	p.43 p.44	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
各コードの配線と接続			
5	①各モーターコードは電源ボックスの正しい位置に確実に差し込まれていますか？ ②各コードが可動部に絡んだり、挟み込まれがありませんか？ ③各モーターコードがコードクランプまたはコードクリップに確実に固定されていますか？	p.40 p.44 p.46	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
座ボトムの取り付け			
6	①固定ピンにフック用ストッパーで確実に固定されていますか？	p.48	<input type="checkbox"/>
膝・脚ボトムの取り付け			
7	①ピンBとスピードピンは確実に差し込まれていますか？	p.49	<input type="checkbox"/>
電源（ベッドと手元スイッチ）			
8	①ベッドの電源プラグをコンセントに差し込んでいますか？ ②手元スイッチの電源ボタンを押すと電源ランプ（緑）が点灯しますか？	p.47	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
操作について			
9	①手元スイッチの操作ボタンを押して、「頭」、「背」、「足」、「高さ」がスムーズに動作しますか？ ②モーターから異常音がしませんか？ ③背ボトムを上げた際、または高さを昇降させた際にベッドが周囲の家具などに接触しませんか？	p.47	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

以上の項目を点検しても異常がある場合には、電源プラグをコンセントから抜き販売店、または弊社カスタマーサポートにご連絡ください。



注意

事故、破損の原因になります。

◆このベッドには、必ず弊社製品のオプションを使用してください。

他社製品は、寸法などが適合しないだけでなく、ベッドに負担をかけて故障の原因になります。

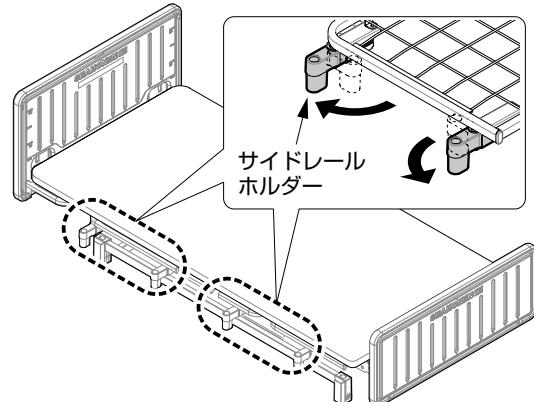
◆各オプションに付属の取扱説明書も必ずお読みください。

サイドレールホルダーの使用方法

ベッド両側のサイドレールホルダーを利用して、サイドレール、サポートグリップ、回転式アーム介助バー、IV ポールなどが使用できます。

サイドレールホルダーは回転させることにより、ボトム下部に格納できます。

格納するとベッドからの突出を抑えて、車椅子をより接近させることができます。移乗や歩行時にも引っかかりや動作の妨げにはなりません。



サイドレール (JIS認証対象)

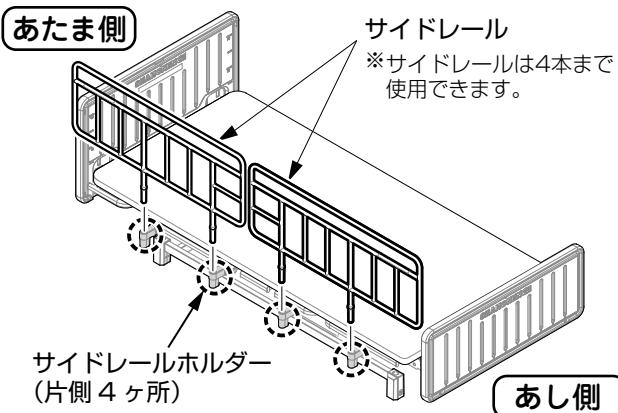
ベッド両側のサイドレールホルダーを利用してサイドレールを使用できます。

※適合するサイドレール、ベッドへの取り付け位置は組み合わせ表^{※1} を参照して正しく取り付けてください。

※必ずベッドのサイズに合ったサイドレールをご使用ください。

※本製品と組み合わせ表^{※1} のサイドレールの組み合わせは JIS 認証を取得しています。図表以外のサイドレールと組み合わせた場合、JIS 認証を取得していない状態となります。

※1 56~60 ページ



警告

事故・破損・ケガの原因になります

◆サイドレール挿入部を2ヶ所ともベッドのサイドレールホルダーに必ず差し込んでください。

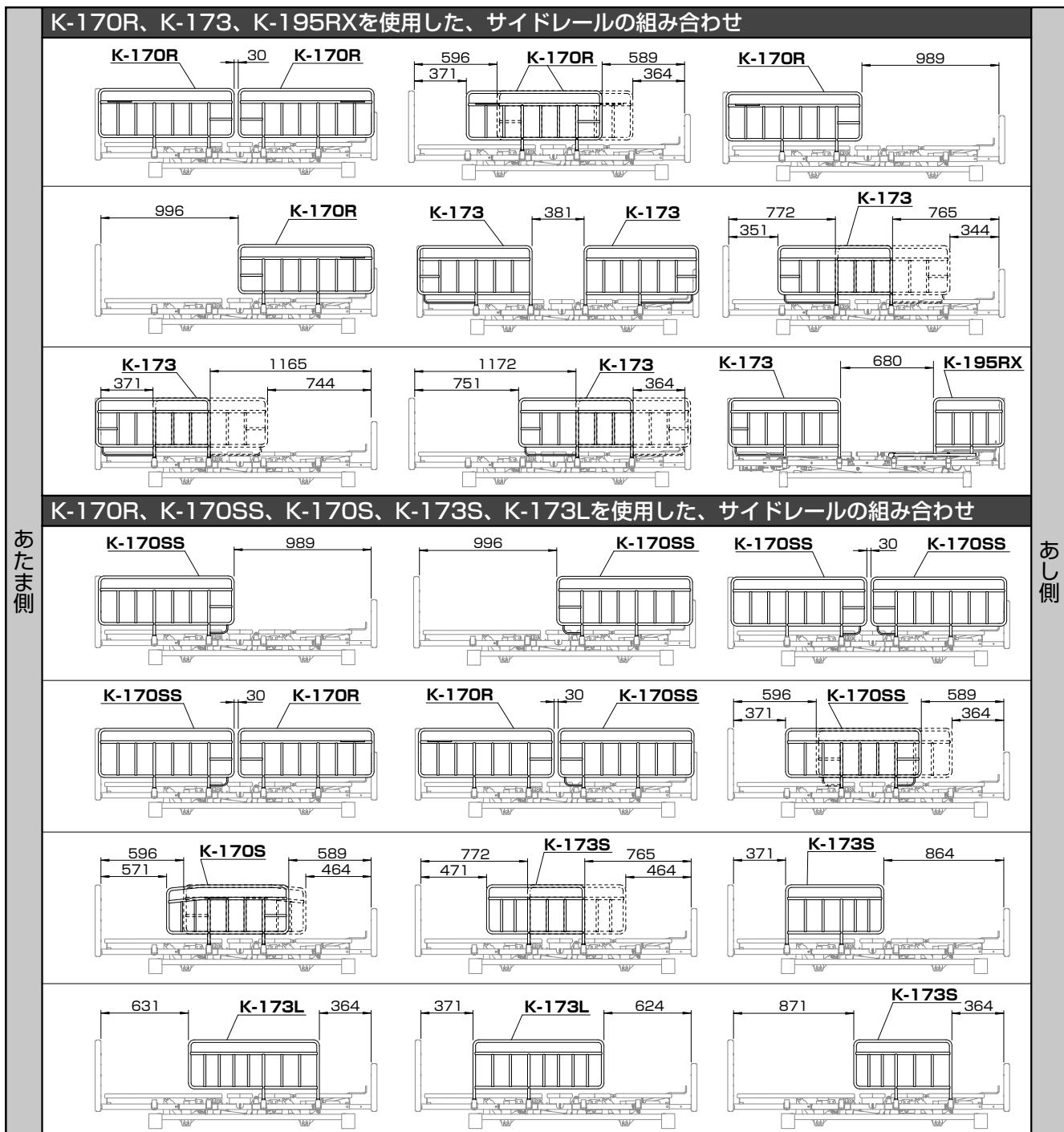
◆サイドレールを取り付ける際は、サイドレールホルダーに異物が入っていないことを確認してください。

異物が入っていると確実に取り付けることができず、ベッドからの転落や、意図せぬすき間が発生することにより、身体の一部がはさまれてケガをするおそれがあります。

◆組み合わせを間違えると事故につながるおそれがあります。

● レギュラーサイズの組み合わせ表

(単位:mm)



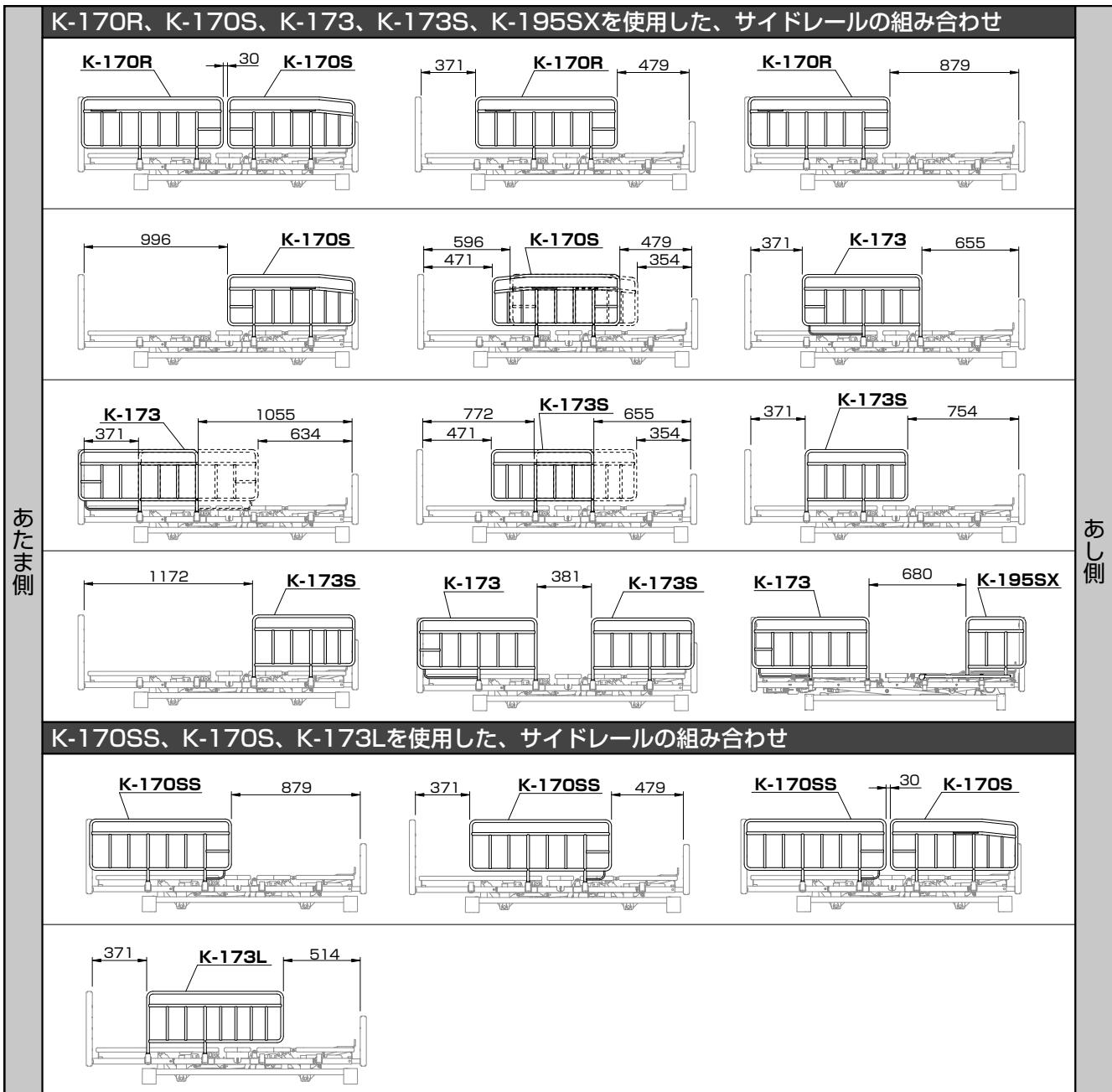
警告

事故・破損・ケガの原因になります

- ◆サイドレール挿入部を2ヶ所ともベッドのサイドレールホルダーに必ず差し込んでください。
- ◆サイドレールを取り付ける際は、サイドレールホルダーに異物が入っていないことを確認してください。
異物が入っていると確実に取り付けることができず、ベッドからの転落や、意図せぬすき間が発生することにより、身体の一部がはさまれてケガをするおそれがあります。
- ◆組み合わせを間違えると事故につながるおそれがあります。

● ショートサイズの組み合わせ表

(単位:mm)



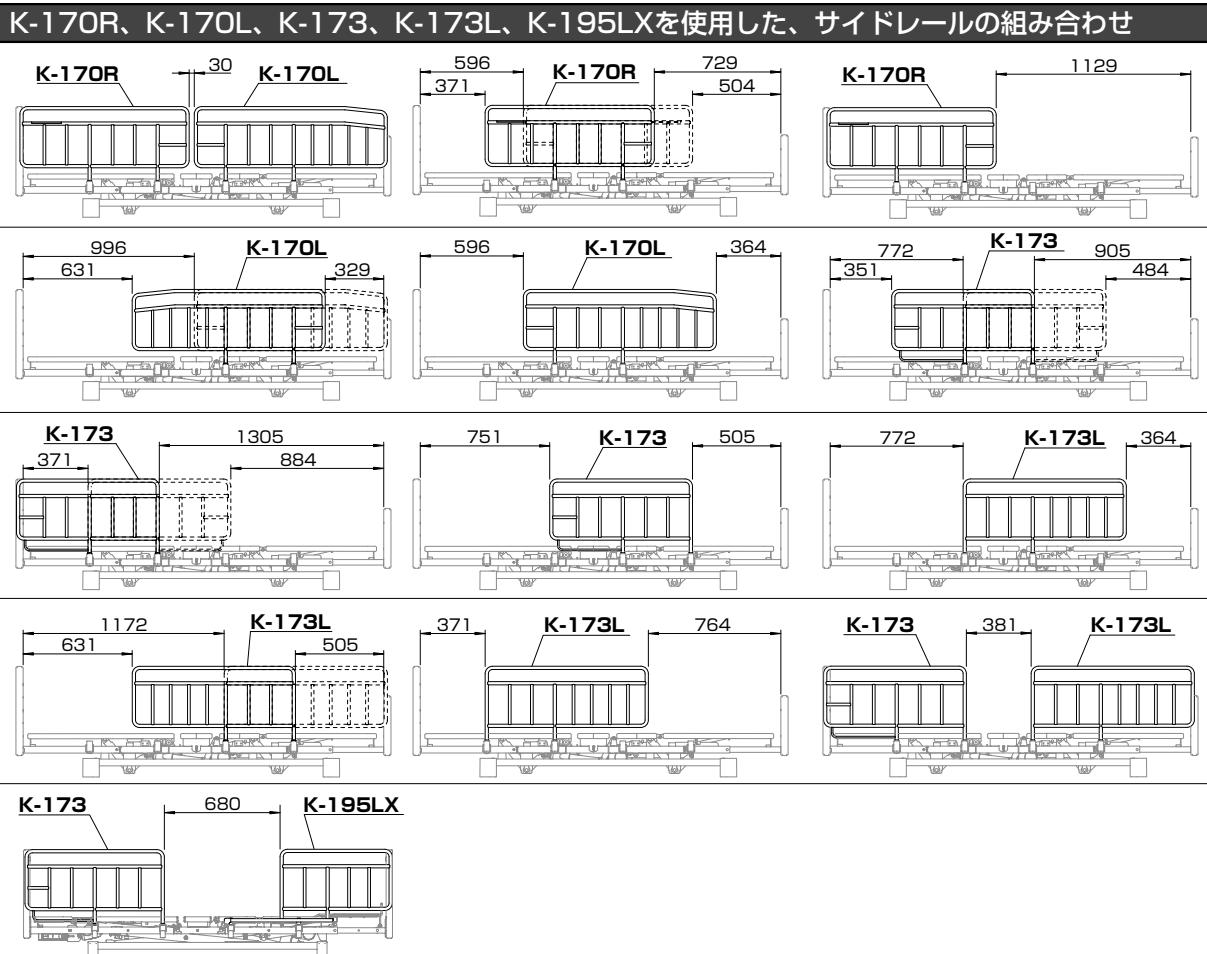
警 告

事故・破損・ケガの原因になります

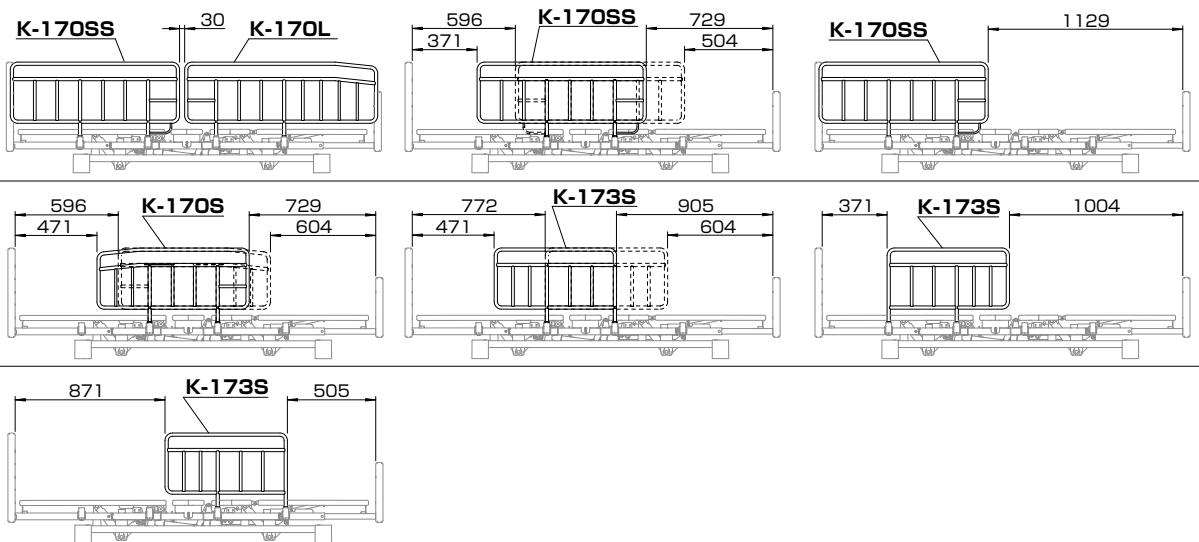
- ◆サイドレール挿入部を2ヶ所ともベッドのサイドレールホルダーに必ず差し込んでください。
- ◆サイドレールを取り付ける際は、サイドレールホルダーに異物が入っていないことを確認してください。
異物が入っていると確実に取り付けることができず、ベッドからの転落や、意図せぬすき間が発生することにより、身体の一部がはさまれてケガをするおそれがあります。
- ◆組み合わせを間違えると事故につながるおそれがあります。

● ロングサイズの組み合わせ表

(単位:mm)



K-170SS, K-170S, K-170L, K-173Sを使用した、サイドレールの組み合わせ



警告

事故・破損・ケガの原因になります

- ◆サイドレール挿入部を2ヶ所ともベッドのサイドレールホルダーに必ず差し込んでください。
- ◆サイドレールを取り付ける際は、サイドレールホルダーに異物が入っていないことを確認してください。
異物が入っていると確実に取り付けることができず、ベッドからの転落や、意図せぬすき間が発生することにより、身体の一部がはさまれてケガをするおそれがあります。
- ◆組み合わせを間違えると事故につながるおそれがあります。

サポートグリップ K-95 JIS認証対象

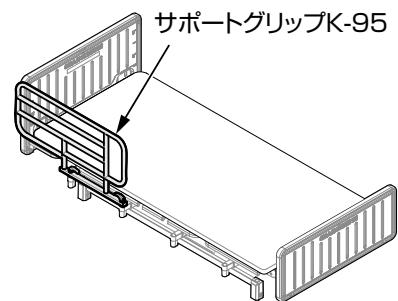
ベッド両側のサイドレールホルダーを利用してサポートグリップを使用できます。

※安全のため、ご使用の方がベッドから転落するおそれがある場合などには、このサポートグリップと併用して「回転式アーム介助バー K-55R、K-47R、K-45R、K-40RX」または「サイドレール K-195RX、K-195SX、K-195LX、K-173、K-173S、K-173L」をベッドのサイズに応じて、組み合わせてご使用ください。

※ベッドへの取り付け位置は組み合わせ表を参照して正しく取り付けてください。

※本製品とこのサポートグリップと「回転式アーム介助バー K-55R、K-47R、K-45R、K-40RX」または「サイドレール K-195RX、K-195SX、K-195LX、K-173、K-173S、K-173L」の組み合わせはJIS認証を取得しています。

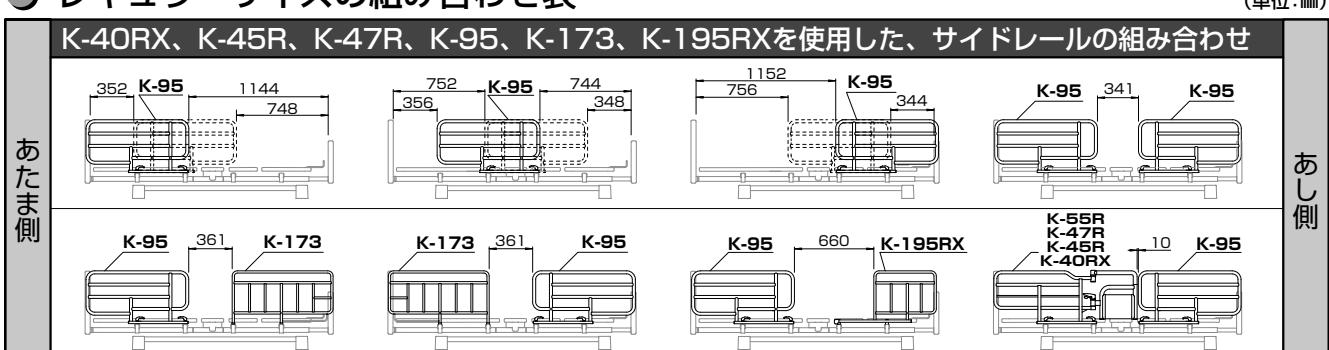
図表以外と組み合わせた場合、JIS認証を取得していない状態となります。



(単位:mm)

● レギュラーサイズの組み合わせ表

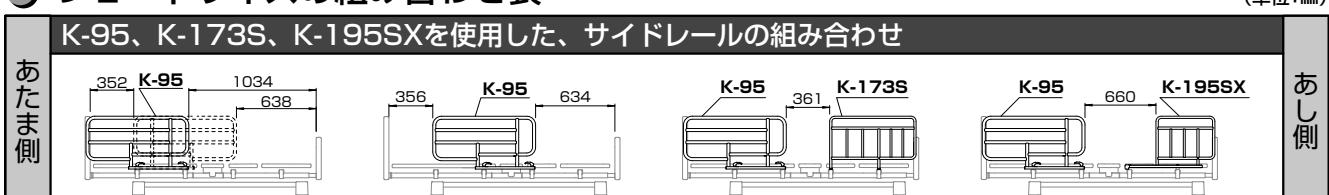
K-40RX、K-45R、K-47R、K-95、K-173、K-195RXを使用した、サイドレールの組み合わせ



(単位:mm)

● ショートサイズの組み合わせ表

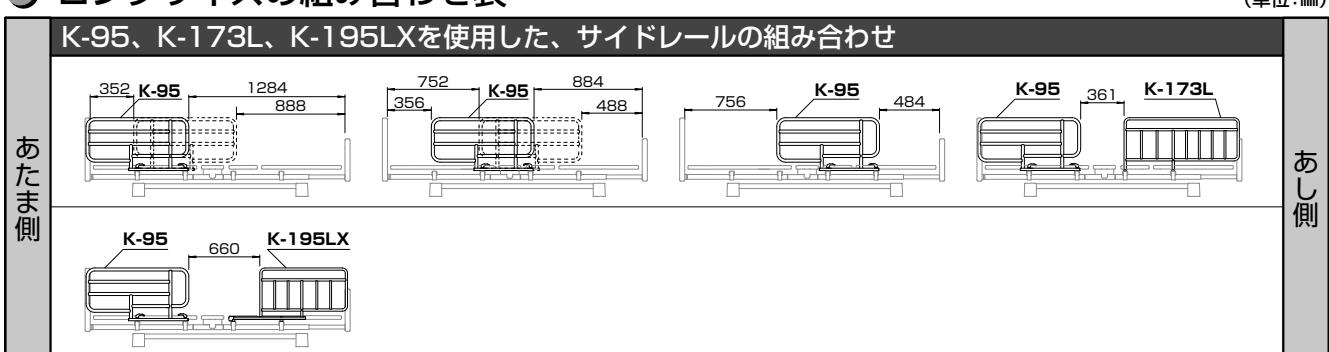
K-95、K-173S、K-195SXを使用した、サイドレールの組み合わせ



(単位:mm)

● ロングサイズの組み合わせ表

K-95、K-173L、K-195LXを使用した、サイドレールの組み合わせ



(単位:mm)



警告

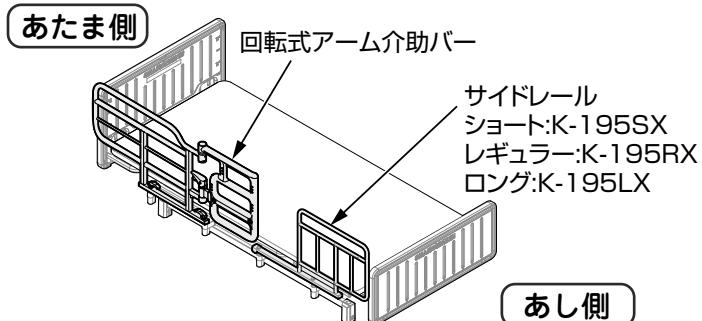
事故・破損・ケガの原因になります

- ◆固定脚を2ヶ所ともベッドのサイドレールホルダーに差し込んでください。
- ◆サポートグリップを取り付ける際は、サイドレールホルダーの穴に異物が入っていないことを確認してください。
異物が入っていると確実に取り付けることができず、ベッドからの転落や、意図せぬすき間が発生することにより、身体の一部がはさまれてケガをするおそれがあります。
- ◆ベッドに取り付ける際は取り付けレバーで確実に固定してください。
- ◆組み合わせを間違えると事故につながるおそれがあります。

回転式アーム介助バー K-55R/K-47R/K-45R/K-40RX JIS認証対象

ベッド両側のサイドレールホルダーを利用して回転式アーム介助バーを使用できます。

回転式アーム介助バーはベッドからの起き上がりや立ち上がりなどの動作を補助するのに役立ちます。



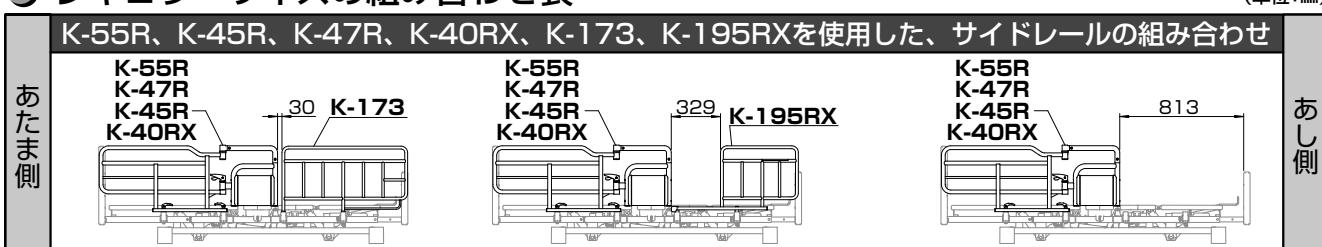
※安全のため、ご使用の方がベッドから転落するおそれがある場合などには、この回転式アーム介助バーと併用して「サイドレール K-195RX、K-195SX、K-195LX、K-173、K-173S、K-173L」をベッドのサイズに応じて組み合わせてご使用ください。

※ベッドへの取り付け位置は組み合わせ表を参照して正しく取り付けてください。

※本製品とこの回転式アーム介助バーと「サイドレール K-195RX、K-195SX、K-195LX、K-173、K-173S、K-173L」の組み合わせは JIS 認証を取得しています。図表以外と組み合わせた場合、JIS 認証を取得していない状態となります。

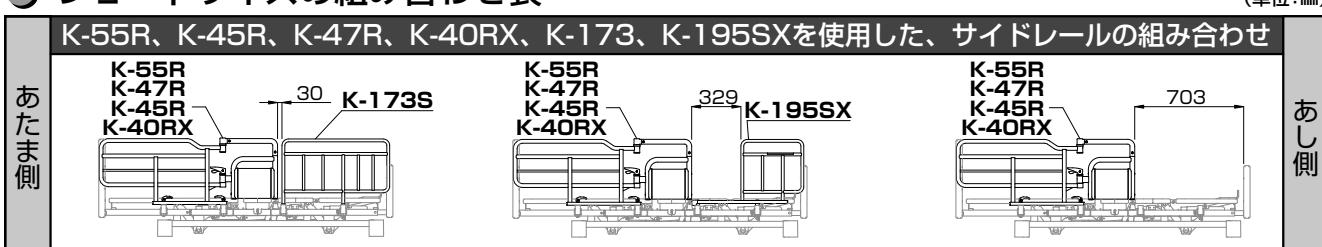
● レギュラーサイズの組み合わせ表

(単位:mm)



● ショートサイズの組み合わせ表

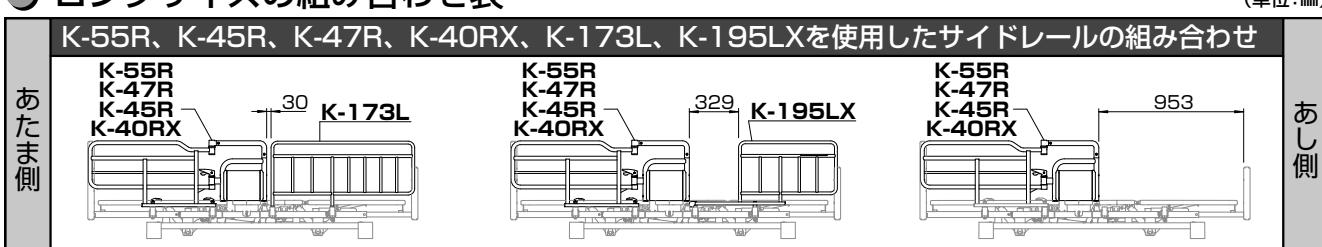
(単位:mm)



オプション

● ロングサイズの組み合わせ表

(単位:mm)



警告

事故・破損・ケガの原因になります

- ◆固定脚を2ヶ所ともベッドのサイドレールホルダーに差し込んでください。
- ◆グリップは、必ず固定して使用してください。
転倒やはさみ込みの危険があります。
- ◆ベッドに取り付ける際は取り付けレバーまたは、固定ネジで確実に固定してください。
- ◆組み合わせを間違えると事故につながるおそれがあります。

キャスター セット K-128WR/K-129WR JIS認証対象

- 本製品に取り付けることができるキャスター セットは、K-128WR (φ10cm)、K-129WR (φ7.5cm) です。
- キャスターは、ストッパー付きとなしの2種類があります。

※本製品とこのキャスター セットの組み合わせはJIS認証を取得しています。これ以外のキャスターと組み合わせた場合、JIS認証を取得していない状態となります。

Point

- ベッドの移動が頻繁にある場合や、ご利用者の体重が重い場合は、K-128WRをおすすめします。

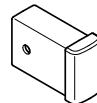
部品の確認



キャスター
ストッパー付き(2個)



キャスター
ストッパーなし(2個)



WR専用キャップ黒(4個)



専用スパナ(1個)

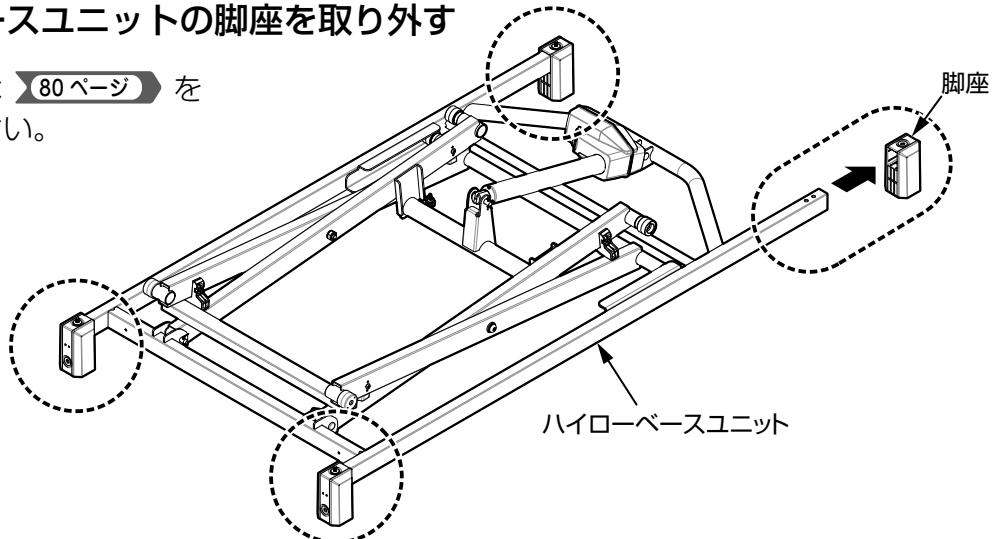


ワッシャ(4個)

取り付けかた

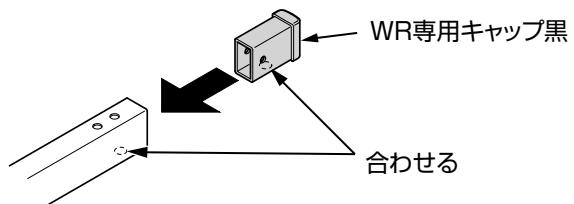
1 ハイローベースユニットの脚座を取り外す

取り外しかたは [80ページ](#) を
参照してください。



2 WR専用キャップ黒を差し込む

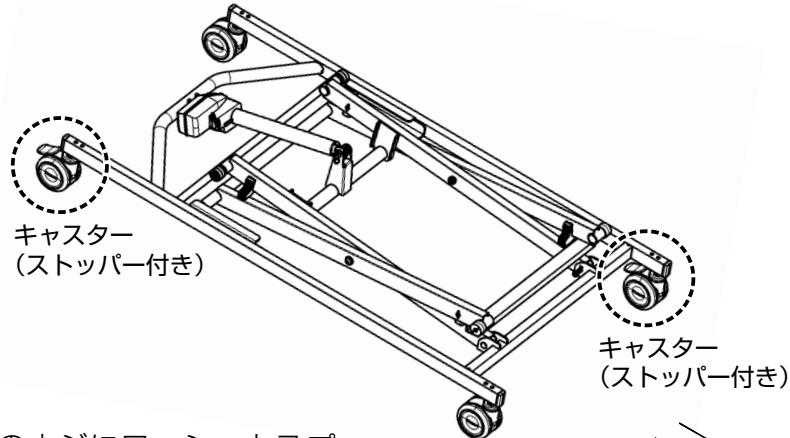
ハイローベースユニットの先端の下部の丸穴と
WR専用キャップ黒のネジ穴位置を合わせて差
し込んでください。 (4ヶ所)



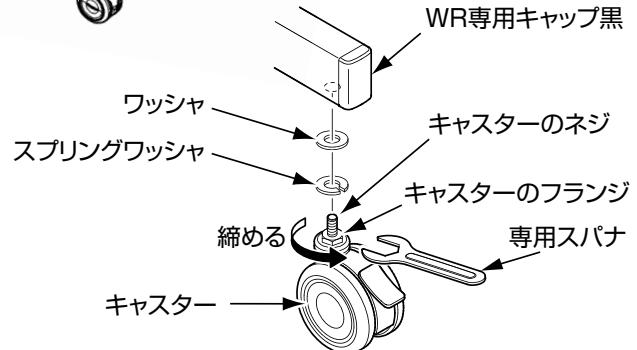
◆キャスターを使用する場合は、段差や傾斜のある路面での移動は避けてください。故障の原
因となります。ベッドの部品とゆかとのすき間が少ないため、ゆかを傷つけるおそれがあり
ます。やむを得ない場合は、ベッドをできるだけゆっくりと動かして移動させてください。

3 キャスターを取り付ける

1. ストッパー付きのキャスターが対角になるように取り付けてください。



2. キャスターのネジにワッシャとスプリングワッシャを入れて、キャスターを取り付けてください。
専用スパナを使用して、キャスターのフランジを締め付けてください。
(4ヶ所)



4 設定モードでベッド高さ設定をおこなう 25 ページ 参照

K-128WR (φ10cm) を取り付けた場合は「3 キャスター φ10cm」、
K-129WR (φ7.5cm) を取り付けた場合は「4 キャスター φ7.5cm」に設定してください。



警告

破損・ケガの原因になります

◆キャスターは確実に締め付けてください。

キャスターの脱落によりベッドがバランスを崩し、転落・ケガをするおそれがあります。

ベッドの組み立て、分解をするときはキャスター（ストッパー付き）をロックし、ハイローベースユニットが動かない状態にしてください。

◆ベッドを移動させるとき以外は、必ずロックを掛けてください。

使用者がベッドに乗り降りする際に、ベッドが動いて思わぬケガをするおそれがあります。

◆キャスターがロックされた状態でベッドを無理に動かすと、故障の原因となりますので、絶対におこなわないでください。



注意

家財破損の原因になります

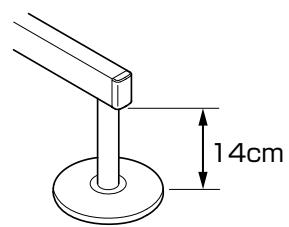
◆畳やじゅうたんなどの上で長期間使用する場合は、脚座やキャスターの下に別売の脚座保護パッド（品番K-145）を敷いてください。

畳やじゅうたんなどがへこむおそれがあります。

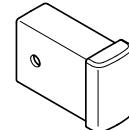
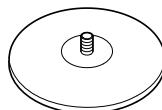
ハイツスペーサー K-140WR JIS認証対象

ハイツスペーサーを取り付けることにより、介護リフトなどを使用するためには必要な空間を確保できます。
ゆかからフレーム下面の高さが約14cmになります。

※本製品とこのハイツスペーサーの組み合わせはJIS認証を取得しています。
これ以外のハイツスペーサーを組み合わせた場合、JIS認証を取得していない状態となります。



部品の確認



◀ 軸(4個) ▶

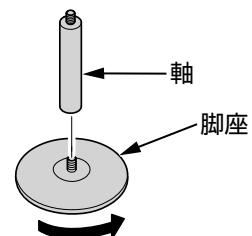
◀ 脚座(4個) ▶

◀ WR専用キャップ黒(4個) ▶

取り付けかた

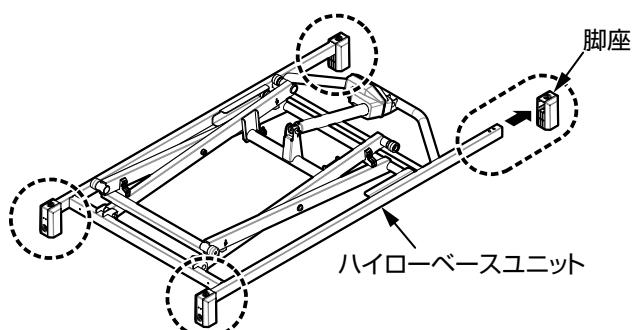
1 ハイツスペーサーを組み立てる

脚座を軸にねじ込んで確実に取り付けてください。(4個)



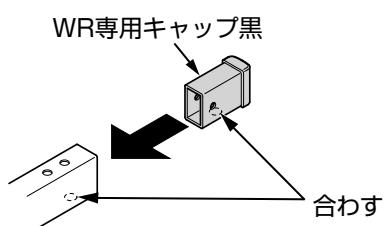
2 ハイローベースユニットの脚座を取り外す

取り外しかたは [80ページ](#) を参照してください。



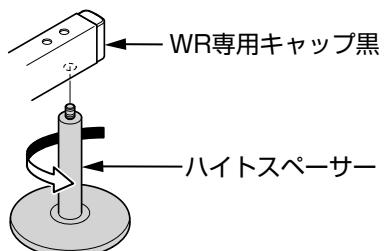
3 WR専用キャップ黒を差し込む

ハイローベースユニットの先端の下部の丸穴とWR専用キャップ黒のネジ穴位置を合わせて差し込んでください。
(4ヶ所)



4 ハイツスペーサーを取り付ける

ハイツスペーサーを手で回して、ハイローベースユニットに取り付けてください。(4ヶ所)



5 設定モードでベッド高さ設定をおこなう [25ページ](#) 参照

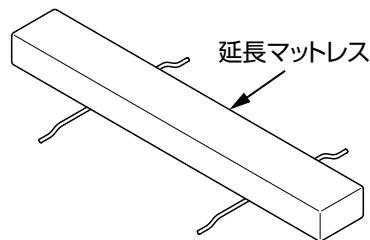
「[5 ハイツスペーサー](#)」に設定してください。

延長マットレス LBU-MB830/LBU-MB900

延長マットレスは、ロングサイズ使用時に使用してください。

部品の確認

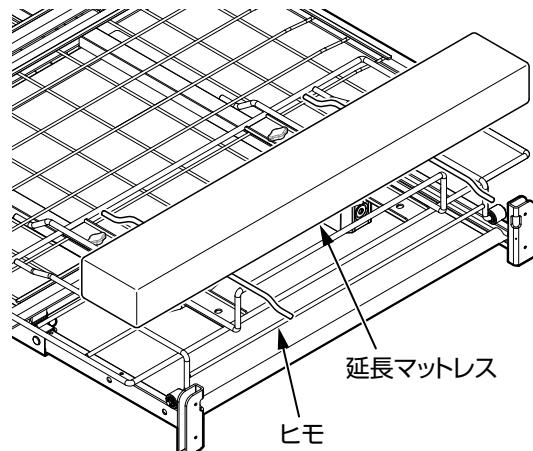
83cm幅：LBU-MB830
90cm幅：LBU-MB900



取り付けかた

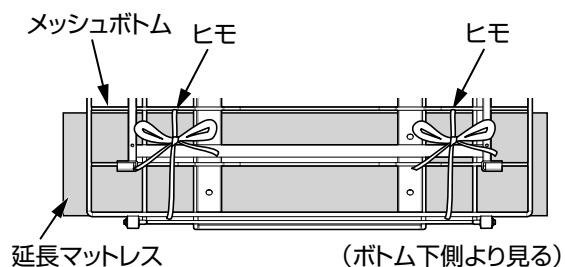
1 設置する

膝・脚ボトムの上に延長マットレスを置きます。



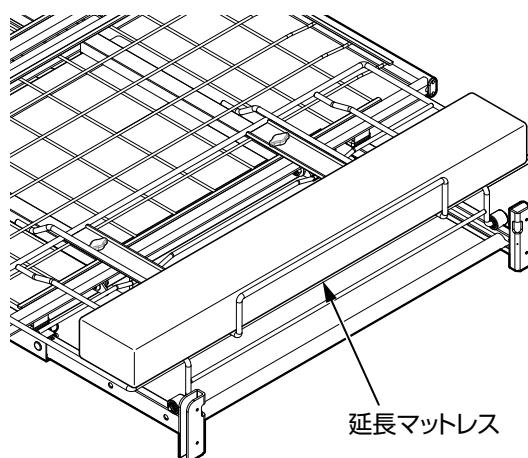
2 固定する

膝・脚ボトムの裏側で延長マットレスのヒモを結びます。



3 確認する

延長マットレスが動かないことを確認します。



注意

◆ベッドのサイズに合ったマットレスを必ず使用してください。

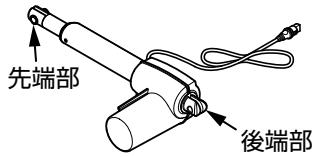
ボトムのすき間や穴に手や足の指などがはさまれたり、はまつたりして動けなくなり、ケガをするおそれがあります。

後付けフットモータユニット JIS認証対象

後付けフットモータユニットを本製品(WR2)に取り付けることにより、膝・脚ボトムだけでの角度調節ができるようになります。

部品の確認

WR-AF27D80



脚上げモーター



手元スイッチ(WR3)

取り付けかた

1 フットボード、各ボトムを外す 71 ~ 75 ページ 参照

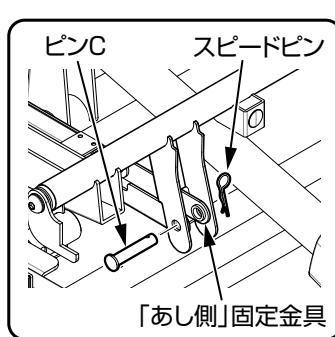
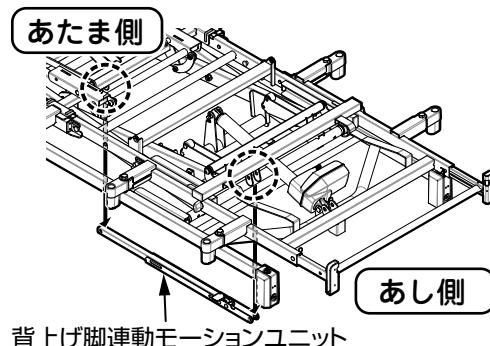
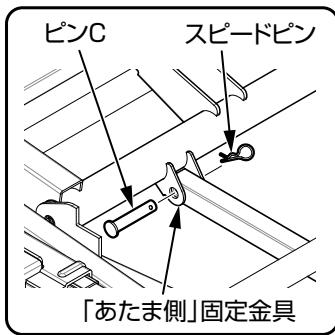


注意

◆必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。

2 背上げ脚運動モーションユニットを取り外す

1. 背上げ脚運動モーションユニットを取り付けているピンC、スピードピンを取り外します。(2ヶ所)
2. 背上げ脚運動モーションユニットを取り外します。

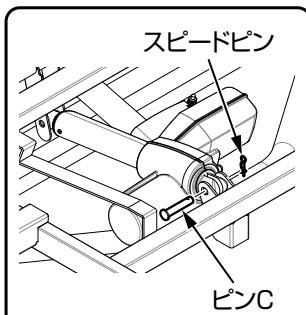
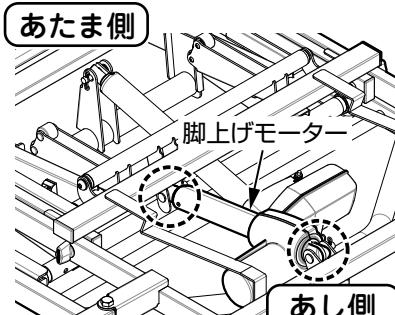
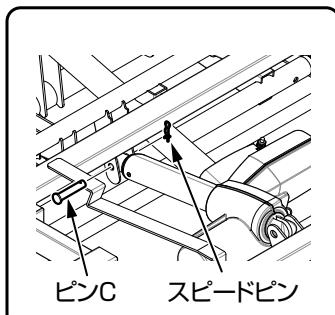


注意

◆背上げ脚運動モーションユニットを取り外す際は必ず手で支え、落下に注意してください。

3 脚上げモーターを取り付ける

1. 脚上げモーターを取り付け位置に後端部を「あし側」、先端部を「あたま側」に配置します。
2. 脚上げモーターの後端部、先端部を②で取り外したピンC、スピードピンで固定します。



4 モーターコード（足）を配線する

40 ページ を参照しておこなってください。

5 電源ボックスの上ふたを開ける

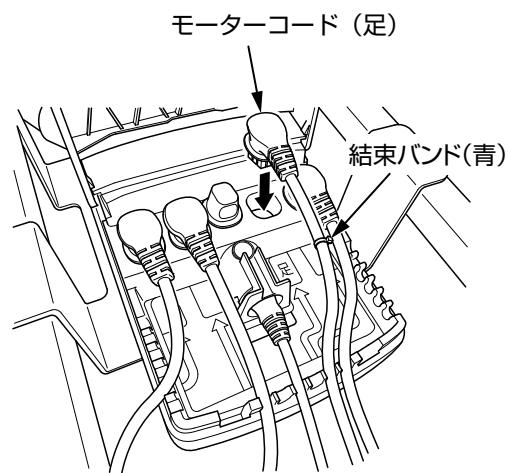
41 ページ を参照しておこなってください。

6 モーターコード（足）を接続する

41 ページ を参照しておこなってください。



静電気によって故障するおそれがあります
静電気は衣類や人体に帯電しています。コード類を電源ボックスに接続する前に、ベッド以外の金属製のものに触れるなどして、必ず静電気を逃してください。
故障や感電の原因となるおそれがあります。
コード類を接続する際には接続口に直接手を触れないでください。



7 手元スイッチを取りかえる

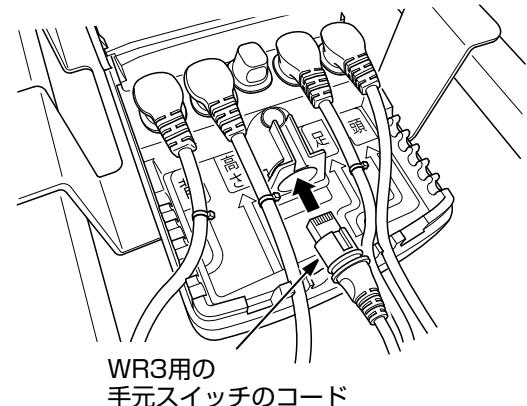
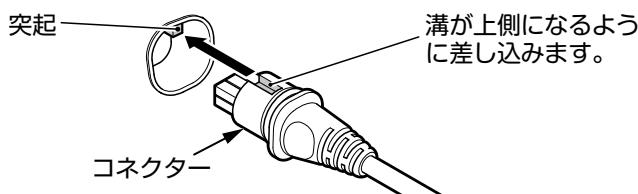
電源ボックスに元から接続されているWR2用の手元スイッチのコードを抜き、WR3用の手元スイッチのコードを接続します。

手元スイッチのコネクターが奥まで差し込まれたことを必ず確認します。

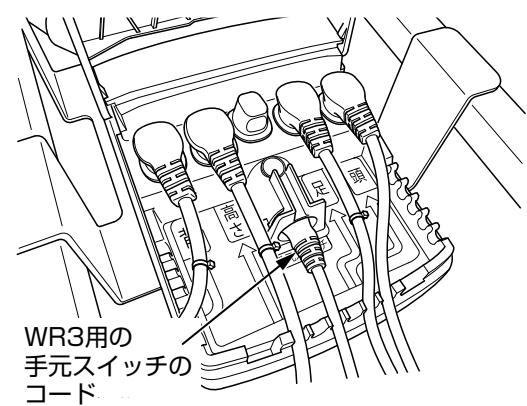


コネクターの差し込みには方向性がありますので、正しい向きで差し込んでください。

間違った向きで無理やり差し込むと、突起やコネクターを破損するおそれがあります。

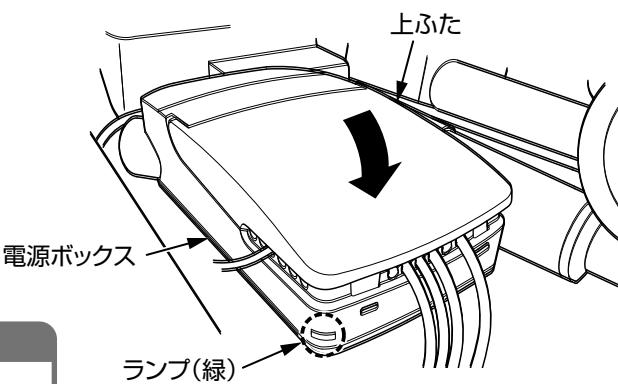


オプション



8 電源ボックスを閉じる

44 ページ を参照しておこなってください。



注意

電源ボックスのふたは、ストッパーが引っかかるまで
しっかりとふたを閉じてください。ふたがしっかりと閉じ
られていないと、コードが抜けるおそれがあります。

9 全てのボトム、フットボードを取り付ける

43、48、49、53 ページ 参照

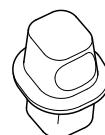
10 動作確認

手元スイッチのボタンを押すとベッドの各部が動きます。
ボタンを押したときにベッドの各部が動くことを確認します。

11 「使いかた」をよく読み、正しく使う 10～30 ページ 参照

取り外した部品

※取り外した部品は、大切に保管してください。
付属の組み立てピンセットにモーターキャップを収納してください。



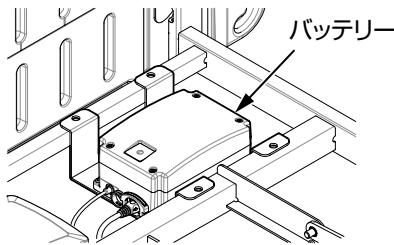
手元スイッチ(WR2)

背上げ脚運動モーションユニット

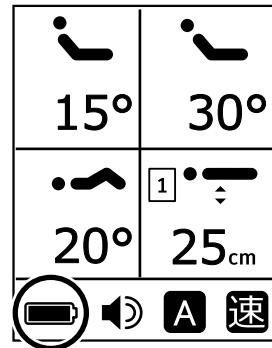
モーターキャップ

Emi用バッテリー WR-BA16

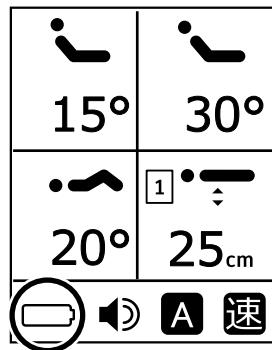
バッテリーにより、停電などの緊急時やベッド搬送時など、コンセントから電力が供給されていない状態でもベッド操作をおこなうことができます。



バッテリー動作中は液晶画面に「バッテリー動作」アイコンが表示されます。



バッテリー残量が低下すると、液晶画面に「バッテリー残量低下」アイコンが表示されます。
※「バッテリー残量低下」の状態で操作ボタンを押すと、ブザー音が鳴ります。
※「バッテリー残量低下」アイコンが表示されたら、電源プラグをコンセントに接続してバッテリーを充電してください。



ベッドへの取付けかたなどの詳しい説明は、Emi用バッテリーに付属している取扱説明書をご覧ください。



注意

- ◆ベッドをお手入れする際は、電源ボックスからバッテリーコードを抜いてください。
お手入れや掃除などでベッドの下に入る際は、コンセントから電源プラグを抜き、バッテリーを使用されている場合は電源ボックスからバッテリーコードを抜いておこなってください。手元スイッチの誤操作によりケガやショートによる感電のおそれがあります。
- ◆緊急のとき以外はバッテリーだけでのベッド操作はおこなわないでください。
通常時にバッテリーでベッドを操作されると、バッテリーの容量が減り、緊急時に使用できなくなるおそれがあります。
- ◆ベッドを長期間保管する場合は、6ヵ月に一度、必ずバッテリーの充電をおこなってください。
長期間バッテリーの充電をおこなわないと、バッテリーが過放電状態になり、充電ができなくなったり、充電が即便でも性能が十分回復しない場合があります。必ず6ヵ月に一度、6時間以上バッテリーを充電してください。
- ◆バッテリーには寿命があります。
寿命はバッテリーの使用頻度や環境によって変わってきます。バッテリーでの稼働時間が大幅に短くなつた場合はバッテリーの寿命のおそれがありますので、販売店または弊社カスタマーサポートまでご連絡ください。
- ◆バッテリーを廃棄する際は、お住まいの地方自治体の廃棄処分方法に従ってください。

介護リフト使用時のご注意

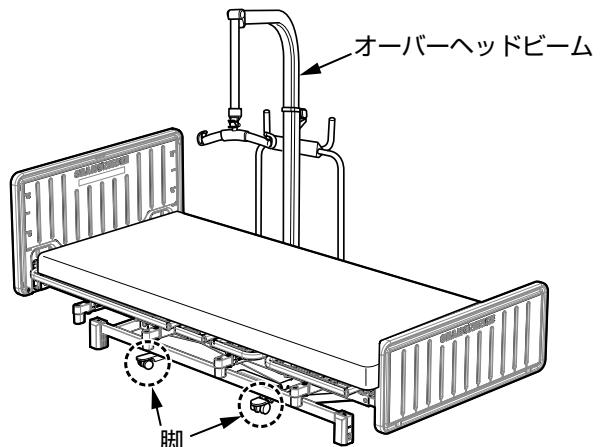
床走行リフト「ゴルボ8008 Low Base」と「バイキング Low Base」が使用できます。



警 告

事故・破損・ケガの原因になります

- ◆床走行リフト付属の取扱説明書を必ず読む。
 - ◆ベッドを上げるときや、オーバーヘッドビームを下げるときは、はさみ込みに十分注意する。
 - ◆床走行リフトの脚をベッドの下に差し込むときは、電源コードを踏んだり、乗り越えたりしない。
- 電源コードが破損により、感電・火災のおそれがあります。

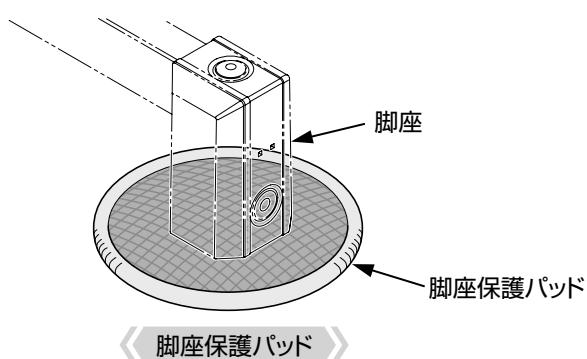


注 意

- ◆床走行リフトを使用する場合は、ベッド高さを脚座（通常）、キャスター K-128WR、キャスター K-129WR、ハイツスペーサー K-140WRの状態で使用してください。

脚座保護パッド K-145

- 畳、じゅうたん、フローリングなどの上でベッドを長期間使用し、畳やじゅうたんなどがへこむおそれがある場合は別売の脚座保護パッドをご利用ください。
- 裏面はすべりを抑えた素材を使用しています。



マットレス

■体圧分散効果とリハビリを促進する床ずれ予防マットレス

C-MAX (シーマックス)

SA-2030 シリーズ

＜サイズ＞

幅 90cm・83cm
長さ ショート=181cm
レギュラー・ロング=191cm
厚み 12cm

- シーホネンス独自のオリジナルウレタン構造により高い体圧分散効果を発揮します。
- マットレス底面は、底づきを防止するため硬めのウレタンフォームを使用しています。ベッドの背上げ・膝上げに合わせて柔軟に曲がるようにスリット加工を施しています。
- マットレス両サイドは、しっかりと安定した端座位姿勢がとれるように、また起き上がり時に手や肘を使ってしっかりと上体を起こすことができるよう硬めのウレタンフォームを使用しています。
- 抗菌、難燃、清拭が可能な防水性の側生地を使用しています。

■高反発ウレタン素材とスリット加工によりベッドの動きにフィットしたマットレス

Fit Tex (フィットテックス)

SA-1020 シリーズ

＜サイズ＞

幅 90cm・83cm
長さ ショート=181cm
レギュラー・ロング=191cm
厚み 8cm

- ほどよい柔らかさの高反発ウレタンフォームを使用しており、快適な弾力でからだを安定して支えるとともに体動を吸収してリラックスできる寝心地をご提供します。
- マットレス全体にスリット加工をすることで体圧を分散するとともに、ベッドの背上げ・膝上げの動きに合わせて柔軟に曲がります。
- 抗菌、清拭が可能な防水性の側生地を使用しています。

■支援用具があれば日常生活が可能な方に適応

ダブルウェーブマットレス

MB-2500 シリーズ

＜サイズ＞

幅 90cm・83cm
長さ ショート=181cm
レギュラー・ロング=191cm
厚み 8cm

- 腰をかけたとき、手をついたときの沈み込みが少なく、安定性と体圧分散性に優れています。
- 独自のダブルウェーブ構造によりベッドの動きに合わせてしなやかに曲がります。
- 体圧を維持する適度な硬さと長時間の使用にもへたりがありません。
- 通気性・通水性があるので、カビや雑菌などが繁殖しにくく、清潔さを保てます。
- MA-2500 は難燃、通気性・通水性がある側生地を使用しています。
- 上下、裏表の区別はありません。

■お好みによって使い分けることができる【硬め】、【柔らかめ】のダブルフェース

リバーシブルマットレス

MA-3000 シリーズ

＜サイズ＞

幅 90cm・83cm
長さ ショート=181cm
レギュラー・ロング=191cm
厚み 10cm

- ソフトフェース面は、全体的に柔らかく身体に優しくフィットして自然な寝姿勢を保つことができます。
- ハードフェース面は、全体的に硬めで不自然な身体の沈み込みを抑えて寝返り時の安定性に優れています。
- 通気性・通水性があるので、カビや雑菌などが繁殖しにくく、清潔さを保てます。
- MA-3000 は通気性・通水性がある側生地を使用し、中材の素材ごと交換が可能です。

※詳しい取り扱いについては、マットレスに添付されている取扱説明書をご覧ください。

※仕様変更などにより、この取扱説明書の記述と一部異なる場合があります。ご不明な点は販売店または弊社カスタマーサポートまでお問い合わせください。



警告

- ◆マットレスを設置しない状態でベッドを使用しないでください。
- ◆ベッドのサイズに合ったマットレスを必ず使用してください。
ボトムのすき間や穴に手や足の指などがはさまれたり、はまつたりして動けなくなり、ケガをすることがあります。

分解

ベッドの分解は販売店にご依頼されることをお勧めしますが、ご自分でおこなう場合は以下の手順でおこなってください。

分解の前に

- 1.ベッドに取り付けているオプション（サイドレールや回転式アーム介助バーなど）をベッドから取り外して、寝具・マットレスなどをベッドから降ろします。
- 2.電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 3.全ての動作ロックを解除します。
- 4.ヘッドラスト、背ボトム、膝ボトムを水平、高さを最低高さまで下げた状態にします。
- 5.電源プラグをコンセントから抜きます。



注意

事故、破損、ケガの原因になります。

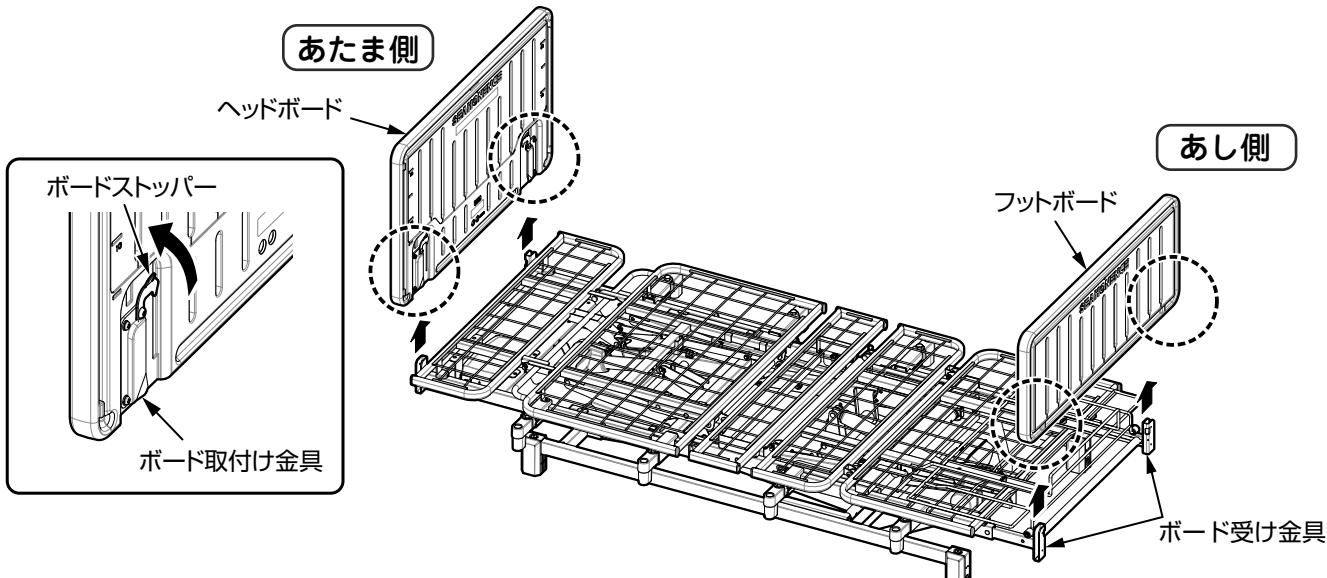
- ◆ベッドの分解は『分解のしかた』の手順に従っておこなってください。手順どおりにおこなわないと、コードが断線したり、ベッドが破損・変形するおそれがあります。
- ◆キャスター（K-128WRまたはK-129WR）をご使用の場合は、必ずキャスターを固定状態にしてから作業をおこなってください。固定状態になっていない場合、分解作業中にベッドが動いておもわぬケガをするおそれがあります。
- ◆必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。

分解のしかた

STEP1 ヘッドボード・フットボードの取り外し

1 ヘッド・フットボードを取り外す

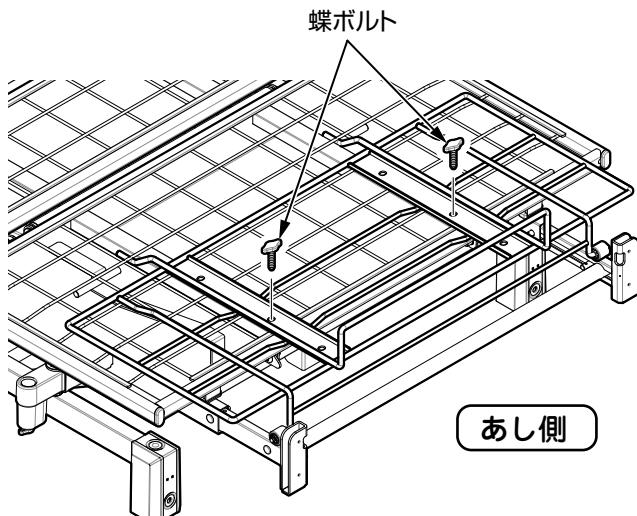
左右2ヶ所のボードストッパーを上方向へ回転させ、ヘッド・フットボードを両手で持ち、上方向へ持ち上げて取り外します。



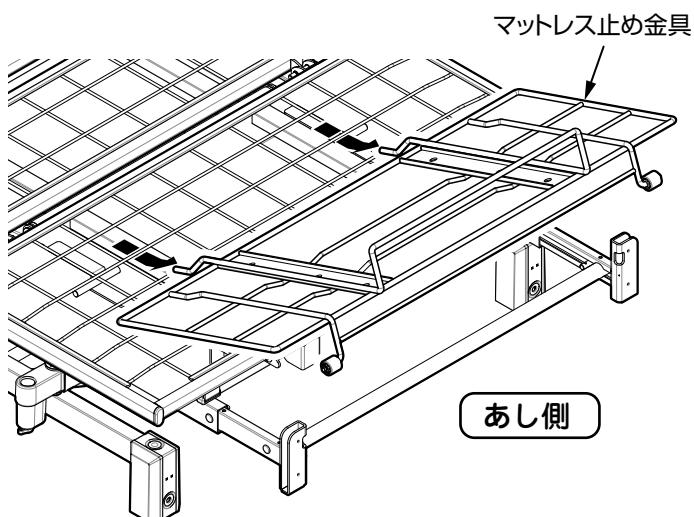
STEP2 マットレス止め金具の取り外し

マットレス止め金具を取り外す場合のみ

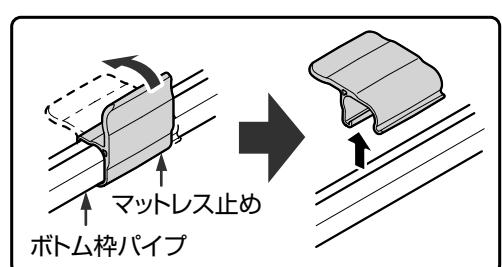
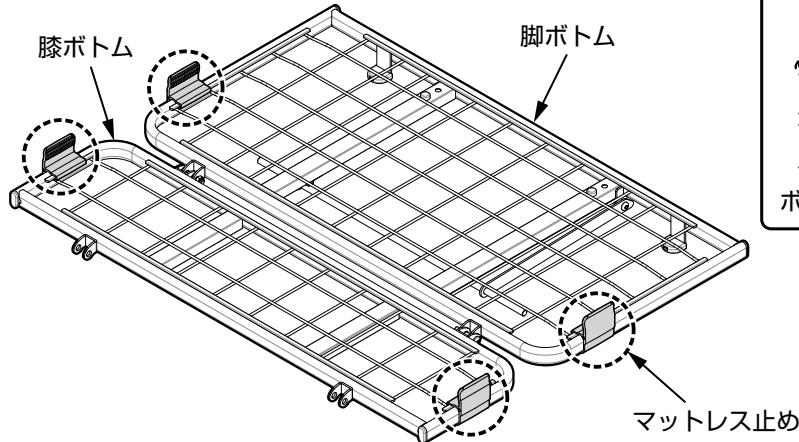
1 マットレス止め金具の蝶ボルト（左右2ヶ所）を外す



2 マットレス止め金具を取り外す



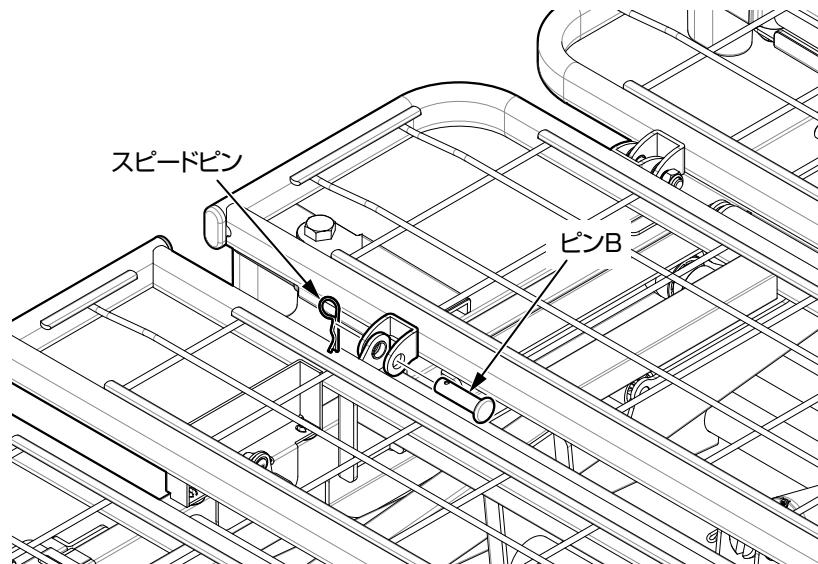
3 マットレス止めをベッドの内側に倒して、ボトム枠パイプより取り外す（4ヶ所）



STEP3 膝・脚ボトムの取り外し

1 ピンBを取り外す

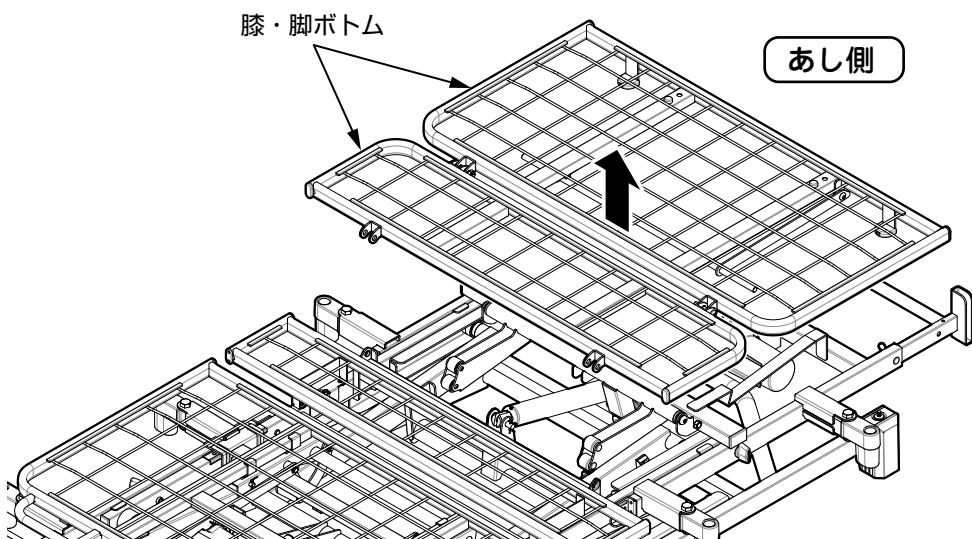
スピードピンを抜き、ピンBを取り外します。(左右2ヶ所)



あし側

2 膝・脚ボトムを取り外す

膝・脚ボトムを両手でしっかり持って取り外します。



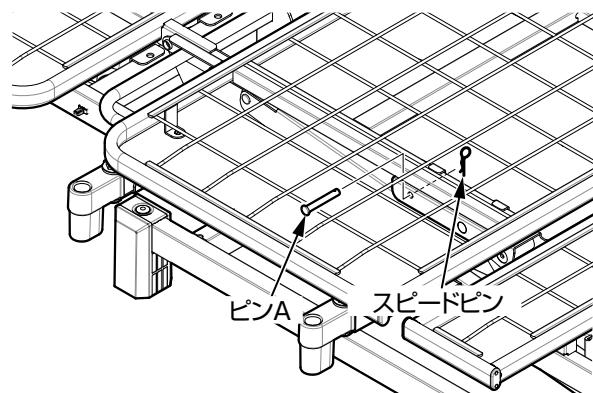
あし側

STEP4 背ボトムの取り外し

1 ピンAを取り外す

スピードピンを抜き、ピンAを取り外します。（左右2ヶ所）

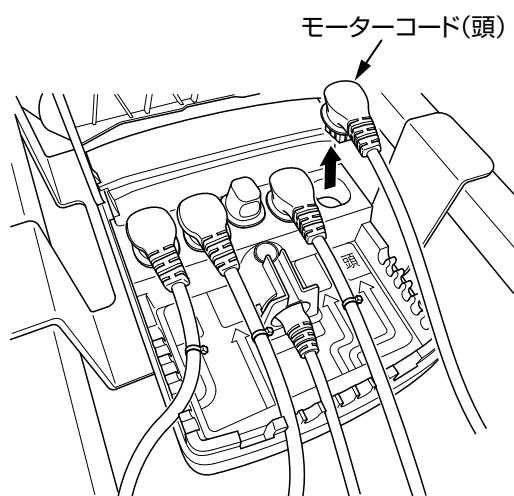
あたま側



あし側

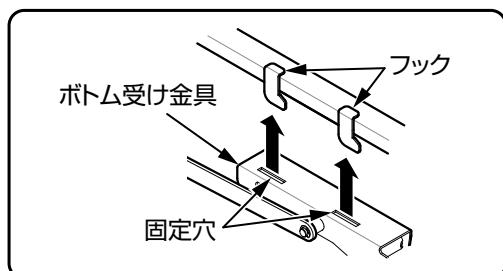
2 電源ボックスからモーターコード（頭）を外す

1. 電源ボックスの上ふたの開けかたと閉じかたは **41、44 ページ** を参照しておこなってください。
2. ベッド組み立て時に取り外したモーターキャップを差し込みます。

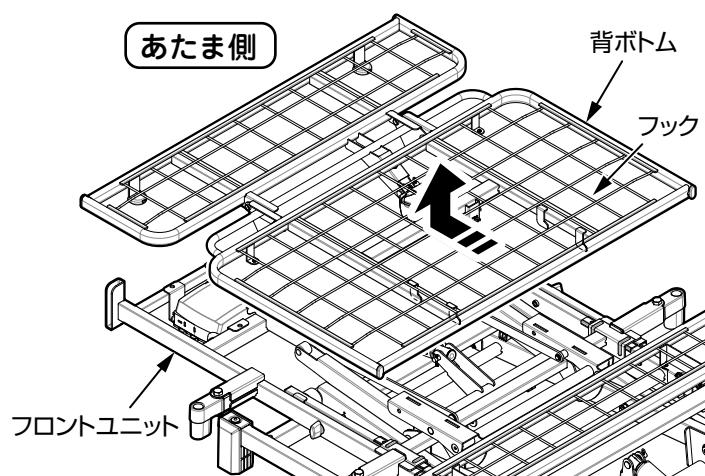


3 背ボトムを取り外す

矢印の方向に背ボトム全体をスライドさせて、背ボトムの止めフックをボトム受けフレームの固定穴から取り外します。（左右4ヶ所）



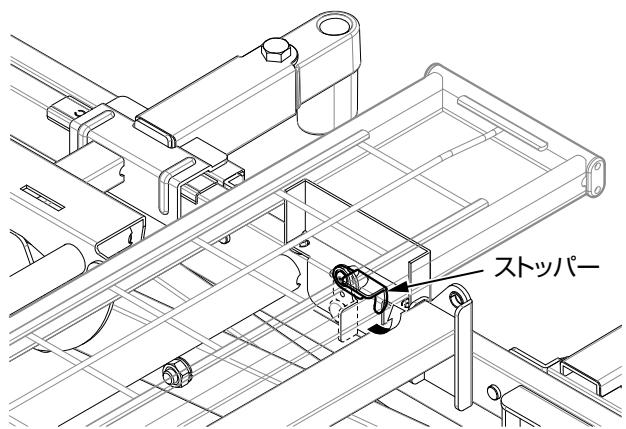
あたま側



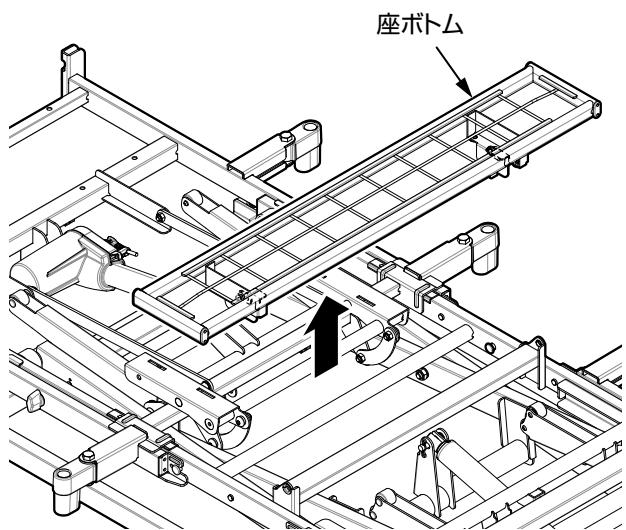
STEP5 座ボトムの取り外し

1 座ボトムを取り外す

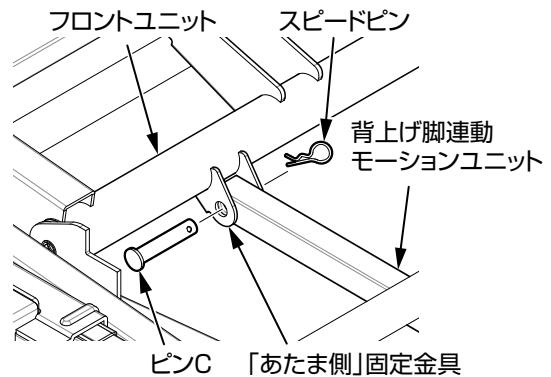
1. ストップバーを外します。
(左右2ヶ所)



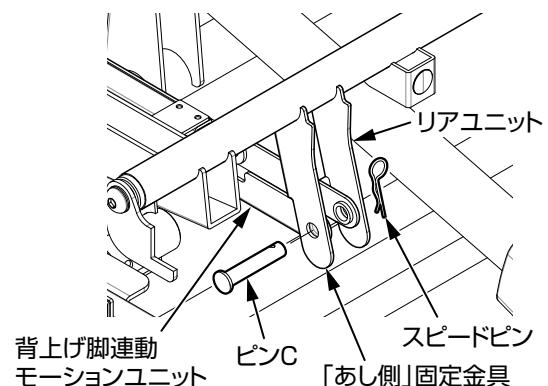
2. 座ボトムを上に持ち上げて取り外します。



1 「あたま側」固定金具からピンCを取り外す

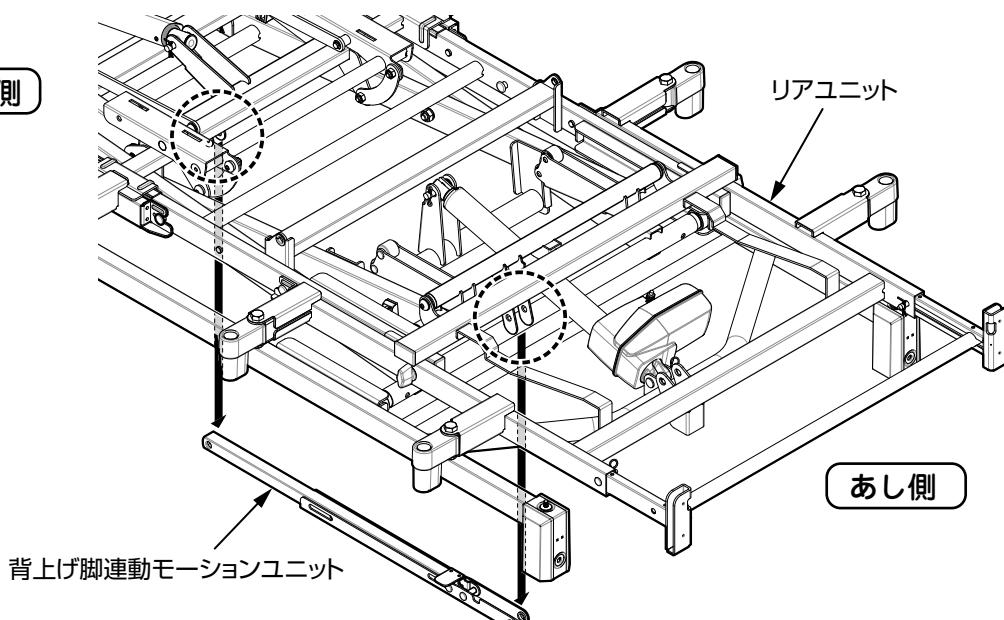


2 「あし側」固定金具からピンCを取り外す



3 背上げ脚運動モーションユニットを取り外す

あたま側



分解



注意

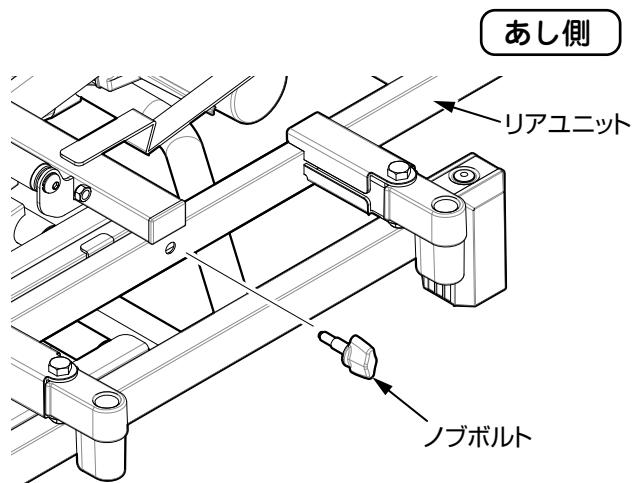
事故、破損、ケガの原因になります

◆背上げ脚運動モーションユニットの落下に注意してください。ピンCを取り外すとユニットがフリーな状態になるため、おもわぬケガをするおそれがあります。

STEP7 リアユニットの取り外し

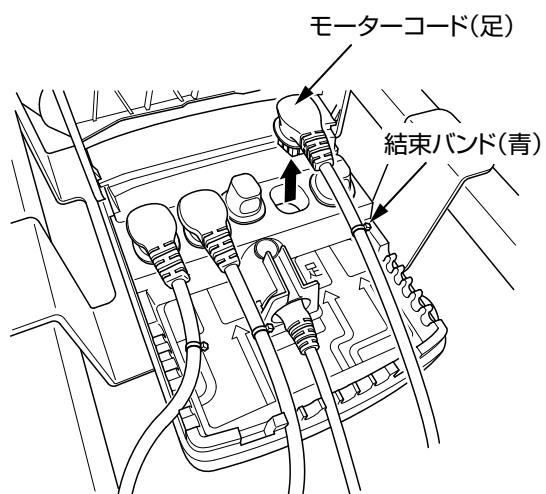
1 ノブボルトを取り外す

ノブボトルを取り外します。
(左右2ヶ所)



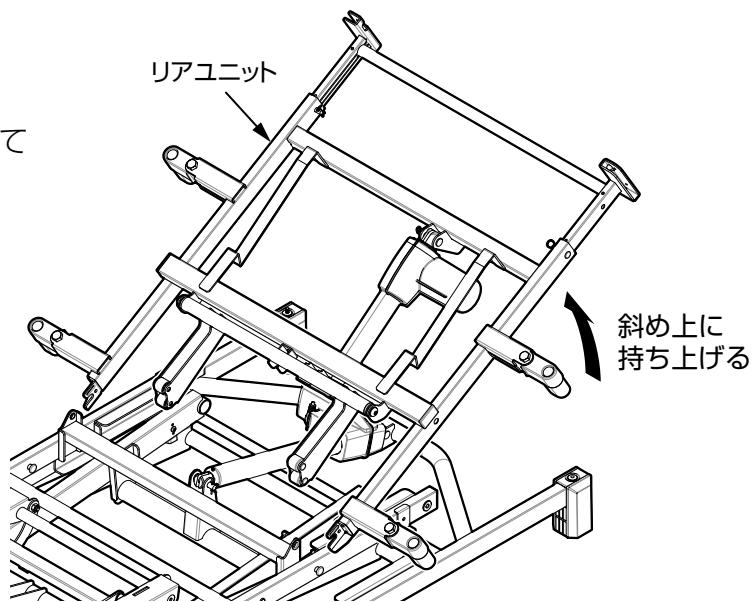
2 電源ボックスからモーター コード(足)を外す(WR3のみ)

1. 電源ボックスの上ふたの開けかたと閉じかたは **41、44 ページ** を参考しておこなってください。
2. ベッド組み立て時に取り外したモータークリップを差し込みます。



3 リアユニットを取り外す

リアユニットを両手でしっかりと持てて斜め上に持ち上げて取り外します。

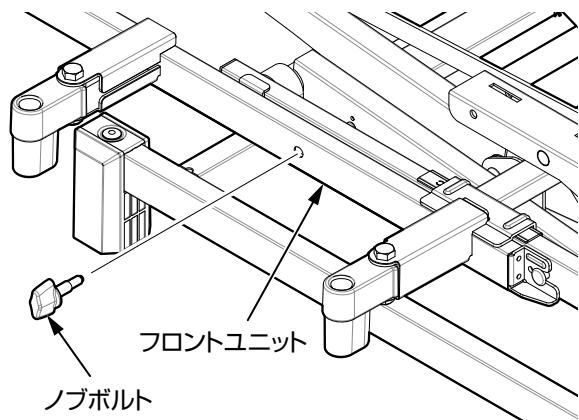


STEP8 フロントユニットの取り外し

1 ノブボルトを取り外す

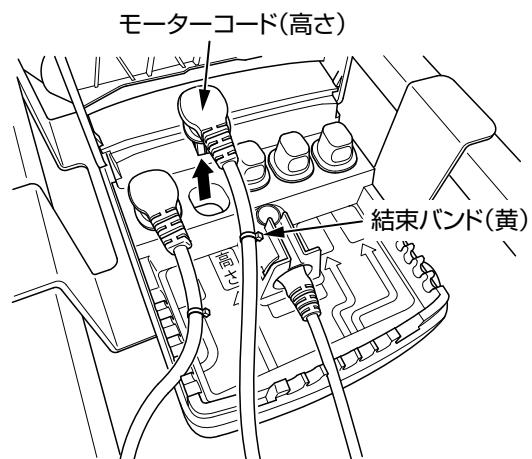
ノブボルトを取り外します。
(左右2ヶ所)

あたま側



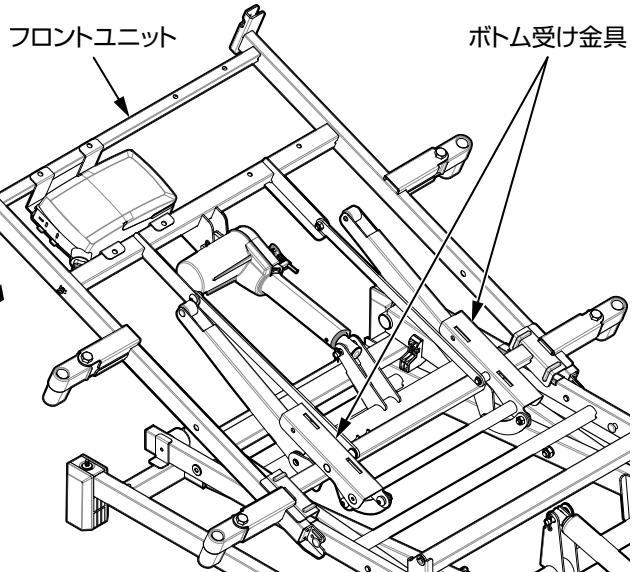
2 電源ボックスからモーター コード(高さ)を外す

1. 電源ボックスの上ふたの開けかたと閉じかたは **41、44 ページ** を参照してください。
2. ベッド組み立て時に取り外したモーター キャップを差し込みます。



3 フロントユニットを取り外す

フロントユニットを両手でしっかりと持つて斜め上に持ち上げ取り外します。



注意

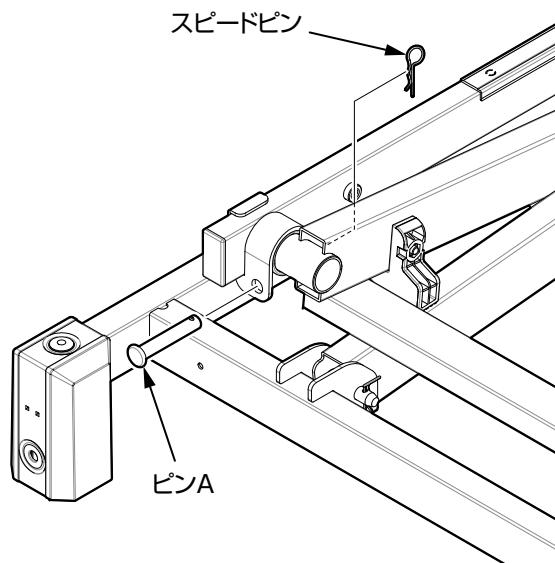
事故、破損、ケガの原因になります

◆フロントユニットを傾けた際にボトム受け金具が開いてしまうことがあるので、注意して取り外してください。

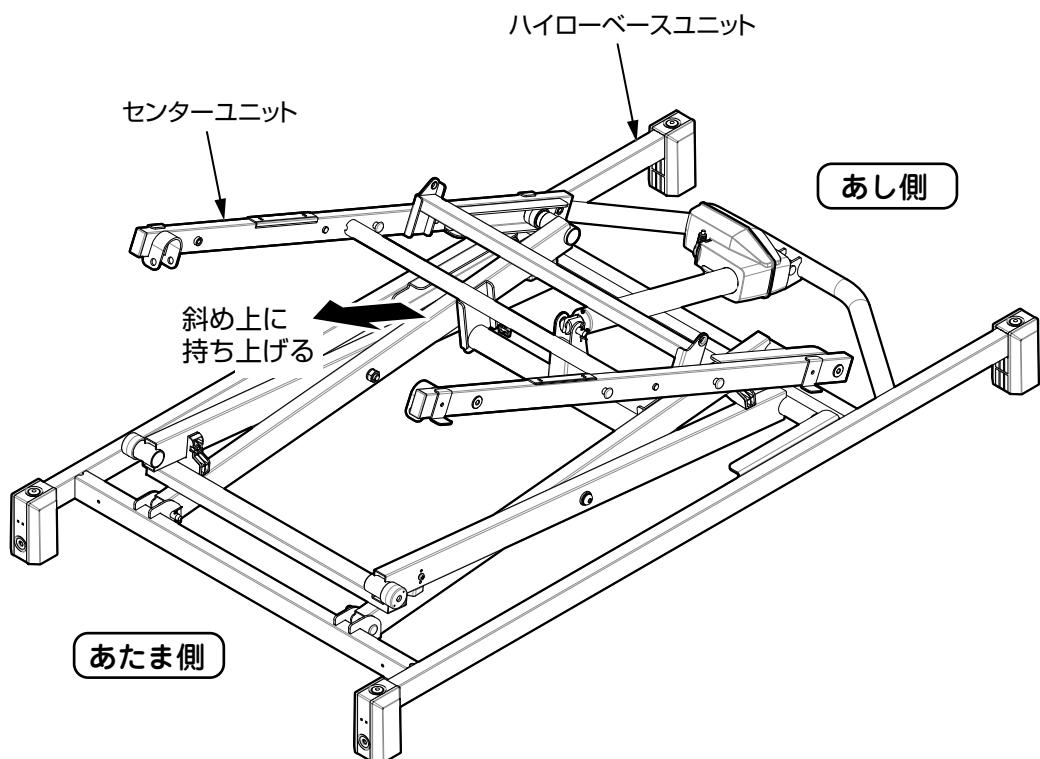
STEP9 センターユニットの取り外し

1 センターユニットを取り外す

- スピードピンを抜き、ピンAを取り外します。（左右2ヶ所）



- センターユニットを斜め上に持ち上げ取り外します。

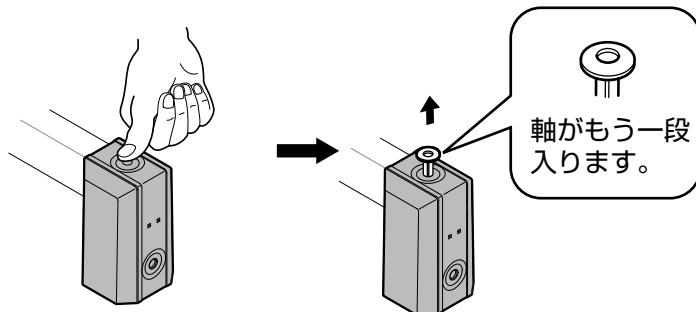


STEP10 脚座の取り外し

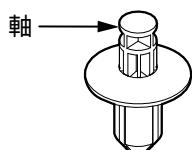
1 プッシュリベットの固定を解除する (4ヶ所)

力チッと音がするまで軸を、押し込みます。

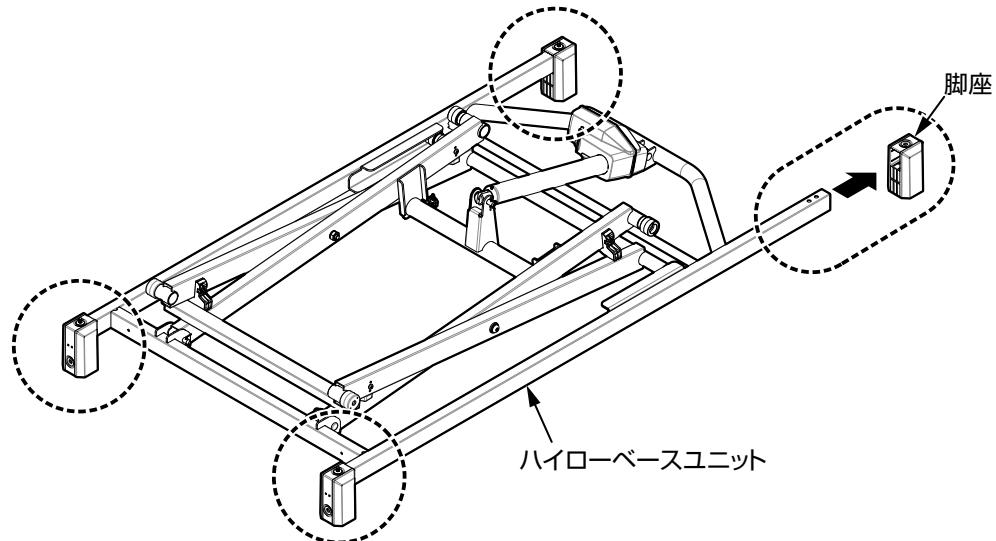
※指で押し込めない場合は、押し込みすぎないように注意してドライバーなどで軽く押し込んでください。



※再度取り付ける際は、下図のように軸を出してください。



2 脚座を取り外す (4ヶ所)



- ・ プッシュリベットは付属の組み立てピンセットに収納してください。
- ・ 脚座は紛失しないように袋などに入れて保管してください。



注意

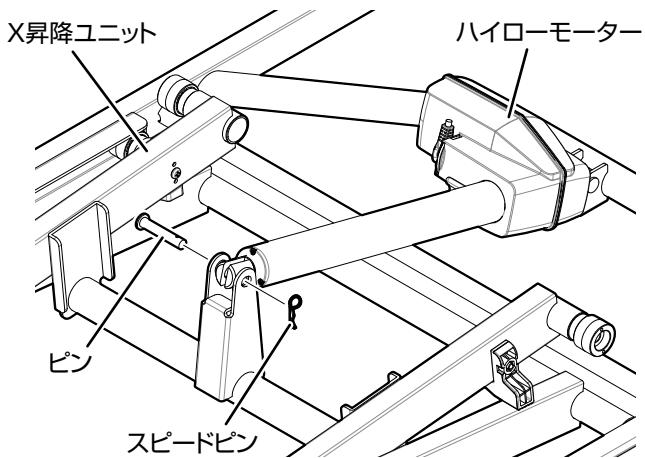
- ◆ベッドを分解して保管する場合は、ハイローベースユニットから脚座を取り外してください。ハイローベースユニットに脚座を取り付けたまま保管すると、事故、破損の原因となります。

STEP11 ハイローベースユニットの分解

ハイローベースユニットをベースユニットとX昇降ユニットに分解することができます。よりコンパクトで軽量になるため、移動や収納時に便利です。

1 ハイローモーター先端部をX昇降ユニットから外す

ハイローモーターを手で支え、スピードピンを抜きピンを取り外します。



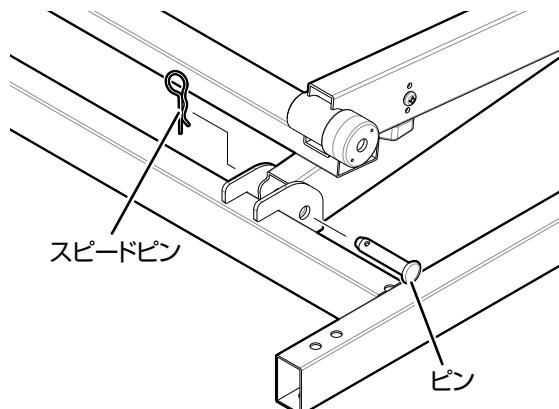
注意

事故、破損、ケガの原因になります。

◆ハイローモーターの落下に注意して作業してください。ピンを取り外すとハイローモーターがフリーな状態になるため、おもわぬケガをするおそれがあります。

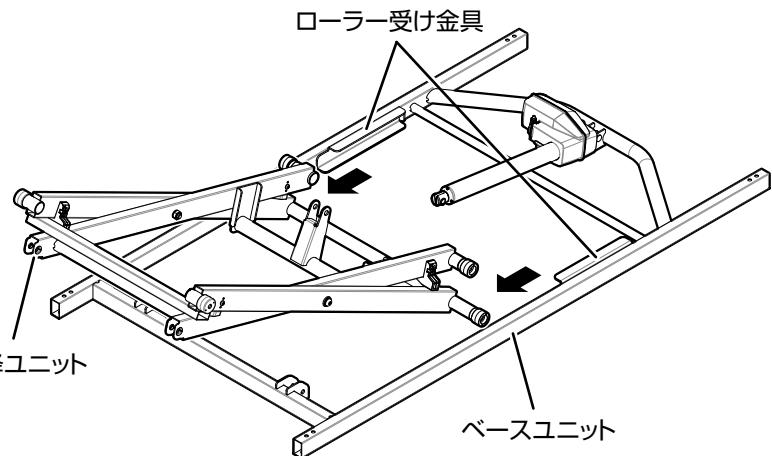
2 X昇降ユニット頭側を固定しているピンを外す

スピードピンを抜きピンを取り外します。（左右2ヶ所）



3 X昇降ユニットを取り外す

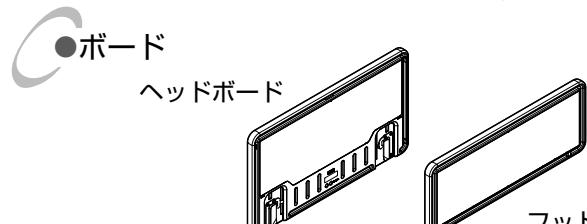
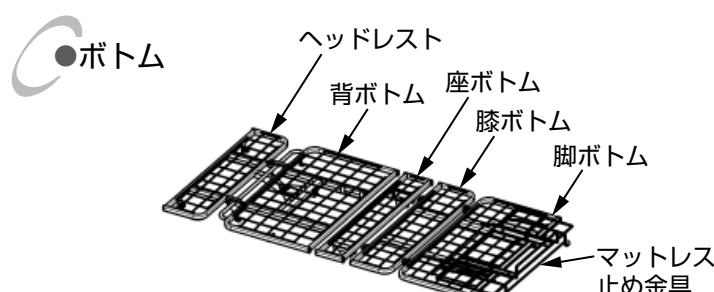
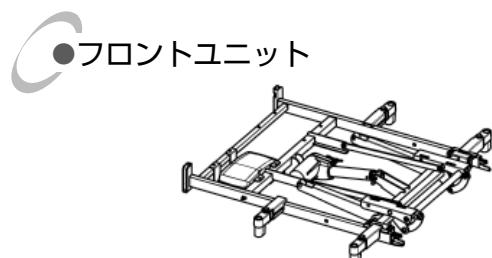
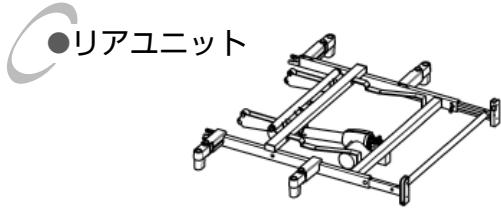
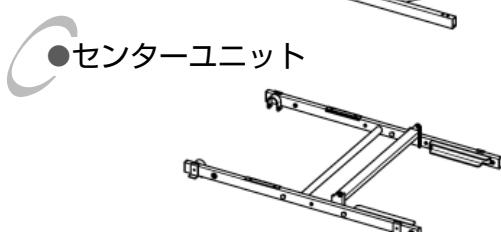
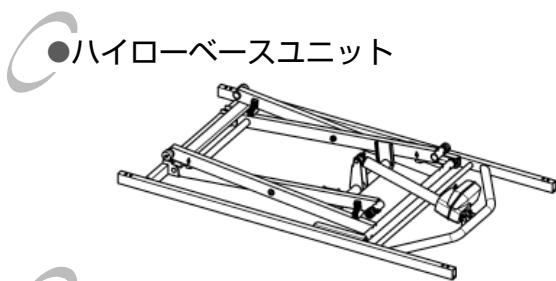
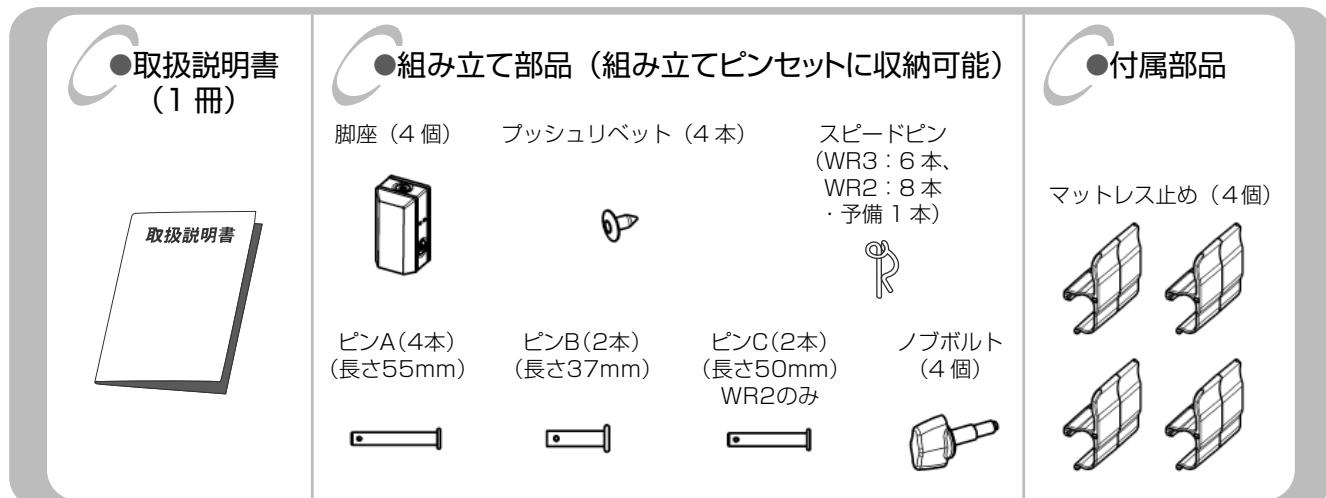
X昇降ユニットを持ち上げ、ベースユニットのローラー受け金具に沿って引き抜きます。



付属部品と分解したユニットの保管

ベッドを分解した後、本取扱説明書および下記の組立付属品、その他の部品を組み立てピンセットに入れて保管してください。

- 梱包するときは、取扱説明書、付属品などが梱包されていることを見やすいところに明記しておくと、後日開梱するときに便利です。



※イラストは樹脂ボード(スタンダードタイプ)



注意

事故、破損の原因となります

- ◆手元スイッチ、電源コードは束ねてモーターユニットに固定して保管してください。

キズや破損の原因となります

- ◆ボードを重ねるときは、金具でボードが傷つかないように当てるのをしてください。

こんなときは

日常のお手入れ

- 清拭する場合は柔らかい布を使用し、水で薄めた中性洗剤に浸してよく絞っておこなってください。
- その後、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- 洗浄液を使用する場合は指定の濃度、消毒剤の取扱説明書などの指示に従ってご使用ください。

消毒用エタノール：76.9%～81.4%

塩化ベンザルコニウム液(オスバンなど)：0.05%～0.2%

クロルヘキシジン液(ヒビデンなど)：0.05%

塩化ベンゼトニウム液(ハイアミンなど)：0.05%～0.2%

次亜塩素酸ナトリウム(ミルトンなど)：0.02%～0.05%



警 告

事故・故障・ケガの原因になります

- ◆必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ◆ベッドに水をかけて掃除しないでください。
ショートして感電するおそれがあります。
- ◆お手入れをするときは、ベッド各部の突起部分でケガをしないように注意してください。



注 意

破損の原因になります

- ◆水で薄めた中性洗剤を使用する。
揮発性のもの(シンナー、ベンジン、アセトン、ガソリン、クレゾール)などは絶対に使用しないでください。本体が変色したり、塗装がはがれるおそれがあります。
- ◆中性洗剤を使用した場合は、その後、水拭きしてください。
水拭きをしないと樹脂の部分が割れるおそれがあります。
- ◆オゾン殺菌器、オートクレーブ滅菌器などには対応できません。

故障かな？と思ったら

- 故障でない場合がありますので、修理を依頼される前に以下の項目をチェックしてください。
チェック・処置をしても正常に動作しない場合は、ただちにベッドの使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き販売店に修理をご依頼ください。

症 状	チ ッ ク	処 置
電源ボックスのランプが消えている	電源プラグはコンセントに差し込まれていますか? コンセントに電源はきていますか?	電源プラグをコンセントに差し込んでください。 コンセントに他の電気器具のプラグを差し込んで確認してみてください。
手元スイッチを押しても動かない	電源プラグはコンセントに差し込まれていますか? コンセントに電源はきていますか? 手元スイッチコードが電源ボックスから抜けかけていませんか? 長時間連続で操作していませんか?	電源プラグをコンセントに差し込んでください。 コンセントに他の電気器具のプラグを差し込んで確認してみてください。 手元スイッチのコードを電源ボックスにしっかりと奥まで差し込んでください。 電源ボックスのふたをしっかりと押さえて閉めてください。 20～30分後に操作してください。
ボトム、ベッドの高さが上がらない	ベッド周辺、可動部に障害物がありますか? 手元スイッチの緑色ランプが点灯していますか? 手元スイッチのオレンジ色ランプが点灯していませんか?	障害物を取り除いてください。 電源ボタンを押してください。 ロックを解除してください。 18、24 ページ 参照
手元スイッチの角度、高さ表示がおかしい	—	21 ページ 参照

緊急時の背下げ操作（停電・故障時などの対応）

在宅介護向け電動ベッドEmiは、背ボトムが上がっている状態で停電などの緊急時に背ボトムが下げられなくなった場合に手動で背ボトムを下げるることができます。



注意

事故・破損・ケガの原因になります

- ◆手動による背下げ操作／もどしかたの作業は、2人以上でおこなってください。
手や腕などをはさまれて、ケガをするおそれがあります。
- ◆ベッドをご使用の方・寝具をベッドから降ろして作業をおこなってください。
- ◆電力が回復するまで、電源プラグはコンセントから抜いてください。
- ◆スピードピンを外す際は、ラジオペンチやプライヤーを使用してください。

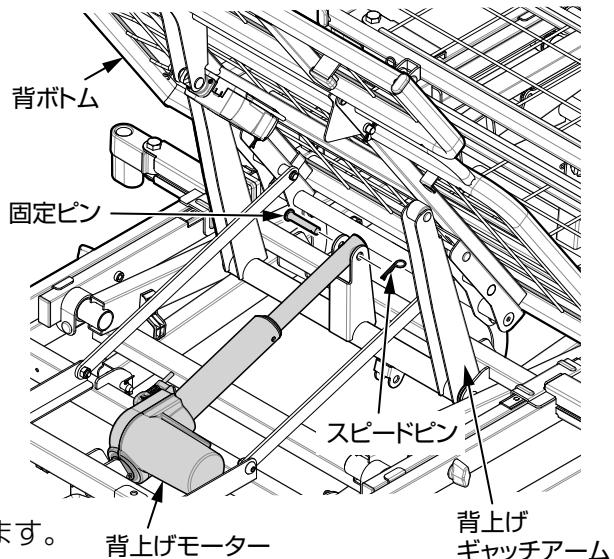
手動での背下げ方法

1. 電源プラグをコンセントから抜きます。
2. ベッドをご使用の方にベッドから降りていただき、寝具をベッドから降ろします。
3. 作業をしやすくするため、ヘッドボードを取り外します。 **71 ページ 参照**
4. 背ボトムが落下しないように手で支えます。
5. 図の固定ピンとスピードピンを取り外します。

Point

- 外した固定ピン、スピードピンは、背ボトムを元に戻す際に使用します。紛失しないように保管してください。

6. 背ボトムを手で支えながら降ろします。
7. ヘッドボードを取り付け、寝具をベッドに戻します。 **53 ページ 参照**
その後、ご使用の方にベッドへお戻りいただきます。



もどしかた

電力が回復したら以下の手順でベッドをもとの状態に戻してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜きます。
2. ベッドをご使用の方にベッドから降りていただき、寝具をベッドから降ろします。
3. 作業をしやすくするため、ヘッドボードを取り外します。 **71 ページ 参照**
4. 背ボトムを手で支えて上に上げます。
5. 背上げモーターの先端の穴と背上げギヤッチャームの取り付け穴を合わせて、固定ピンとスピードピンを取り付けます。
6. 背ボトムを手で支えながら降ろします。
7. ヘッドボードを取り付け、寝具をベッドに戻します。 **53 ページ 参照**
その後、ご使用の方にベッドへお戻りいただきます。
8. 電源プラグをコンセントに差し込みます。 **47 ページ 参照**
その後、ご使用の方にベッドへお戻りいただきます。

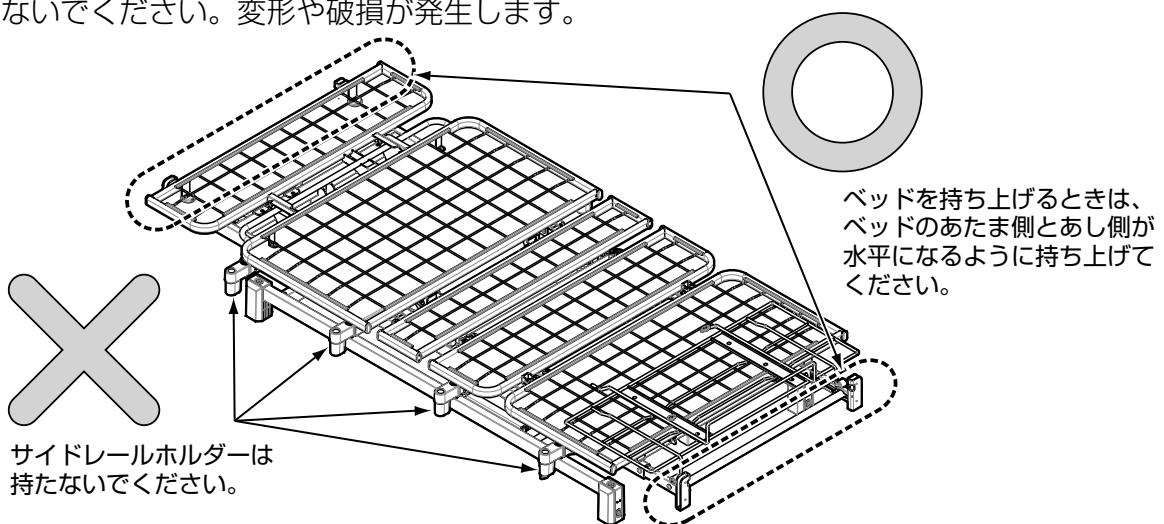
保管と移動

組み立てた状態で保管する場合

- ベッドの高さを最低位置まで降ろしてください。
- ヘッドレスト、背ボトム、膝・脚ボトムを水平の位置まで降ろしてください。
- ベッドの上にはマットレス以外のものを乗せないでください。
- マットレスの上には何も乗せないでください。（マットレスの上に物を乗せたままにするとマットレスが変形する場合があります）
- 必ず電源プラグをコンセントから抜き、電源コードは破損しないよう束ねてください。
- 立て掛けたり、横倒しにしないでください。
- 高温、多湿、ほこりの多い場所での保管は避けてください。
- 取扱説明書は大切に保管してください。
- お使いになる場合は、「組み立て後の点検」[54 ページ 参照](#)に従って点検してください。
- ベッド本体の変形、劣化、破損、錆の発生、ボルト・ネジの緩みがないことを確認してください。

組み立てた状態で移動する場合

- 背中、腰を痛めないように4人以上で運んでください。
- 使用されている方をベッドから降ろして、寝具、マットレス、ヘッドボード・フットボード、オプション（回転式アーム介助バー、サイドレールなど）は取り外してください。
- 移動の際は、フレームを両手でしっかりと持っておこなってください。
- 危険ですのでヘッドボード・フットボード、サイドレールホルダー、ボトムなどは持たないでください。
- ベッドに取り付けられたオプション（回転式アーム、介助バー、サイドレール）を持って移動させないでください。変形や破損が発生します。



- 電源コード、手元スイッチは、移動の前に束ねてキズなどがないようにベッドに固定してください。

分解して保管または移動する場合

- ベッドの分解は販売店、または弊社カスタマーサポート（有料）にご依頼されることをお勧めします。お客様でベッドを分解される場合は、「分解」を参照してベッドを分解してください。[71 ~ 81 ページ 参照](#)
- 使用を再開する場合は、「設置」を参照してベッドを組み立てた後に必ず点検をおこなってください。[31 ~ 54 ページ 参照](#)

仕様

品名	Emi		
品番	ヘッドレスト付き	WR3-90H WR2-90H	WR3-83H WR2-83H
サイズ（幅）		90cm 幅	83cm 幅
タイプ（長さ）	ショート	レギュラー	ロング
a：全幅	99.0cm	92.0cm	
b：全長	192cm	203cm	217cm
c：脚座間の長さ		135cm	
d：ボトム高さ	低床時：20cm～62.5cm（ゆかからボトム上面まで） 通常時：25cm～67.5cm		
e：ヘッドボード高さ	39.5cm（ボトム上面からヘッドボード上面まで）		
f：フットボード高さ	23cm（ボトム上面からフットボード上面まで）		
ボトム幅	90cm	83cm	
対応マットレス長さ	181cm	191cm	205cm
質量 ^{※1}	WR3 WR2	90.8kg 90.1kg	85.3kg 84.6kg
モーター数		WR3：3モーター+ヘッドレスト WR2：2モーター+ヘッドレスト	
操作		手元スイッチ、ボタン操作	
ベッド本体	ハイローベースユニット リアユニット 主な材質 フロントユニット ボトムユニット ヘッド・フットボード	スチール製・粉体焼付塗装仕上げ・ 合成樹脂成形品・アルミダイカスト成形品 塗装色：ディープブラウン	樹脂ボード：PP 樹脂ブロー成形、木製ボード：MDF 高級木目化粧シート
最大利用者体重		138kg	
安全動作荷重		174kgf (1700N) ^{※2}	
最大マットレス厚		17cm ^{※3}	
頭上げ	傾斜角度 昇降時間	0～30度、0～50度の2種類 速い：約10秒、普通：約12秒	
背上げ	傾斜角度 昇降時間	背ボトム：0～70度 速い：約21秒、普通：約27秒	
膝上げ	傾斜角度 昇降時間	WR3=0～45度 / WR2=0～30度 WR3=速い：約12秒、普通：約14秒 / WR2=背上げと連動	
高さ調節	昇降距離 昇降時間	42.5cm 速い：約47秒、普通：約59秒	
動作保証条件		10～40℃ / 30～75%RH	

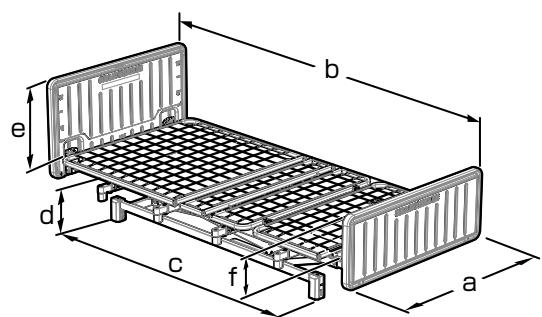
※1 ユニットごとの質量は33、34ページを参照

※2 最大利用者体重とマットレスやオプションを含めた重さ

※3 JISに適合する最大マットレス厚

電 器 品	モーター形式	リニアアクチュエータ (DC モーター)
	電源電圧、周波数	AC100V 50/60Hz
	消費電力	170W
	待機電力	約 1W 以下
	連続使用時間	約 2 分 (休止 18 分)
	動作音	65dB 以下

■各部の寸法



※a～f の寸法は、上記表に記載しています。

項目	箇所
a 全幅	最大外径寸法(サイドレールホルダー使用時)
b 全長	最大外径寸法
c 脚座間の長さ	脚座の中心間長さ
d ボトムの高さ	ゆか～ボトム間(最低高さ～最高高さ)
e ヘッドボード高さ	ボトム上面～ヘッドボード上端
f フットボード高さ	ボトム上面～フットボード上端

MEMO

こんなときは

MEMO

MEMO

保証とアフターサービス

修理を依頼されるとき

故障した際は、お買い上げ販売店もしくは弊社カスタマーサポートまでご連絡ください。

■連絡していただきたい内容

- 品名、品番
- 故障・異常の内容(できるだけ詳しく)
- お買い上げ日
- お名前、ご住所、電話番号

■修理を依頼される前に

修理を依頼される前に、今一度この取扱説明書をよくお読みください。それでも異常のある場合は、お買い上げ販売店もしくは弊社カスタマーサポートにご相談ください。

■保証期間内は

保証書の記載内容に基づき無償で修理いたします。ただし、保証期間内でも修理が有償になる場合があります。詳しくは、下記の保証書をご覧ください。

アフターサービスについてご不明な点

お買い上げの販売店もしくは弊社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

保証書

このベッドには保証書を添付しています。「販売店・購入日」などの記入をお確かめになり、記載内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

保証書

品名／品番	在宅介護向け電動ベッドEmi WRシリーズ	保証期間	お買い上げより1年間
お客様	お名前 〒 住所 TEL	販売店	お買い上げ日 年 月 日 販売店名 住所 TEL

1.1年間の保証期間に取扱説明書に従った正常な使用状況で故障した場合には、無償修理致します。

2.保証期間内でも次の場合は有償になります。

- ①使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および破損がある場合。
 - ②お買い上げ後の落下による故障および破損。
 - ③火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧による故障および破損。
 - ④本書の提示がない場合。
 - ⑤本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店の記入がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 3.本書は国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
- 4.本書は再発行いたしませんので紛失しないようご注意ください。

※販売店さまへのお願い… お買い上げ日および販売店名、住所、電話番号を記入、捺印したうえでお客様にお渡しください。)

修理、お取り扱い・お手入れなどのご相談は、
まずお買い上げの販売店、レンタル取次店へお申し付けください。

10月1日は福祉用具の日

カスタマーサポートお問い合わせ窓口・・・ **FreeCall 0120-20-1001**



シーホネンス株式会社

札幌/仙台/東京/神奈川/名古屋/大阪/高松/広島/九州/南九州/宮崎/沖縄
本社／〒537-0001 大阪市東成区深江北3-10-17
TEL(06)6973-3471 FAX(06)6973-3440

医療・介護ベッドの最新情報は、シーホネンス・ホームページをご覧ください。 **www.seahonence.co.jp**